

世界の山旅

辺境の旅

「一人では行けない、でも、行きたい。」
それにお応えするのが
実体験に基づいた
アルパインツアーの旅づくりです。

総合ツアーカタログをご請求ください。

ニュージーランド/アルプス街道 の壮大な景色が大冒険! ニュージーランド唯一のスカイライン67000フィートのトレッキング 山小屋まわりのブナの原生林と氷河のマウントクック山麓を歩く

サザンアルプス・パノラマ・ハイキング 8日間

大阪・東京(水・木曜の日本発着を除く)

- 1/20 ●3/2 ●3/16発 ¥478,000
- 2/3 ●2/17発 ¥496,000
- 4/6 ●4/13発 ¥472,000

ルートバーン・トラックとマウントクック 10日間

大阪・東京(水・木曜の日本発着を除く)

- 1/19 ●1/28 ●3/7発 ¥598,000

ミルフォード・トラックとマウントクック 11日間

大阪・東京(水・木曜の日本発着を除く)

- 1/19 ●1/25発 ¥638,000
- 2/5発 ¥664,000
- 3/4発 ¥648,000

ネパール・ヒマラヤ・スカイライン・ハイキング 8日間

大阪・名古屋・福岡・東京

- 2/8 ●2/23 ●3/15 ●3/29発 ¥350,000

アンナプルナ・ダウラギリ・パノラマ・トレッキング 10日間

大阪・名古屋・福岡・東京

- 1/11 ●2/15 ●3/28発 ¥332,000
- 4/4 ●4/25発 ¥345,000

エベレスト・パノラマ・トレッキング 13日間

大阪・名古屋・福岡・東京

- 3/4 ●3/18 ●3/25発 ¥360,000

ナムチャバルワと聖なる湖・東ヒマラヤ大周遊と青蔵鉄道 10日間

大阪・名古屋・東京・福岡

- 1/23 ●2/27発 ¥460,000
- 3/19発 ¥480,000
- 4/9発 ¥516,000

キリマンジャロ ゆったり登山とサファリ 11日間

名古屋・福岡

- 2/9発 ¥562,000

タスマニア島 満喫ハイキング 9日間

大阪・名古屋・東京

- 1/10発 ¥496,000
- 2/23発 ¥498,000
- 3/29発 ¥506,000

世界遺産アンコール・ワット遺跡群と聖山ハイキング 6日間

大阪・福岡・東京

- 1/10 ●1/25発 ¥208,000
- 2/7 ●2/22発 ¥218,000

ベトナム最高峰ファンシーパン登山と世界遺産ハロン湾クルーズ 8日間

大阪・名古屋・東京

- 2/24 ●4/20発 ¥298,000
- 3/23発 ¥306,000

Mt.キナバルゆったり登山とボルネオ島ワイルドライフ 7日間

大阪・東京

- 2/18発 ¥198,000
- 3/24発 ¥208,000
- 4/20発 ¥220,000

アルパインツアーのホームページをご覧ください。 <http://www.alpine-tour.com>

山岳会、ハイキングクラブを企画
ツアーリーダーも同行し、安心の山旅

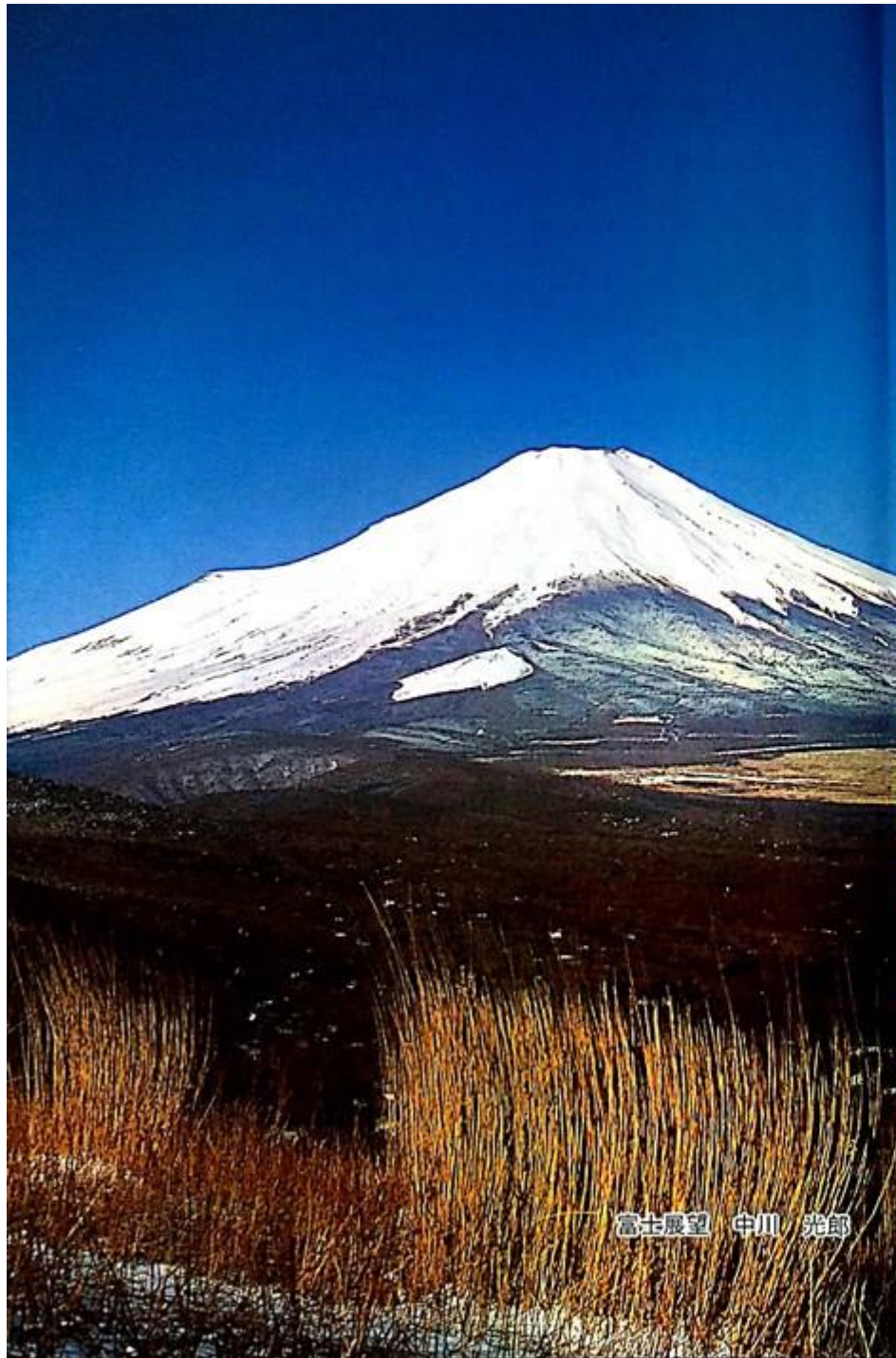
山岳会、ハイキングクラブなどで海外トレッキングやハイキングを企画したい。いつもの山仲間と海外の山歩きをしてみたい、というような場合には、アルパインツアーからツアーリーダーが同行し、ご案内をいたします。旅行プランについては、経験豊富なスタッフにご相談下さい。

出張説明会 山の仲間がお集まりのときに、当社社員が海外トレッキングのライドを上映します。

山仲間とサファリツアーを企画してみませんか。

山岳会、ハイキングクラブを企画
ツアーリーダーも同行し、安心の山旅

山岳会、ハイキングクラブなどで海外トレッキングやハイキングを企画したい。いつもの山仲間と海外の山歩きをしてみたい、というような場合には、アルパインツアーからツアーリーダーが同行し、ご案内をいたします。旅行プランについては、経験豊富なスタッフにご相談下さい。



富士展望 中川 光郎

Photo essay

枝垂梅



題字 中田 闕 石
撮影 由井 収
文 松 永 恵 一

梅林 (大坂城公園)



梅苑 (津市・結城神社)

春がきた?と思うような暖かい日
漂う清らかな芳香に誘われる
紅梅 白梅 咲き乱れる枝垂れ梅
紅 薄桃 白 一重 八重
花言葉は 高潔 忠義 独立
淑郁たる香り 清雅なたたずまい
わが国に渡来したのは八世紀ごろ
宮廷人たちはその妙に魅せられ
競って庭に植えたという

『万葉集』に詠まれた「花見」
酒杯に梅の花浮かべ思ふどち
飲みての後は散りぬともよし
私たちの心に刻み込まれた雅を
呼び覚ます梅の香は しばし
時の経つのを忘れさせてくれる

しだれ梅 (津市・結城神社)





雪雲

季節の



足跡

実景

雪の芦生 (京都北山)

撮影 武市通治

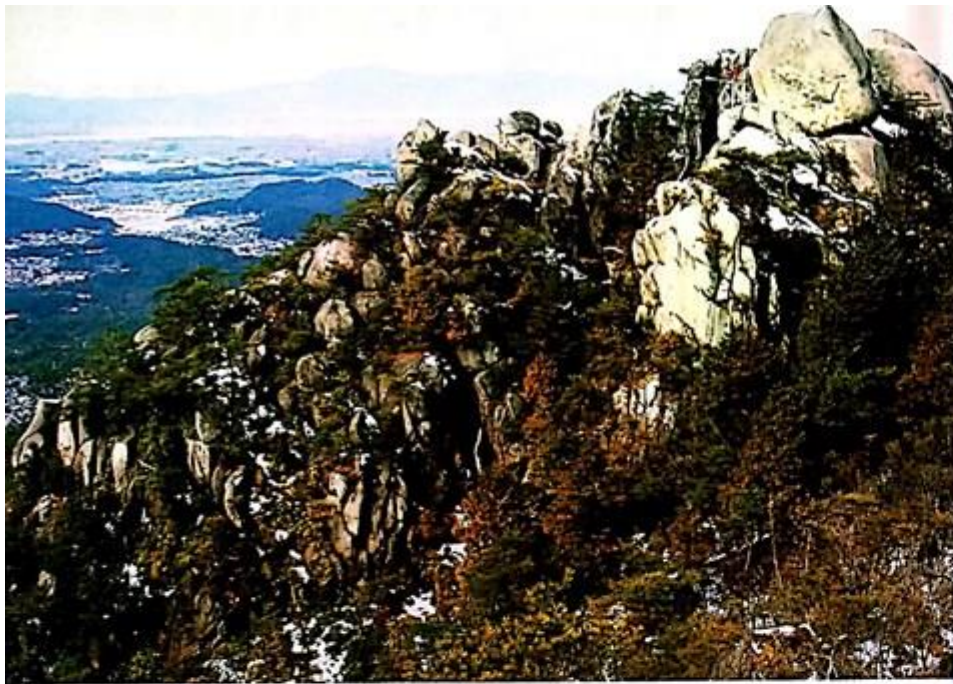
新春



降雪

雪の葎れ





天狗岩（湖南アルプス） 一芝 義雄



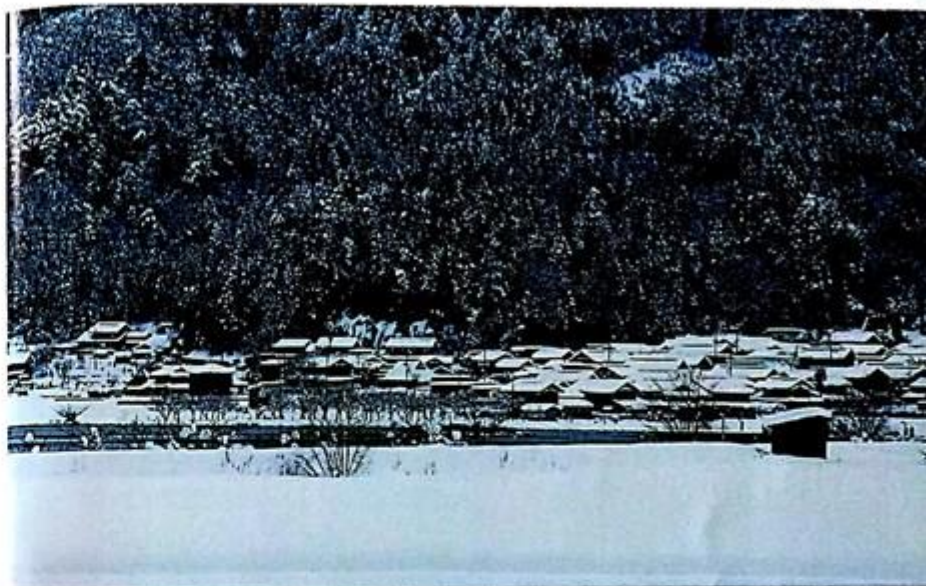
冬めく鎌ヶ岳（鈴鹿・御在所岳より） 武田 誠司

浮島（湖北・今津港より） 山中 茂

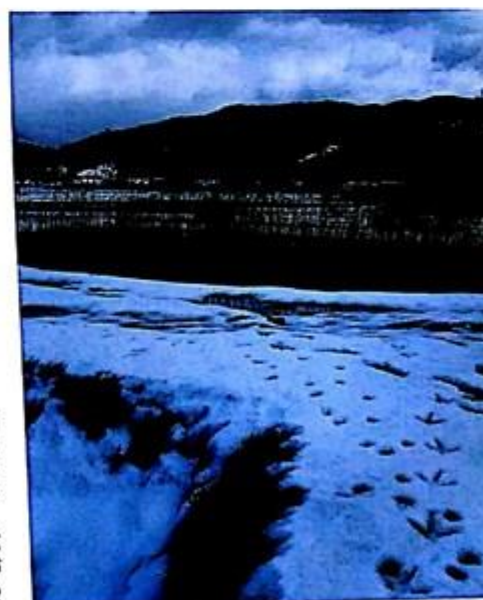


樹氷煌めく（鈴鹿・御在所岳） 武田 誠司



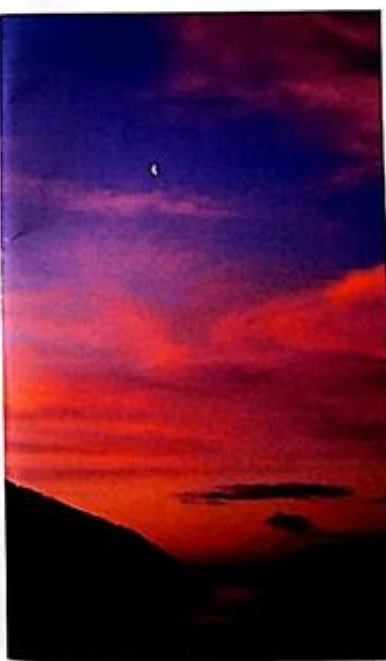


雪の山里(川並)



このフィールドサインは?

菅浦黎明 (つづら尾崎)



このフィールドサインは?

新伴々 関西の山

'08年1・2月 新春 No.88

●目次

表紙: 松田敏男「冬の小白山」(奥美濃)

●作者プロフィール ●1949年、京都市生まれ。京都市立芸術大学卒。1987年より山岳版画、山岳画の個展多数開催。(京都平安堂展、瀬アールプス秋水小展、東京ギャラリー百号、他)山の版画展「光る山山」(神戸、東京新館(原宿)、京都山と野に親しむ会代表、日本山岳協会)

●グラビア

枝垂梅……………	撮影 由井 収	文 松永 恵一	4 2
(口絵) 中川光郎 季節の実景(新春)「雪の芦生」……………	武市 通治		
随想(山のエッセイ)	山中 茂	奥田英一郎	
鞍馬山の由来……………	編本 逸雄		
三重県レッドリストより……………	鷺見 守康		
	藤木 伸人		
	中澤 興博		
	木村 太郎		
	長谷川 雅俊		
	松田 敏男		
	長宗 清司		
	小山 誠次		
	山形 明		
	山田 明男		
	吉見 英樹		
	磯部 純		
	柴田 昭彦		
	松永 恵一		
	西尾 寿一		
	生駒 馨峰		
	高島 伸浩		
	長宗 清司		
	慶佐次盛一		
	金谷 昭		

●紀行

焼額山・寺小屋峰(北信)	24 20 16
稲葉山と因幡三山(因幡)	
冬の御池岳奥ノ平(鈴鹿)	
運載 標高による山の紹介シリーズ 38 △△98 mの山	
運載 奥山(鉢伏山)から権現山(京丹波)	
運載 奥山(鉢伏山)から権現山(京丹波)	
運載 シモン谷道登高(比叵)	
運載 秋山二十六夜山と道志二十六夜山(道志山塊)	
運載 三界山・奥三界岳(東郷)	
運載 韓国登山シリーズ①	
運載 韓流登山ブーム到来か?(韓国)	
運載 三ヶ岳を訪ねて	
井天岳から高野三山(高野)	

●旗振り通信の新研究⑦	49
●九州の旗振り山・総索引……………	
●文学 伊勢の神宮を訪ねて……………	
●「山のレポーター」山の地名を歩く⑨「大尾山」……………	
●「山のレポーター」子年の山……………	
●「山のレポーター」国際珍話……………	
●コース	
①牛松山と三郎ヶ岳(南丹)	74 72 70
②樹原山(中播磨)	
③三角点大日(岩手)	

沿線ハイキングガイド	79 78
せせらぎ……………	83
新ハイサービステーション……………	89
お知らせとお願ひ……………	
新ハイ関西山行計画……………	112 111 101 90
入会の案内・新入会員紹介……………	
編集後記・広告案内……………	

巻頭言

新春、今年も「新ハイ関西の山」をよろしくお願ひします。多くの山に登り、ハイキング・ウォーキングに精出され、いつまでも健康的な心身を祈っています。

山を興味深くしかも楽しんで歩こうと思えば、自分で関連する書物やガイドブックで調べ、事前にその山の知識を得ておくことである。勿論、地図で山の地形や植生を知っておくことも重要。山名の成り立ち、名所・旧跡の有無とその歴史の由来など、過去の記録文なども参考にし、見たいものを知りたいものに興味を持って登れば、漫然と歩いているだけに比べると、やはりどこか違う。リーダーは道案内できても、知識の点では興味趣向がまちまちで、必ずしも参加者の期待に全部は応えられない。

服装・足元・装備品にも細心の注意を払い、各自で工夫したものを着ければ、また楽しい登山となるだろう。

「新ハイ関西」の今年の目標は、正しいマナーと清潔できっちりした服装・装備で、他のハイカーからすばらしい登山グループだと、羨望の目で見られることである。

新ハイ関西(代志) 村田 智俊



随想 (山のエッセイ)



鞍馬山の由来

網本 逸雄

鞍馬山は左京区の西北部に位置し、鞍馬川と貴船川に挟まれた山間の地である。また、延暦十五年(796)創建と伝わる鞍馬寺(本尊・毘沙門天、松尾山金剛寿命院)がある。

中世末成立の『鞍馬蓋寺縁起』(1513)によると、唐僧鑑真の高弟の鑑積が宝龜元年(770)夢告によって草創し、造東寺長官の藤原伊勢人が寺を創建したという。

『鞍馬』は文献上は、平安中期の『後撰集』一一四〇に「昔より鞍馬の山」、「枕草子」一六六段に「鞍馬のつづらをりといふ道」などと出るのが早い例である。

①クラマの由来としては、クラマの由来としては、

同様に崖や谷を意味し、岩場の多い峻険な山とか(本居宣長『古事記伝』、柳田國男・倉田一郎『分類山村語彙』ほか)、朝鮮語の「ゴル」(谷・測)から転訛した説がある。

②木々に覆われていて、いつも暗い所という意味で「暗部(闇部)」の訓みが鞍馬に転じたとする説(吉田東伍『大日本地名辞書』ほか)。

とくに、和歌の世界では「くらぶ山」は歌枕として多く用いられた。歌の詠み方も「暗し」を掛けた。しかし、その場所は山城の中でも、鞍馬山、貴布禰山、嵯峨野あたりと諸説あり確定できない(久保田淳ほか『歌ことは歌枕大辞典』)。

中世の歌学書『能因歌枕』は伊賀とし、『八雲御抄』『五代集歌枕』『和歌初学抄』『八代集抄』は山城とする。しかし、歌学書では、「くらぶ山」は山城国の山であるとはしているものの、

その具体的な場所を特定していない。これらの歌学書では「くらぶ山」と「くらま山」を別の歌枕として立てており、「くらぶ山」と「くらま山」は別の山として扱っている。

近世の地誌類では、『都花月名所』は、暗部山は鞍馬山とする。『都名所図会』、『山城名勝志』などは、鞍馬山の西に位置する貴船山が暗部山だとして混同が見られ、暗部山が鞍馬山のことだとは断定できない。

③白馬伝説が由来とする説。『鞍馬蓋寺縁起』の元になった縁起は、平安末期から鎌倉末期に成立した以下の著作に記載されている。『拾遺往生伝』巻下二、『扶桑略記』扶桑略記抄二、『伊呂波字類抄』六、『元享積書』第二十八、『今昔物語集』巻十一第三十五話など。

『拾遺往生伝』に「藤原伊勢人が常に勝地(通地)を得て堂を建て、観音像を安置したいと

願っていた。あるとき夢告で、貴船明神が北の深山が勝地だと告げる。しかし、その処を知らないで、いつも乗る白馬に鞍をおいて、その地を示せといつて放つと、北山に至った。そこは夢に見たところで、堂を建て、毘沙門天の像を安置した。故に鞍馬寺と号づく」とある。他の書も同じ説話を載せ、白馬に仮託した従来由来説がある。

だが、この勝地については、『拾遺往生伝』は「天下に甲れり。山は三結(三又の金剛作)に似て、雲は五色を乗ふ」、「扶桑略記」は「深山は東西に高く峙ち、中に平地有り、洞水閑流し、直しく壘心(俗界で發れた心を洗う)」、「伊呂波字類抄」は「当山東西高山錯峙、介、兩山之間有平正之池洞水(谷水)閑流宜洗壘心」、「元享積書」は「此地天下に勝れ、山は三結作に似る、常に五色雲出する、汝練若(修行の閑静な通地)等」営むに利益

無量(計り知れない)」、「今昔物語集」は「深き山あり。その体を見るに、二つの山指し出でて、中より谷の水流れ出たり。絵に書ける蓬萊山(霊山の美称)に似たり。山のふもとにそひて河流れたり。翁(貴船明神)いはく、この所は靈験掲焉(あらたむならむこと他の山に勝れたり)とあり、神が現れ仏を祀るのにふさわしい靈験あらたかな山岳として描かれる。

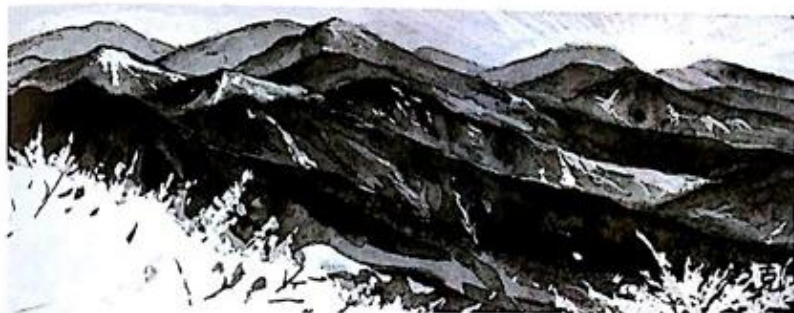
藤原伊勢人(759-827)は実在の人物だが、鞍馬寺縁起は史実として裏づけがない。しかし、この説話が生まれた鞍馬山は山岳修行者にとって神聖な霊山とみなしていたことを物語る。

ところで古代の山岳霊場として七高山が知られる(比叡山、伊吹山、比良山、愛宕山、神峰山、葛城山、金峰山)。毎年春、秋には朝廷が勅使を遣わして五穀豊穡を祈念させた。高槻市と西京

区の境にあるボンボン山一帯は神峰山と称された。

高槻市に神峰山寺があるが、『神峰山寺秘密縁起』(室町時代成立)によると神峰山の開山は役行者と伝える。行者が大和・葛城山で修行していると、北方の峰が金色の光を発しているのので、この山に來たら「峻嶒幽溪、飛仙往來の幽巖、誠に靈応(靈驗)勝地。その時蔵王が紫雲の中から出現し、神の御告げによって当山開闢」したのが神峰山寺という。また、当地の霊木で金里羅童子が毘沙門天像四体をつくり、行者が加持祈禱すると二体は神峰山寺と奥院・本山寺に安座し、他は飛んで行って鞍馬寺、信貴山の本尊となったと記す。

いくつかの縁起には山岳霊場開山を表現する際、このような同じモチーフがみられる。従って鞍馬山は神仏の住む幽山であり、クラは神の座(クラ)す所



随想 (山のエッセイ)

称としても、種名としても使われることから、いささかややこしい問題が生じることがある。自然観察会などで、他のスマイレと区別するため「ただのスマイレです」と解説したら「タダノスマイレ」という名前と誤解されてしまったという話はその例である。このような混同を避けるため「ミスレ」という和名でなく、あえて学名の「マンジュリカ」を用いる場合もある。

すっきりとした姿で鮮やかな濃紫色の花を咲かせるマンジュリカは、スマイレの代表としてふさわしいとはいえないものの、実は個体数は意外に少なく、山歩きではほとんど目にしたことが無い。これまでの山行で記憶に残るのは、伊吹北尾根の数株くらいである。

100種にも及ぶといわれるスマイレの中で、もっとも多いのは淡紫色のタチツボスマイレで、春にはどこの山を歩いてもお目

にかかると、このタチツボスマイレやアオイスマイレなど普遍型の種類を除くほかのスマイレの多くは、居場所を決めて分布しているようだ。

そんなスマイレとの結びつきにより印象に残る山もあり、スマイレの世界の奥深さに気づいてしまおうと、新しいスマイレとの出会いを求めて山に登る、ということにもなってしまうのだ。

スマイレとの結びつきから印象に残る山の一つは、美濃地方の貝月山である。貝月山は花崗岩から成る山だが、案外植物相が豊かで、何とオオバキスマイレが分布している。日本海側に本拠地をもつこの黄色のスマイレは、福井と岐阜の県境の越美山系では普通に見られるが、揖斐の南方に位置する貝月山に分布しているというのには驚きであった。その後、西隣のブンゲンにも分布していることを確認したが、越美山系から遠く隔離分布して

いることからすると、遺存種ののだろうと考えている。

さらに印象的な山は、アケボノスマイレの咲く南信州の戸倉山と守屋山である。

アケボノスマイレは、葉の展開に先立って花柄をのびし、花を咲かせるスマイレサイシン系のタイプで、春、落葉の広がる林床に、魅惑的な紅紫色の花弁をもたげている有様は、スマイレの中でもとりわけ華やかな雰囲気をもっている。

初めて遭遇したのは戸倉山で、その色香に満ちた風情にドキッとしたことを覚えている。

その翌年の守屋山では、黒紫色のワインレッドの色合いをもった種を数株見つけた。その異様なまでの鮮烈さにはずいぶん驚かされたものだったが、それがクロバナアケボノスマイレとの出会いであった。

植物の中には、太平洋側と日本海側とにすみ分けているもの

を意味する。神の住む霊地は、東西に山がそびえ、その鞍部に谷水が静かに流れていた。

国土地理院二万五千分一図「大原」を見ると、鞍馬川と貴船川合流点上流は鞍馬川源流を挟んで西に鞍馬山(570m)、東に竜王岳(500m)の険しい脊梁が南北に走る。今から二億五千年前この付近は海底で海底火山の溶岩が流れ込んでいた。有名な庭石用の貴船石は噴火でできた石であり、石灯籠の石材・鞍馬石はマグマが固まった石である。今も貴船から芦生峠へ向かう道には枕状溶岩がみられる(地学団体研究会京都支部「京都五億年の旅」)。

鞍馬山一帯はこのように周辺の山と異なり溶岩で形成された険しい山である。

では、なぜ「座」を「鞍」で表記するのか。国語辞書「倭調琴(谷川土清)に「くら 座をよめり。鞍も座の義なり」とあ

る。鞍も高い所に設けられた場所の意味である(時代別国語大辞典上代編)。「座」は物を置く棚という意味だが、同源の語である鞍は、馬の背に台を置いて用いる。古くは、普通、道具の鞍は「クラオク」で、鞍馬は「クラオキウマ」と訓んでいた。「類聚名義抄」に「鞍 クラオク」、「日本書紀」天武元年(672)六月二十四日条に「(粟田)犬養連鞍馬(クラオケルウマ)に遇い、因りて御駕(ミノリス)」、「書言字考師用集」に「鞍馬 クラヲキウマ」、「日葡辞書」に「Curauoki vma クラオキウマ(鞍置馬) 鞍をつけた馬→amba」などがある。

つまり鞍馬(クラマ)は、神の住む山岳霊場の地形を鞍置馬に例えたもので、その約語(オク)の略とみられる。なお、「鞍馬蓋寺」の鞍馬蓋は、鞍で蓋った馬をいう。

萼 (スマイレ)

驚見 守康

サクラは、日本人がもっとも親しむ花であり、いわばわが国を代表する花ともいえる。けれど「サクラ」という種名をもった樹木は存在しない。

サクラとは、ヤマザクラやエドヒガン、あるいはソメイヨシノなどサクラ類を総称する呼び名として使われており、バラ科サクラ属を指しているともいえる。アザミなど、他にもこうした呼び方があるのだ。

スマイレの場合は、少し事情が違っている。スマイレ科スマイレ属全体を総称する呼び名として使われる一方で、「ミスレ」という種名をもつ野草も存在する。スマイレ科スマイレ属スマイレのことである。

「スマイレ」という呼び名が総



随想 (山のエッセイ)

絶滅が一種 CR II 危惧 IA 類・九九種、EN II 危惧 IB 類・一八六種、VU II 危惧 II 類・一七六種、NT II 準絶滅危惧・九一種、DD II 情報不足・五五種、計六四二種である。

その数は三重県産種数約三〇〇〇の実に21%にも相当し、(絶滅危惧種 CR + EN + VU は15%) これらの約3分の1、二〇四種は、国のレッドリスト種でもあることがわかった。

95号で報告した中でDDだった五種については、次の通りである。

- ・ユキモチソウはCR。既知の生育地は5地点以下。場所は非公表。
- ・フジバカマもCR。1地点。私が見たのは同地点ではなく栽培された種の逸出かも。
- ・キンランはVU。確認は15地点以下。場所は非公表。
- ・クマガイソウもVU。10地点以上であるが、場所は非公表。
- ・キキョウはNT。約15地点。

国の基準では五種ともVU。かつて私が見たノコギリソウ(鈴鹿山系、ユキヤナギ(松阪市飯高)、ギボウシラン(松阪市他)は、DDとなっていた。

この夏、私が初めて出会った稀少種が二つある。アサザ(CR、国VU)は、多気町のとある人工池で多数開花していた。マメナシ(EN、国CR)も、多気町で一本見ることができた。普段食べ慣れた梨そっくりで、径1.5cm程の実が成っていた。

驚いたのは、家の庭に自然に生えてきて花開いたカラタチバナ(NT、10地点以下)とオグルマ(NT、10地点以上)がリストアップされていたことである。また、人からもらったシラン(NT、国も)、エビネ(NT、国VU)、セッコク(NT)も、人家にはよく見られるが、自生のもは激減しているようだ。

他にも同様だと思うが、国のレッドリストランクよりも絶滅

の危険度が高い種がある。(その逆の種も) さらに、あえて種名は出さないが、三重県のみにはか自生していない種も、いくつかある。

個人による鑑賞および営利目的の採取、山林伐採・林道整備や河川改修に伴う生息適地の消滅などが、現在の状況を招いていることに疑いの余地はない。

これらの、人為的原因による減少および絶滅は、良識ある人の手で、未然に防がなければならない。どんな山野草でも根こそぎ持ち去るような愚挙は論外であり、現状がどれほど危機的な状態にあるかということも、多くの人が認識し、行政に対して、現状保護、監視を要請していかなければならないと思う。

できるだけ大勢の山を愛する仲間が、これから先も山野の草木を眺めてほっと息をつけるように、声をあげてほしいと願ってやまない。

があり、スマイレにもそんな例がある。

アケボノスマイレの仲間のスマイレサイシン類である。スマイレサイシンは日本海側に住むスマイレで、岐阜・福井・長野各県の山を歩くことの多い私には見慣れたスマイレであるが、越前の浄法寺山では、目も覚めるばかりの見事な群落を見た。

スマイレサイシンに対し、太平洋側にはナガバノスマイレサイシンが分布している。ハート型の薄い大きな葉のスマイレサイシンに比べ、ナガバノスマイレサイシンは明らかに細長い。東海地方では鈴鹿の藤原岳が有名である。

この日本海側のスマイレサイシンと太平洋側のナガバノスマイレサイシンの間にあって、アケボノスマイレは内陸型のスマイレといえるのだろう。

スマイレの咲く印象的な山は、まだまだいくつもある。

美濃の山には、アケボノスマ

レの華やかさに匹敵するシハイスマイレが多く、斑の入った気品のある葉も愛されている。

スプリング・エフェメラルの咲く、花の山として名高い舟伏山は、スマイレサイシン・マルバスマイレ・タチツボスマイレ・ニョイスミレ・エイザンスミレなどスマイレの宝庫ともいえる。

静岡の山の太平洋側ブナ林の林床には、白いシコクスミレやヒメミヤマスマイレが分布する。

山梨の甘利山の山頂には、スマイレの中の女王といわれるサクラスミレばかりが点々と咲き、長野の霧ヶ峰には、シロスマイレ・サクラスミレ・アカネスマイレが咲いていた。

春山を彩るスマイレは、私の山行を常に印象深くする花である。そんなスマイレを求めて、いつまでも山を歩きたいと思うのである。

三重県 レッドリストより

藪木 伸人

本誌95号で絶滅危惧植物について述べ、現状確認の遅れを指摘したが、その後、「三重県レッドデータブック2005」(06年3月発行・二分冊)を知り、早速入手した。これは、動物編四九八頁、植物・キノコ編五三四頁から成るもので、大勢の方の踏査と多数の記録をもとにした労作だった。

そこで、わが三重県における稀少な山野草の位置づけを確認した。

本県では、残念ながらEX II 絶滅とされているものが、維管束植物に限っても三四種あった。ムラサキ・サルメンエビネ(国EN)、オキナグサ・キセワタ(国VU)等である。EW II 野生

厳冬の志賀高原をスノーハイイク

焼額山・寺小屋峰

中澤 與司博

北信

2月10日(晴れたり曇ったり)

志賀高原は言わずと知れたスキーのメッカ。スキーで何度も訪れたことはあるが、今回はスノーシューで歩くことにした。同行者は新ハイ会員の内田氏である。

宿泊地の発熱温泉より奥志賀行きのシャトルバスに乗り込む。バスはいつしか満員状態となり、高天ヶ原、一ノ瀬、焼額の各スキー場に停車しながら、目的地の奥志賀スキー場ゴンドラ前で下車。ゴンドラに乗りし、1960㍉地点までの標高差480㍉余の空中散歩を楽しむ。

山頂駅で早速スノーシューに履き替え、樹林帯へと入って行く。寒さは感じない。周りはスキーヤーばかり、怪訝そうな顔

でこちらを見ている。シラビソ・コメツガの樹林帯にはバージンズスノーの世界が広がっている。ツボ足だと深く踏み込んでとても歩行なんてできないが、スノーシューなら快適に雪面に食い込み、トレースだけが後に続く。焼額山(2006㍉)山頂を目指し、ゲレンデから離れ過ぎないように注意しながら高度を上げる。小1時間で山頂付近に広がる雪原(稚児池)の一角に飛び出た。

平坦な雪原の中央には、竜王山へのコース案内板、稚児池の表示板、鳥居も見られたが、半分以上が雪の上に出ている。雪の多い年なら鳥居の最上部が少し顔を

方向にくだればいいのであるが、積雪が少なくブッシュと吹き溜まりに行く手を阻まれ、予想以上に時間を費やす。標高が下がるにしたがい雪質にも変化が生じ、パウダーから湿雪へ重い雪となってくる。重い雪の登高は大変である。スノーシューにままとわりつく雪は重くて仕方ない。10

歩歩いてはひと息入れまた10歩進む、苦しい登りが続き、やっと一ノ瀬方面のホテル街が見渡せる山頂部に着いた。後はこの斜面をくだるだけである。傾斜20㍉、10度程の湿雪の斜面をくだり、車道へと出た。

バス発車まで少し時間があり、歩いてきた焼額山からここまでの山並を目で追いつながら感慨にふけった。宿の温泉に身を委ね、明日の活力とする。

2月11日(吹雪)

昨日は柔らかい日を浴びての行動であったが、今日は一転して厳冬の天候で移り変わりが早い。雲が低くたれこみ、休みなく雪が舞い降りてくる。

焼額山山頂



んの弁。山頂付近でひと時を満喫した後、一ノ瀬に向かって行動開始である。雲さえ無ければ、東側には岩菅山をはじめに信越の山、西は妙高・北アルプスが眺められるはずであるが、今日はその姿を見ることができない。

一ノ瀬へは、アップダウンがいくつもあるコースで、一つ越えたと思えばまた一つ行く手にピークが現れる。南南東の

今日は、寺小屋峰へ行ける所までの予定である。東館山ゴンドラ駅のお姉さんから「スノーシューですか、お気を付けて!」と心温まるお声。年配のスキーヤーとは、スノーシューのこと、スキーのことが話題となり、スノーシューがまだまだ一般的でないと感じる。彼らは高天ヶ原から一ノ瀬へ滑降すると言う。ほどなく山頂駅に到着し、お互いの今日は無事と健康を称えて別れた。駅近くには「山は万人共有の財産である」との表示板がある。

まずは寺小屋スキー場を目指し、東館山(1994㍉)まで登る。神社の鳥居を潜りシラビソ林へ、しばらく登ると二つ目の鳥居が現れ、その脇の急斜面をパウダースノーにトレースを残しながら進む。雪は相変わらず降っているし風も出てきた。山頂らしき所に立つが何も見えない。ホワイトアウトである。スキー場の地形を頭に描きながらの行動である。

この地点より東方向に寺小屋スキー場が時折見え、リフトを目標に急な斜面を下りて行く。急斜面のトラバースでは雪に足を取られ転びながら、わずかばかりの灌木が残る所へとやっと取り付く。ス



焼額山・寺小屋峰付近略図



寺小屋峰の樹間

これから東館山までの急斜面を登り返し、発噴温泉までの歩行が残っている。どこをどう歩こうと自由である。とは言うものの林道が主体である。スキーヤーの脇を時折ショートカットしながらの雪上散歩。今日一日の行動を振り返りながら、身も

り上がりが別世界をつくりだしている。きれいだ、思わず心の中で叫ぶ。シラビソはいつばいい雪を付け、寒さに耐えている。
「寺小屋峰 0・5km」の標識が足下に現れた。あと0・5かかと安堵し、歩を前へ前へと進める。右側には尾根が見えていたが、灌木に阻まれ容易に近づけない。
どれほど歩いただろうか、山頂が見つかからない。0・5の長さをあれこれ考えながら、気がつけば21255の寺小屋峰山頂を通り越して、金山沢ノ頭に立っていた。樹林帯のなかに案内表示板があり、直進すれば岩菅山、右にれば赤石山と教えている。時間的にもこれ以上の

前進は困難で、来た道を引き返すことにする。
寺小屋峰の山頂部を探しながらくっついて行く。それらしき所が樹林のなかに確認できたが、取付点が見つからず断念した。風は相変わらず強く、登りのトレリスが消えている。周りは同じような風景で、またしても不安がよぎる。見覚えのある風景やわずかばかり残ったトレリスを頼りに前進する。
下りは驚くほど早い。ガスのなかに、ふと周囲が開けてきたなと思えばそこは、スキー場の上部であった。樹林帯のなかに周りを眺め、燃きつけながらくっついて行った。
暖かいレストランで遅い昼食。ご褒美は、生ビールとショートケーキの組み合わせである。

▲コースタイム▼
(10日) 発噴温泉(シャトルバス35分)
奥志賀ゴンドラ前(ゴンドラ7分) 山頂(50分) 焼額山(45分) 1921 地
点(1時間30分) ノ瀬(シャトルバス25分) 蓮池(ロープウェイ8分) 発噴温泉
(11日) 発噴温泉・東館山ゴンドラのりば(ゴンドラ6分) 終点(35分) 東館山(2時間10分) 寺小屋峰(30分) 金山沢ノ頭(1時間30分) 寺小屋スキー場上部(30分) 東館山(1時間40分) 発噴温泉
△地形図▽2万5千Ⅱ岩菅山

スキー滑降では30度位の斜面は何ともないが、歩くとなると足がすくんでしまう。スキー場のレストランで小休止をとり、これからの行動を考える。



だが不安もよぎる。方向は間違いないか、行き止まりになりはしないか、尾根芯を外れてはいないかと。目の前には雪の造形がどこまでも広がり、吹き溜まりの盛

さあ、いよいよ寺小屋峰の登りである。ゲレンデを避け、再び樹林帯のなかへ歩き出す。この付近はダケカンパ・ササが多く見られ、褐色の樹肌が雪の白さに映えている。吹き溜まりに思わず行く手を阻まれ、迂回。そんなことを幾度と繰り返して登高が続く。ゲレンデでは、回転競技をやっている。ありし日の自分の姿を重ね合わせてしばし見入る。
雪質は申し分なく順調に高度を稼ぎ、リフト降り場近くに出る。シラビソ林のなかに取り付けそうな斜面があり、そこから登ることにする。気がつけば風は強くなり、ガスが視界を遮る。樹林帯のなかをルートを選びながら、白い魔物が住む世界へと引き込まれていった。
トレリスが無いのは良いことだが不安もよぎる。方向は間違いないか、行き止まりになりはしないか、尾根芯を外れてはいないかと。目の前には雪の造形がどこまでも広がり、吹き溜まりの盛

東館山の表示板

人気商品紹介

◆ウォーキングライト◆

オリジナルザック & 登山用品専門店

神戸ザック

http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac

クライミングからハイキングまで使えるシンプルなデザイン。トップとフロントに大型のポケット、両サイドには、ストック等の収納に便利なワンドポケットを装備。軽量化と機能性を追求した日帰りから一泊用のノンフレームのNEWザックです。

☆26/☆

- ・カラー フルー×ネイビー・レッド×ネイビー
- ・素材 ナイロン・リップ
- ・重量 820g
- ・価格 ￥10,500

イモック山遊行くらぶ
春夏秋冬、季節を気にせず、里山・低山・名山を訪ねます。
お気軽に御参加下さい。

イモックと
登山して下さい

IMOCK.

KOBÉ

〒653-0038 神戸市東灘区日吉町3丁目1番30号
カナヅビル2F
TEL (078) 621-5851
FAX (078) 621-3528
営業時間/10:00-20:00 毎日日本郵便

詳細はお問合せ下さい。

『万葉集』歌枕紀行

稲葉山と因幡三山

因幡

木村 太郎

『万葉集』の特徴として、初期は勅撰集、後期は大伴家持の和歌日記の体裁で編纂されている。「万葉集最後の歌」は、天平宝字三年（759）正月一日、因幡守に任じられた家持が因幡国庁で詠んだ歌である。

新しき年の初めの初春の
今日降る雪のいや頻け吉事

（巻二十、4516）

「新しき年の春の初めの日に、頻りに絶え間なく降る雪のように、吉い事ばかりが続いてくれたら」と、祈りの心で詠まれている。かねてからの私の望み、万葉集終焉の地（鳥取県岩美郡国府町〈現在鳥取市に併合〉）を訪ねた。

や本陣山（太閤ヶ平）への自然歩道コースも図に記されている。

稲葉山へは幅広い舗装路で車でも山頂まで行けそうであった。少し興ざめしながらも初めての道を緑の景色を楽しんで歩く。鳥取藩主池田家墓所の分岐を左手に見て、さらに登れば七宝水と呼ぶ水場に出る。古びた水場の裏手に七宝神社への細い山道が見えたが、やぶに覆われて



大阪を早朝に出たので国府町総合支所で車を止めた時、まだ扉は閉じていた。役場で観光パンフを手に入れた後に、万葉集史跡めぐりをする事にして、先にもう一つの目的、駐車場の北方にある稲葉山へ足を向けた。

武田祐吉探沢の「風土記逸文」には、「風土記ニハ稲葉ナリ、アヤマリテ因幡トス」の指摘があり、元々因幡の国名は稲葉であった。「古事記」には稲羽とあるが、稲葉山は古い国名を冠した山名なのであろう。

付近流域が万葉河原と呼ばれる袋川沿いに県道を西進し、宮ノ下公民館前を通り過ぎ北へ歩く。登山口の因幡一宮宇

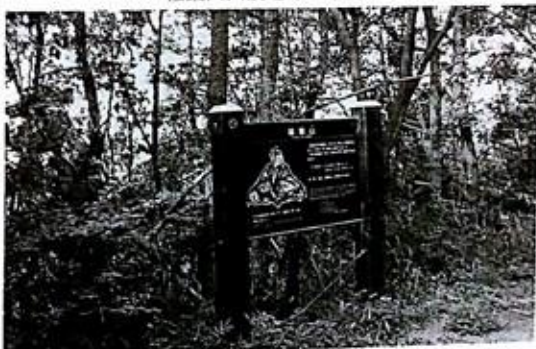
いたので見送った。

登り一辺倒の道の傾斜がゆるんで高原風の道になり、ジャガイモ畑が現れる。白い花と紫の花が見られ、男爵とメークインの両方を育てているようだ。花の蜜に誘われ大きな蜂が飛んで来たのであわてて首筋にタオルを巻いた。国府町の特産品は、巨峰葡萄や夏大根と共に山の芋が知られる。山の芋は万葉集に出てくるが、稲葉山のジャガイモも昔から栽培されていたのだろうか。耕作地のジャガイモの種は北海道から取り寄せている。

田畑を抜けて稜線の高台に立つと、北西に久松山と本陣山が青空を背に姿を見せていた。稲葉山とおぼしき緑の高みを目指し、山頂部へ進んだが、地道に変わったものの山頂へは近づかない。冠を振り袍を着けた王朝風の貴公子の絵が描かれた稲葉山（248・9辺）の案内板に出会えただけである。

大伴家持から百年程の後、高衡二年（855）に因幡守になった在原行平の「いなばの山」の歌と絵姿が案内板に書かれている。都を離れるにさいして、送別の宴で詠まれたものとも、愛する女性

稲葉山山頂近くの案内板



倍神社に着く。今井似閑探沢の「風土記逸文」に、「宇倍山の麓に神の社、是は竹内宿禰のみ霊なり」とあり、景行天皇から仁徳天皇まで五代を生きた、竹内宿禰をまつる古社のようなのである。

宇倍神社の境内を抜けた所に中国自然歩道の道標板が立ち、国府町美敷から岩美町岩常まで抜けるコースの案内がある。鳥取県庁前から歩く、久松山（鳥取城跡）

に贈ったものとも伝わる歌である。藤原定家の「小倉百人一首」に選ばれよく知られている。

立ち別れいなばの山の峰に生ふる
まつとし聞かば今帰来む

（古今集巻八、365）

「あなたと別れ因幡の地へ旅立つが、稲葉の山の峰に生えている松にならんで、（あなたが私を）待つと聞いたら、いますぐにも帰って来よう」と詠む。「因幡」と「いなば」、「松」と「待つ」の言葉が掛けた、離別の巻に選ばれた洒落っぽい歌である。

歌に熱中していた越中時代の伴家持は、二上山や立山など山の名歌を残している。因幡時代の家持には、「万葉集最後の歌」一首のほか因幡の歌はなく、稲葉山も詠まれていない。万葉集歌枕にはないが、「古今集」で藤原定家に、「金塊和歌集」で源実朝に詠まれ、在原行平の歌を本歌として、稲葉山の名は歌枕として定着した。

地形図には道東側に三角点が記されているが、道標どころかテープも無いので山頂への取り付きがわからない。登り口を探しつつ山道を進むものの、雄木が茂



因幡国庁跡から面影山

家持の義母である坂上御女が、都から家持を思い詠んだ歌で、後の平安時代の選集に収められている。南北朝の時代に、面影山は夫木和歌集にも詠まれている。美しく老けない八百比丘尼の伝説が

まぶしい青空と緑の芝生、明るい史跡公園のあずま屋でお弁当を開いた。都で佐保大路に邸宅を構えた家持は、ふるさと佐保山の暮らしを懐かしみ、面影山を国庁から眺めていたのではなからうか。わが背子は面影山のさかいまにわれのみ恋ひて見ぬはねたましも

(古今和歌六輯、巻第四)

▲コースタイム▼
国府町役場(10分) 宇倍神社(10分) 七宝水(45分) 稲葉山標識(25分) 在原平塚(25分) 稲葉山標識(45分) 宇倍神社(10分) 国府町役場(10分) 大伴家持歌碑(10分) 因幡万葉歴史館(20分) 因幡国庁跡(10分) 国府町役場
▲地形図▼2万5千＝稲葉山



在原平塚

り放題で登頂道が見つからない。山頂を踏めないままに、ふたたび舗装路に変わった道は、ゆるやかにくだりだし、夢草庵の前を通る。

稲葉山の古道を見守る「道標地蔵」が、長年の疲れのためか道端に寝転がっている。さらに進んだ先に、「在原行平塚」へ導く道標が見えた。稲葉山頂には立てなかったが、その代りに行平塚の岡上に

悲しい。

「万葉集最後の歌」が詠まれる半年前の7月5日に、因幡守に赴任する家持を送る。親しい仲間たちとの宴席における歌である。「花をかざさず別れる」という表現は、生き甲斐であった歌から決別する気持ちの表れのように読める。大伴家持歌碑の地から、因幡万葉歴史館に廻るが、あいにく休館日だった。や

登った。稲葉山頂に未練を残しつつ、山から引き返した。帰り着いた国府町役場から、袋川に架かる因幡橋を渡り、史跡めぐりを始める。大和三山を山陰に移したような、因幡三山の甌山(1000m)を東に見て、今木山(89m)のある南へ歩く。竹内宿禰が因幡国に入った時、甌山にこしき(米などを蒸すのに用いる器)を据えて兵士を労ったので、甌山の名が付いたと伝わっている。

今木山は大和の国吉野に同名の山があるが、万葉集の今木山は、因幡の今木山の可能性がある。渡来人の新漢人が帰化して技術を広めた地の、新来の族、すなわち土着の民に崇拝され今木の神としてまつられた山であったのかもしれない。藤波の散らまく惜しみほととぎす今城の岡を鳴き越ゆるなり

(巻十一、1944)

藤の花は山野に自生するつる性植物である。万葉時代すでに、家々の庭で栽培され愛されていた。万葉集には藤の歌が27首もある。詠み人知らずの歌であるが、国府町出身の川上貞夫氏は「因幡のふるさと」で、因幡国庁に三年余を過ごし朝

むなく因幡三山の面影山(1000m)の方向、西に向けて国庁跡へ歩いた。冬は根雪が占める田園地帯を通り、日本海寄りのさびしい風土に身を預ければ、家持の素淡孤立した心境さえ想像されるのである。

国指定史跡で公園として整備された因幡国庁跡は、正殿跡・後殿跡・南門跡などが残されている。因幡国庁跡から見る面影山は、女性的なやさしい雰囲気の小山に見える。なだらかな山容は、大和三山でいえば天香久山の姿に似ているといえようか。

まぶしい青空と緑の芝生、明るい史跡公園のあずま屋でお弁当を開いた。都で佐保大路に邸宅を構えた家持は、ふるさと佐保山の暮らしを懐かしみ、面影山を国庁から眺めていたのではなからうか。わが背子は面影山のさかいまにわれのみ恋ひて見ぬはねたましも

(古今和歌六輯、巻第四)

家持の義母である坂上御女が、都から家持を思い詠んだ歌で、後の平安時代の選集に収められている。南北朝の時代に、面影山は夫木和歌集にも詠まれている。美しく老けない八百比丘尼の伝説が

夕今木山を眺めていた家持が、この歌のやさしい調子に心ひかれ、万葉集に収めたと推察している。

国府町「庁の集落」の一隅に、三角形をした今木山の歌碑、長方形で家持の「万葉集最後の歌」の歌碑がある。「万葉集最後の歌」の日から数えて1200年を記念した、佐々木信綱の歌碑もそばにある。「ふる雪のいやしけ吉事ここにして、うたひあげむ言ほぎの歌」と読みとれた。

大伴家持の歌碑に向かい、歌人の心を思いやるが、鳥取の名木百選「庁のムク」のそばで、石碑は何も語ってはくれない。なぜ因幡の雪景色を最後に、家持は歌わぬ歌人になってしまったのだろうか。陸奥の地多賀城で延暦四年(785)に没するまでの間、その後25年余の足跡が文献に記されているのに。

秋風の末吹きなびく萩の花
共にかざさず相かれむ

(巻二十一、4515)

「秋になると風が葉先を吹きなびかせる萩の花よ。その花を一緒にかざして遊ぶ季節を待つことなく、ここでお互い別れねばならないのでしょうか」の歌意も物

伝わる面影山は、古来よりロマンを秘めて眺められていたのであろう。

扇ノ山を源とする袋川に立ち戻り、中郷橋を渡り町役場に帰った。万葉河原に帰り着けば、水清らかな美しい川岸からも面影山の姿が見える。袋川は鳥取市内で千代川と合流し、日本海に注いでいる。大伴家持の「万葉集最後の歌」は、古今和歌集につながり、現代短歌にまで及んでいる。42歳で家持の歌心は燃焼しつくしていたのだろうか。家持が青春を賭した万葉集、その書物を閉じた心は謎のままである。(平成18年5月22日歩く)

大失敗山行 其の一（ガスが無い！）

冬の御池岳奥ノ平

長谷川 雅 俊

鈴 鹿

御池岳奥ノ平



久しぶりにテント泊山行にでもと、正月の3日〜4日、御池岳へ出かけることにした。年末年始にかけて何かと忙しく、2日は年始に来た弟家族が夜9時半頃帰ったので、それから準備する。

50肩のザックにテント・ガソリンコンロ・寝袋などを詰め込んで、車に飛び乗る。鞍掛林道のゲートに0時13分到着。

一服してから寝ようと思ったのだが、車内で使うランタンを忘れてきたのでそのまま眠る。

朝5時起床、テルモスも忘れてきたのに気づき、車内に置いてあるフタ付の真空マグカップに白湯を350cc入れる。慌てて準備したので忘れ物だらけ。

は「犬返橋」「犬返谷」とプレートが埋め込まれている。しかし、西尾寿一著『鈴鹿の山と谷』には犬帰シ谷と記載されている。それ以外でも、奥村光信氏の絵地図、山口兄弟のAGガイド、近藤郁夫氏の御池本などがやはり犬帰シ谷となっている。どちらでもよいことかもしれないが、何となく引っかけ。

7時07分、犬帰シ谷の次の小さな谷に到着。小尾根を挟んで二つの谷があるが、右の谷に入渓する。この谷は昨秋、初めて下山に使用したのだが、黄葉がすばらしくまさに錦秋のプロムナードという感じでもっとも気に入った場所の一つとなっている。ここなら80歳を過ぎて歩けるので、記憶に留めておこうと思っている場所である。

ゲートから鞍掛峠までの主だった谷はひと通り入っているのだが、まだまだ未知の小さな谷がたくさんある。昨年最後の山行で5200標高点にて出会った近藤郁夫氏と共に入った、寒山北西の小さな谷は大したことはなかった。これだけは入渓するまでわからない（本来は奥村水場谷へ下りる予定だったが、間違えてしまった……ガッカリ）。

5時53分、まだ暗いなかを歩き出す。ザックがいつもの日帰り山行と違いかなり重い。今冬は暖かく、路面も凍っていませんでしたので安心する。風もなま暖かく汗が出そうなので、ネックウォーマーや帽子は外し、手袋もインナーとアウトターの二重にし、ミドルはポケットにしまう。曇り空なのに思いのほか明るいのでヘッドランプを消して歩く。周りでガサゴソと物音が聞こえてくる。たぶんイノシシではなからうか。以前、テンが猛スピードで小生に突っ込んできて、ぶつかると思った瞬間、足をすり抜け、肝を冷やしたことが思い出された。

6時10分、旧道出合下。6時35分、旧いざ入ってみると、雪が深く歩きづらいつらいつら、あのすばらしい黄葉も終わって、つまらないので左岸尾根を攀じ登る。7時21分、5055で尾根芯にのる。223度に登って行くが、途中、見覚えのある大岩を谷の右岸に見る。昨年、この大岩をアクセントとして黄葉の景色を撮り、フカフカの落ち葉の上を谷底まで滑り下りたのである。

5705で斜面がきつくなり、足元がズルズル滑るのでアイゼンを履く。ふと気づいたのだが、周辺は見渡す限り全く植林されておらず、明るい二次林である。もっとも夏季は、うっそうとした樹林帯となっているが。

7時54分、高度6110にて、寒山の横から太陽が昇る。思わず両手を合わせ、今までの安全山行の御礼と今年一年の無事をお願いをする。

8時11分、6955にて台地にのると、目の前に植林帯が広がり、行く手を阻んだ。ちょうどクランク状に右、左と進み、尾根芯の右手二次林、左手植林帯の間を直登する。このあたりの尾根は適度に細くはつきりしているので、登るぶんには暗闇であろうと問題はない。しかし相変

道出合上を通り過ぎ、奥村水場谷に6時39分。しばらく行くと、林道のと真ん中に大きなカマクラがつくってあったのにビックリ、ちゃんと窓が四角に開けてある。まさか猟師や登山者がつくったとは思えない。ゲートからここまでかなりの距離がある。どんな人がつくったのだろうか？

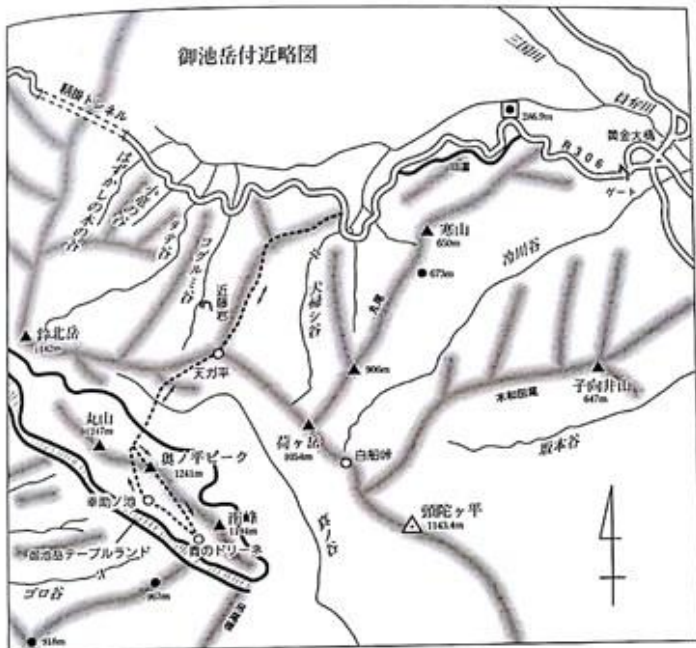
6時54分、犬返橋に到着。橋の欄干にわらず根性無しというか30秒歩いては5分休憩の繰り返しで、ちっとも歩が進まない。

8時24分、高度7400にて台地にのり、コグルミ谷右岸尾根からの道と合流する。これで植林帯は終わり、二次林だけの尾根となる。地形図を見ればはつきりわかるが、コグルミ谷と犬帰シ谷との間の尾根である。後は、9400までひたすら直登するだけである。この尾根の右側（コグルミ谷）は8200くらいまではザレやガレが多いので落ちないように気をつけねばならない。反対に左側（犬帰シ谷）は二次林のたおやかな雰囲気、緩斜面となっており、早春や黄葉の頃には、つい入りたくなるが、支谷から本流の犬帰シ谷に下りてしまうと、犬帰シ谷の大高巻きがあり、難易度が高いので、気をつけねばならない。

8時43分、8055位でやせ尾根を通り過ぎると、コグルミ谷側下方にコバが現れる。こも小生の大好きな所で、勝手にダイラと呼んでいるが、昔の仙人達はイタドリバ？と呼んでいたようである。これからは、ガレも無くノンビリと歩けた。9時17分、高度計が9355を指した

ので右へトラバースし、9時22分、天が平に到着。踏み跡は無かった。高度計は945mだった。今のところ正確である。ここで今日初めての食事として、食

パン一枚を食べる。いつもながら貧しい食生活である。9時36分に歩き出して、法菜の小道に入ると、何と足跡があった！ 県境稜線通して白船峠の方から来ているようだが、スノーシューの跡で今朝のものではない。鈴鹿の山に登るのにスノーシューを使うなんて邪道だ！とアホなことを考えながら、ありがたく踏み跡を借用させていた



だ。正直、もうバテバテなのでナミダが出るほどありがたい。昨年は雪が多かったので、コグルミ谷源頭部のドリーネを確認できなかったのだ

が、今年のはっきりと見えた。10時34分、1070mに於て幻ノ池に到着。朝日が差して疎林の陰影がきれいだった。池の写真を撮る。雪が少ないせいか、まだシャーベット状である。足跡はそのまま尾根を登っていくようなので、ここからは踏み跡の無い雪面を真ノ谷の丸山取付へ下りたら、上流から足跡が戻ってきていて、小谷の左岸を丸山に向かって上がっていつている。すぐにその小谷の右岸を攀じ登って、奥ノ平へ行こうとしたのだが、雪が深くて押し戻されてしまうので、カンジキを履く。

10時58分、冬の日帰り山行時は、11時を下山のタイムリミットとしているのだが、今日はテント泊まりなのでそのまま歩き続ける。しかしもうバテバテで脚がなかなか上がらない。1130mあたりでついにギブアップ……ザックを降ろして、二度目の食事をとる、とは言っても今日の行動食の最後の食パン一枚のみである。

た。空は曇っていて、天気が悪くなりそうな感じ。ボタンブチはもとより、遠くの天狗堂、竜ヶ岳、御在所なども見えたが、テーブルランドには人影は全く無かつ

た。積雪はまだ少なく、ササが一面に頭を出しているのがチョッピリ残念。やはりここにも先程のスノーシューの跡が奥ノ平へ続いていて、何てタフな奴なんだろう、それに比べて小生の何と軟弱なことか。

12時44分、奥ノ平ピーク(1241m)に到着。高度計は1275mを指していたので、やはり天気は下り坂なのかもしれない。修正する気力もなく、そのまま歩き続けるが、足跡はここで終わっていき。この先は今年まだ未踏かもしれないとワクワクしながら進む。136度にある次のピークまで行ってから右手(南)へくだる。青のドリー



ネへ行きたいのだが、はっきりと場所を認識しているわけではないので、キョロキョロしながら進む。東池はたしかこのあたりかも……とは思うのだが、雪で埋まっているのでドリーネと池の区別がつかない。たぶんここが東池であ

ろうと思われるドリーネを左手に見て歩いて行く。現金なもので、登りがなくなったら休むこともなくなった。

13時09分、久しぶりに青のドリーネに到着。確認はないがまず間違いないだろう(何て物覚えが悪いんだろう、それともボケが始まったのか?)。残念ながら、古い足跡があったので、小生が初めてではなかった。樹氷もまだ無く、ササが顔を出しているが、これもまたよしとして、雲間からたまに青空が覗く時を待って写真を撮る。なるべく足跡が写らないように撮ろうとすると、アングルが限定されてしまう。誰も無難に撮る位置は同じなのか、何とか写真になった。

さていよいよ今回久しぶりに泊まる場所である。幸助ノ池のほとりにでもしようとかかう。テントはツェルトを含めて五張り所有している。ツェルトは日帰りでも必ずザックに忍ばせているのだが、テントは1人用のゴアテックスのドーム形(1×2m)を持参してきた。フライ(または冬用外張り)と本体が二層になったテントと、一層のゴアとどちらが良いかは好みの問題であるが、小生は手軽なゴア一層派である。また、短辺から出入

りするテントと、長辺から出入りするのと二種類あるが、緊急時にポール無しでツェルトのように潜り込める短辺側に入入口があるほうが良いと思う。小生が使用しているのは、この新ハイにいつも広告を掲載している石井スポーツのテントである。この石井スポーツのゴアライトIを特に気に入っているのは、入り口にフライ（小生は前バリと呼んでいる）が縫い付けられているからである。雨や雪がテントの中に入り込まないので、このフライの有り無しで一夜の快適さが全く違うのである。

13時46分、幸助ノ池への途中、ゴロ谷源頭部の内の一つの谷手前の樹林帯のなかで、またはシャリバテで歩けなくなりました。ちょうど、右折して尾根伝いに登れば奥ノ平へ向かう所である。残るは非常食のスニッカーズ二本のみ。一本だけ白湯で胃に流し込み、すぐに歩き始める。

谷源頭部を越え、台地状になった樹林帯のなかを登って行く。たぶんこのあたりではないかと突き進むと、見覚えのある幸助ノ池に到着。やはり雪が少ないせいか、シャーベット状になっている。時



間は13時53分。ここにも足跡があったので、撮影アングルが限られてしまい、逆光での撮影となってしまった。ちなみに後でわかったことだが、この足跡は前日に登られた「鈴鹿の山歩き雑文集」というホームページを開いておられる、たろぼうさんのものであった。

疲労から歩くのもおぼつかない感じで、テントを張る場所を探す。池の北西側が良さそうなのでそこにザックを降ろす。もう歩かなくてもよいのでホッとす。何でもよいから、とりあえずテントに潜り込んでひと眠りしたかった。

テントの中に敷くシートを雪面に広げ、家財道具をザックから取り出す。350ccのサーモスマグカップ・水2杯・テント・フリーズドライ食品・MSRのガソリンコンロ・冬用テントの竹ベグ・替靴下・替グローブ・マット・寝袋・予備のメガネ・無線機・ツェルト……あれっ？……ガソリンタンクが……無い！……あんなに絶対に忘れないようにと気をつけていたのに……愕然……頭の中を葬送行進曲がグルグルと駆け巡る……うーん、参った、アホもここまでくるとシャレにもならない。

このまま、食料無しで泊まるのか？ 疲れた体を引きずって下山するのか？……泊まるのは楽だが、空腹疲労凍死？ 元談じゃあない……撤収だあ！

すぐさま行動に移る。まず水をマグカップに満たす。300cc程をのどに流し込む。残りは軽量化のために捨てる。後は全部ザックに放り込む。

14時18分、幸助ノ池を出発。疲労からどれだけ歩けるかはわからないが、登りはここから丸山・奥ノ平間の鞍部まで、真ノ谷から奥境稜線までの二ヶ所しかない。後は下りのみ……チョット気が楽である。暗くなったとしても、小生の場合、慣れているので全く問題ない。

丸山・奥ノ平間の鞍部に14時37分、奥境稜線に15時00分。そのままコグルミ谷の左岸を下りることも考えたが、登り始めにミドルレイヤーのグローブを片方落としてきたので、来た道をそのままたどることにする。15時18分、天ガ平。できる限り尻セイドーで下り、途中に落としたりたグローブを回収し、最後の錦秋の谷も左岸尾根から谷底まで一気に滑り下りる。鞍掛林道に16時23分到着。ああ、これで生きて帰れる……「火事場の馬鹿力」

というか、ほとんど休まずに歩き(滑り)通すことができてしまった。やはり普段のグータラ山行は、体力ではなく精神的なものであることが、図らずも証明されてしまった。トホホ……

ここでマグカップの水を飲み干し、再び歩き出す。犬返橋を16時40分、旧道に入ると暗助くなってきたが、ライ

トを点けずに歩く。途中、倒壊寸前の作業小屋の所に国道365号線の標識と舞台野という標識があった。このあたりの旧地名なのであろうか？

17時26分、旧道から新道に出ると、おぼろ月がなかなか優雅であった。歩いてみると、そこらじゅうで獣の息づ

かいが聞こえ始めてきた。暗闇のなかにふと、右手前方に何やら大きな黒い物体が……向こうはまだ小生に気づいていない……ヒョップとすると……突然、ブヒョ……キョー……！……イノシシが小生に向かって突進してくる。なすすべもなく立ち止まっていると、小生の右脇をすり抜けて行く……

後方で叫び声を上げながら走り去るのが感じられる。ああ、よかった……すぐさまザックからヘッドライトを取り出し点灯する。17時45分、ゲートを越えて、わが愛車に到着。

新年早々、何という日なんだろう。しかし、干支のイノシシに出会えたのは運が良かったのかな？

(平成19年1月3日歩く)

▲参考タイム▼

ゲート5・53―犬返橋6・54―錦秋の谷
出合7・07―コグルミ谷からの出合8・
24―天ガ平9・22―幻ノ池10・34―奥ノ
平12・44―背のドリネ13・09―幸助ノ
池13・53―幻ノ池15・00―天ガ平15・18
―犬返橋16・40―ゲート17・45
△地形図▽2万5千Ⅱ篠立

新ハイ関西98号	
標高△△98mの山	
霊仙山	(1098m) 鈴鹿山脈
西岳	(2398m) ハケ岳
笠ヶ岳	(2898m) 北アルプス
杓子山	(1598m) 道志山地

霊仙山

鈴鹿山脈北端にある霊仙山には四季それぞれに合計六回登っている。単独で山頂にテント泊した2003年の夏の山行は、このほか印象深いものがあった。目的のひとつの夜景は予想通りすばらしかった。快時の夜明けの西南尾根に七〇八頭の鹿の群れが二ヶ所に眺められ、想定外の出来事だった。小走りに走っているかと思えば草を食べているのか動かなくなったり、またゆっくり移動したりと、朝早く鹿の二つの親族が互いの間隔を一定に保って右下の山腹から左上の尾

根上へと斜面を移動している様子を長い間つぶさに眺め続けることができ、とても幸福な朝のひとつを過ごせた。

〔平成15年8月10日〜11日歩く〕
Aコースタイム

JR柏原駅(7時間) 霊仙山(4時間)
お虎ヶ池経由 壺ヶ井養鶏場 バス停

〔地図〕
昭文社「御在所・霊仙・伊吹」

西岳

単独で年末のハケ岳に行った。ハケ岳といっても西岳は山頂の樹林が切れ、下半分はカラマツ林におおわれている。

笠ヶ岳

山頂直下に笠ヶ岳山荘とテント場があり、単独で登ってテントで連泊した。近くの橋降平という池地と岩の配置の妙が非常に鮮やかな所へ行って、槍・穂高連峰を背景とした絵を描いて過ごした。

槍・穂高連峰の岩壁は非常に美しく、翌日に双六小屋のテント場までの行程の花の美しさと相映って、笠ヶ岳は非常に良い印象の山としていつまでも記憶が色褪せない。

〔昭和63年7月31日〜8月2日歩く〕
Aコースタイム

新穂高温泉(12時間) 笠ヶ岳小屋テント場(7時間50分) 双六小屋テント場

〔地図〕
昭文社「槍ヶ岳・穂高岳・上高地」

杓子山

これも単独でテント泊の山。山頂に泊まって富士山をゆっくり眺めるのが目的の山行だった。

少々のラッセルくらいなら1日で往復できるが、登山口で1泊し、山中で3泊、合計でテント4泊した。

視界のきかない日があったため余分に1泊費やして翌日に向けた甲斐あって、山頂でゆっくりと絵を描くことができた。

この山行も鹿との出会いが印象深かった。山頂から下山している途中で十頭以上の鹿の群れに出会った。いくら単独で五感を研ぎ澄ませて歩いていても、能力に秀でた鹿のほうが先に気づいたものだから、私は突然大きな鳴き声と共に目の前からいっせいに飛び立って逃げて行く音で気づくこととなった。白い毛のお尻を上下させて華麗に遠ざかってゆく姿は最高に美しかった。逆光の雪原の上に無数の足跡が残って、心温まる光景の余韻に浸れた。

また、夜は鹿の鳴き声がよく近くに聞こえて楽しかった。威嚇の声とは全く違う甘えた声でテントの左右から交互に聞こえ、鹿がお話している居間にお邪魔している幸福なひとときが過ごせた。

〔平成7年12月26日〜29日歩く〕
Aコースタイム

富士見高原ゴルフ練習場前駐車場(2時間)

〔地図〕
昭文社「富士山・御坂・愛鷹」

最初からずっと富士山と道連れである。鳥居地峠から高座山を経由して杓子山へ至るコースは行程が長いのか、高座山が目的の人ばかりだった。

高座山まではカヤト(茅戸)の草原が続いて開放感いっぱいだった。だが、高座山からは樹林のなかに入り、冬枯れの展望の無い寂しい道となり、奥深い感じが好ましかった。

広い山頂は中高年の登山者グループや写真目的の人などでたいそう賑わったが、最終的には私1人になった。夕日、朝日と富士山の美しさを十分堪能した。

また隣の鹿留山にも行ったが、ブナの木が林立した山頂部は懐しい優しさに満ちていた。

〔平成19年2月10日〜11日歩く〕
Aコースタイム

忍野村役場前バス停(4時間10分) 杓子山(5時間20分) 鹿留山経由内野バス停

〔地図〕
昭文社「富士山・御坂・愛鷹」



西岳より阿弥陀岳(左)と赤岳(右)を望む



間30分 1730m 針テント泊地点(3時間30分) 西岳往復(1時間30分) 八峯苑
〔地図〕昭文社「ハケ岳」

静かで楽しい隠れ尾根

奥山(鉢伏山)から権現山

京丹波

長宗清司

「あせり」とは響きのよい地名である。漢字で「安栖里」と書く(安らかに住む里か)。

JR山陰本線安栖駅里ホームから北方を眺めると、由良川の流れに向かって北から南西へ三本の小さな支尾根が川に迫っている。

このうち、一番手前の尾根の末端周辺を眺めると、中段に横一筋切れ目があり、ひな壇に稲が突っていた。さらに上部右手に目をやると、かなり自立つ伐開した斜面があり、左端に小さな木造の建物が目に入る。ここが今日、最初に目指す台地である。

駅のホーム西端の石段から国道に出て



標石もこの台地の一角にあった。四方を見渡せば和知町内十二集落が一望できる。川岸を緑の帯に守られるようにゆるやかに流れる由良川や恐ろしい入道を含む京丹波の山並が望めた。

東へ道なりに歩くと中集落から来る幅3.5mの道に出くわす。地図によるとこの道の延長はすぐに右の尾根に吸収合流するので、あえて真向かいの尾根に取り付き、3.25mのピークを目指す。かなり急登だが我慢して登りつめる。平凡なポイント地点で踏み跡とは名ばかりの道が続く。アカマツの太木が点在する松茸山だが手入れが行き届かず、風の通り道などいくつもの地点で枯れて朽ち果て、倒木となって行手を阻み、私達を苦しめた。

やがて、すっかり切り立った山道の周辺に、めずらしくアベマキが群立している。件の林道を吸収し、さらに4.34mを通過してのびてきた大倉谷林道の延長道をも呑み込んで一本の山道となる。左側は杉の植林帯で獣避けネットが片側を塞いでいる。鉢伏山から真南にあたる5.28mのピークを越え、前方に赤と白の鉄塔と重なるように、その先にパラボラアンテナが望めた。

やがて、東側が大きく開けた伐採地に立つ高圧線の鉄塔下に出た。展望がすばらしく、長老ヶ岳をはじめ東方の山々がいくつも確認できた。西側には、これから奥境尾根伝いに訪れる権現山の頭だけが木立の向こうにポツカリ浮かんで見えた。

直下の鉄塔から鉢伏山を望む



右折し、次のT字路を左折して中集落に向かう。和知橋を渡り、次のT点を右折して間もなく山手への道に入る。左へ大きくカーブした行く手にばつんと観音堂があり、ここが瑞祥寺跡である。墓地に五十基余りの宝篋印塔が残っている。

右脇の道に入り、寺の上部をジグザグに行くとやぶになる。やぶのなか、左に入る小道を見つけて上りつめると、先刻目認した木造建物のある台地に出た。岩盤の頭だけ露呈したごっこつした台地は雑草が刈り込まれた細長い広場で、等間隔に四棟の小さな祠が建っている。地元教育委員会の説明によると、四棟の建

△172.41mの台地に四つの祠があった



物の一番奥が恵比寿神社、その次は秋葉神社と弁財天、三つ目には山の神、そして一番手前の建物には春日神社・白山神社・稲荷神社と、それぞれの神が鎮座している。戦火やいろいろな事情から、集落内にバラバラにあったものがここに集められ、毎年それぞれの祭りが催されているという。

△172.41m・4.4m・4.4m等三角点「中」の

冬春号 好評発送中

冬の山歩き&ウォーキング
暖かい南の島から北海道まで、豊富な
ツアー設定。初心者の方からの雪山基
礎講座も開催。海外ツアーも満載！



お電話
おはがき
FAX・HP
にて！

**送料・本体無料
ご請求ください！**

弊社カタログ
ラインナップ



総合カタログ



山歩き教室

見ごたえたっぷり国内・海外・自然
観察の旅500コース以上を掲載した
総合カタログ。これから登山やハイ
キングを始める方、初心者の方の
ためのための、山歩き教室カタログ。
それ以外にも、世界遺産やパードウ
オッチングのツアーもあります！
お気軽にお問い合わせください。

山岳添乗員・山岳ガイド募集

ご興味のある方は下記までご連絡ください。

アミューストラベル株式会社 国土交通大臣登録旅行業第1366号
日本旅行業協会正会員 ボンド保証会員
〒530-0001 大阪市北区梅田1-11-4 大阪駅前第4ビル7階
ホームページ <http://www.amuse-travel.co.jp>
E-mail: antoss@amuse-travel.co.jp
06-6456-3366 FAX 06-6456-3377



鉢伏山から権現山へきれいな尾根道が続く

先に古い字体の三等三角点の標石を確認
した。展望のきかない平凡な広場の真ん
中にポツンとある。

権現山山名の由来は、昔、広瀬集落の
樋ヶ谷川沿いにある成瀬神社の祭神を、
時の有名な陰陽師・阿倍晴明が当地に
遊行の際、村人の願いにより、日向山に
「紀州熊野権現」を勧請し、その神号を
山の名をもって「日向大権現」と名付け
た。したがって、今日では、広瀬日向山

が権現山となっているのである。
南西方向へ少しずつ高度を下げながら
快速に疎林のなかを歩く。単調な軽いアッ
プダウンを繰り返すうち、左下に光の射
す明るい所が帯状に見え、それがこの尾
根と併走しているのに気づく。どうやら
林道だとはっきり確認できるようになっ
てまもなくドッキングして、この林道に
下り立った。

まだ新しい林道を横切って、水の道と
化した山道を少しくだと、右手に赤い
鳥居があった。御神社の本殿裏から左
へくだって、才原の集落に下り立つ。
国道27号線をしばらく東進し、脇道に
入り、由良川に架かる船戸橋を渡ると、
正面にJRの高架線が見える。右折し
て鉄道の下部と由良川との狭間の道を立
木駅に向かう。

(平成19年9月9日歩く)

◆この山は、マツタケ山なのでシーズン
中(10月1日から11月15日)は入山禁止
(京都府地域振興課に期日を確認すること)。
*瑞祥寺跡と宝篋印塔

約800年前、「承久の乱」の後、後
鳥羽上皇をはじめ京都の貴族や寺院の荘

園のほとんどを没収した鎌倉幕府は、日
本全土の約半分に及ぶ広大なその荘園に
守護・地頭を配置した。元、仁和寺の荘
園だった和知庄へ幕府から派遣された地
頭は、現埼玉県新座市片山地区出身の片
山広忠であった(約750年前)。以来片
山氏は約340年間に地頭として四十余
の分家を擁して栄えた。瑞祥寺跡の墓地
に現存する多数の宝篋印塔群からも推察
される。展望のきく景勝地にあつて、境
内の広さ、伽藍の壮大さは和知では比類
のない立派な寺院であったが、明治六年
の廃仏毀釈の際すべてを破壊された。

△コースタイム▽

JR安栖里駅(30分) △172・4分三
角点(10分) U字路(15分) 325分
(20分) 合流点(1時間) 528分(10
分) 鉢塔下(15分) 奥山(鉢伏山)(50
分) 権現山(20分) 474分(30分) 4
85分(30分) 国道27号線(20分) 船戸
橋(10分) JR立木駅
△地形図V2万5千II和知・綾部
(問い合わせ先)

京丹波町役場和知支所(教育委員会)

☎0771(84)0200

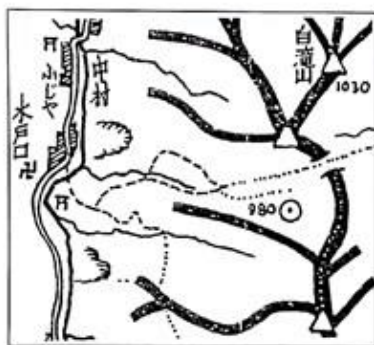
シメン谷道登高

小山 誠次

比良

朽木学校行き京都バスに乗って下坂下を過ぎ、伊勢橋を渡り、木戸口橋の手前辺りで右手を眺めていると、山道らしき形状が目に入り気になっていった。夏場になると、草が繁茂して不明瞭となるが、今の時期ならバスの車窓からでもよくわかる。

昭文社の地図では山道の記載は全く無いので、今回は角倉太郎著「比良登山図」(昭和17年「比良展望」付録)(図1)を頼みとして山行計画を立案した。ただし、本日予定の山頂付近には一般的な登山道は無いが、本誌94号「長池から蓬萊山」への山行で一度通った経験があるので、見覚えがあるはずだと確信していた。



(図1)「比良登山図」から一部抜粋



(写真2) 標高440mの分岐点



バス停で降りるのは初めてである。南方に4分歩き、木戸口橋を渡って少し行った所が本日の取付点である(写真1)。ちょうど、カフェ&ギャラリーの店の看板が掲げられている。ここで高度計を350mに合わせ準備完了。この標高の蕾はまだまだ硬そうだ。
8時53分、予定通りに道をたどり始める。「比良登山図」の道の描き方から察

平成19年4月7日の前日の天気予報では、滋賀県北部の降水確率は午前30%・午後10%で、南部では午前・午後共30%。京都府南部も同様である。滋賀県北部の最高/最低気温は14/6度、曇りのち晴れとのことであった。当日朝になると、滋賀県北部の降水確率は午前・午後共10%と良くなっているの、「ラッキー!」と喜び勇んで出かけた。
7時45分出町柳発朽木学校行きの京都バスは、始発交差点での明日の地方議会選挙の連呼の叫びを聞きながらの発車となった。川端通りでは今が満開の桜並木を楽しみながら北方に向かう。とくと見れば、薄ピンク色から白色まで微妙な色

(写真1) 国道367号線に面する取付口



合いを呈している。また、高野川べりではセイウカランシナも鮮やかな黄色の花で今が盛りと咲き誇っている。一方、大原ではまだ三分咲き程度で、いつも楽しむ八重桜はまだピンク色の蕾さえも秘めたままである。

8時42分木戸口着。出町柳で偶々お会いして同乗して来た、本誌でもお馴染みの秦康夫氏とはここで別れた。筆者もこの

すると、どうも最初の登山口あたりは元々の山道ではなく、現在の国道367号線が完成する際に新設されたようだ。
山道は最初から古道然として杉の植林のなかをたどるが、10分後「間伐展示林」の看板のある所に来た。道はここで二つに分岐している(写真2)。標高440mである。「比良登山図」でも分岐して描かれていて、一見まっすぐの道をたどりたくなる。おそらく標高440m地点かと思われたので、看板の前を通過して左に折れる道を選び、北方に向かうことにした。間もなく尾根の北側に到り、眼下にシメン谷の渓流を見下ろすと共に、国道367号線上の中村大橋を渡って南下して来る赤い車をカメラに収めた。道は北側が断崖に面しているが、石積みで補強されているので、往時は重要な道だったのかもしれない。
分岐から10分後、シメン谷に斜めに合せて、そこで道が途切れている。「比良登山図」ではこのまま上流に溯行するよう描かれているので、少し谷沿いを歩くこととした。歩きやすさを求めて対岸に渡り、右岸沿いを進み、10分後には再び左岸に渡り返した。標高520m。



(写真3) 斜度40度位の道

そこからさらに道が続いている。ただし、対岸にも地図通りに北方に向かう道が木々の隙間から見え隠れしている。左岸の道は、高さ10m位の密集したキヤマブシの若葉の間をぬって上流に続いている。7分後、右手上方へと道が続く地点にやって来た。杉の植林と自然林との境界に、直線状の斜度40度位の道が続いている(写真3)。ここで標高5770m。

枯れ葉が堆積して滑りやすくなっている。直登するだけでなく、植林帯のなかをジグザグに進むこととした。最後は斜度50度位となり、両手で何かをつかまないと転落してしまいそうなかを登高した。

10時02分、やっと一段落してシメン谷

まじ意味がないので、先を急ぐことにした。

先の「長池から蓬菜山」ルートを逆にたどると、4分後に巡視路ルート上のピーク9770に達した。例の古い薬草履も吊るされたままである。

ここからは間違えようのないルートをたどることになる。まずNo.10鉄塔に続いてNo.11鉄塔を経て、ケヤキ谷を渡る。バイケイソウは新芽がようやく顔を覗かせたばかりだが、中にはもう15m位に成長しているものもある。

その後、No.12鉄塔の後はオオカメ谷とNo.13鉄塔を経ると、ジャガ谷の沢水が一段と強くなる。谷を渡った所で、いつも飲んでいる湧水を口に含んで、一つ尾根を越えると汁谷の沢流と汁谷道である。ここで12時17分。どこかで雨宿りしながら昼食を考えた。木戸峠近くの汁谷キャンプ場の、テールが積まれた倉庫内の隙間を利用して昼食タイムとした。降水確率10%の天気予報に騙された思いである。

12時24分昼食を開始したが、しばらくすると晴れ間が広がり、ウグイスの鳴き声もよく聞こえてくる。本日はここまで

南方尾根の北側の平に到着した。ここからは北方に、関西電力中村発電所のNo.8鉄塔がやや上方に大きく見えている。ここで標高7000mであるが、この急斜面の130m位はとも元々の山道とは思えない。おそらく先のシメン谷を離れるあたりからは、「比良登山図」上の山道と全く別のルートになっているのだろう。

しかしながら、ここからは頂稜と平行に平坦な道が東方に続いている。意外に思いながらたどると、何と降雨を凌ぐための簡単なトタン屋根だけの雨避けに行き着いた。少々ガツカリしたが、止むを得ずここから改めて頂稜を目指し、今度は杉の植林の急斜面をジグザグに登り始める。

10時20分、ようやく本来のシメン谷とニゴ谷の間の尾根の頂稜に到達した。今まで全くマージングは無かったが、部分的には踏み慣らされた箇所もあったので、植人が通行している道かもしれない。ここで標高7800mである。今度は左手北側は植林のため全く見通しはきかないが、右手や上方には、ピーク10800mに続く山並が眺められる。やはり「長池から蓬菜山」に到着した山行を思い出さずには

全く人に出会うことはなかったが、晴れ間と共に、キャンプ場より人の話し声が聞こえてきた。

13時11分、木戸峠に向けて出発する。1分後に到着し、お地蔵さんに合掌して下山路をたどる。道端にはウマスギゴケと共存するバイカオウレンの愛らしい白い小さな花が密やかに咲き揃っている。一方、比良岳方面はガスがかかり、こちらの方まで徐々に広がっていった。間もなくガスに包まれてしまったが、道がわからないほどではない。

クロトノハゲに到着した。馴染みの眺望所に坐っても何も見えないので、久し振りにキタダカ道を楽しみながら歩くこととする。ミンサザイの鳴き声も聞こえている。昨年、クロトノハゲから精いっぱい急ぎ歩くと、JR志賀駅まで58分間しかかからなかったが、本日はそれではもったいない。

20分後、霧雨が続くなか、いつも通り天狗杉を抱擁する。脇山橋を横目に見てなおもくたると、道端にタチツボスミレ・ニガイチゴ・クロモジと三分咲きのタムシバに出会い、14時56分JR志賀駅に到着した。

いられなかった。

そのまま薄曇りの天候のもとで、頂稜上をたどると7分後に標高8200mの小ピークに達した。ここからはピーク10800mが150度方向に見えている。頂上に冬枯れの木々が密集しているのもよくわかる。

ここから尾根の方向が変わり、同時に植林帯から抜け出ることになった。地図上のピーク9800mに向けて、アセビに咲いた可憐な花と、今年初めての一分咲きほどのタムシバを眺め、周囲の眺望もグンと良くなった。

最後の登高中10時59分、小雨がパラパラいたが、すぐに止んだ。ただし、全天は高層雲で覆われたままなので、またいつ降りだしても不思議ではないかと思いつながら歩いていると、先のNo.8鉄塔と、そのずつと右手にNo.9鉄塔とを目標の高さで確認しえた。そして、11時09分やっとピーク9800mに到達した。

やれやれとクマザサの疎らな頂上で飲水休憩をとり、南方のピーク10500mを眺めていると、再び小雨が降ってきた。ザックカバーを掛け、折りたたみの傘を取り出して広げる。ここで長居してもあ

本日、初めて木戸口バス停で降車しての比良山行はなかなかの難路だった。どこまで「比良登山図」にいう山道をたどれるかわからなかったが、最後は疎林帯のやぶ漕ぎでピーク9800mに無事到達した。

なお、JR志賀駅の古称は近江木戸駅と言う。本日は木戸口から木戸峠を経て木戸に到着した。

(平成19年4月7日歩く)

▲コースタイム▼

木戸口バス停(4分) 取付点(10分) 間伐展示林の分岐点(10分) シメン谷出合(10分) 再度左岸へ(7分) 斜度40度の坂(19分) シメン谷南方尾根上の平(11分) 尾根頂稜(7分) 小ピーク(31分) ピーク9800(4分) 巡視路ルート出合(53分) 汁谷道(7分) 汁谷キャンプ場昼食場(1分) 木戸峠(18分) クロトノハゲ(20分) 天狗杉(29分) 脇山橋(37分) JR志賀駅

△地図▽

角倉太郎「比良登山図」
昭文社「比良山系」

二十六夜塔のある月待行事の山

秋山二十六夜山と道志二十六夜山

山形 明

道志山塊

丹沢山地の西北に道志村を挟むようにして長々と連なる道志山塊がある。その山塊の西端にある道志二十六夜山、および秋山村中央に位置する秋山二十六夜山に登ってきた。

山名の二十六夜は平安時代から行われた月待行事で、特定の月齢の日に人々が寄り合い、月の出を待ちながら供物を供えて飲食を共にし、月を拝むと幸運を得るといわれる。

二十六夜は旧暦の正月と7月の26日の夜半の月光に阿弥陀仏・観音・勢至の三尊が姿を現すと伝えられている。



秋山二十六夜山山頂



秋山二十六夜山

中央道の上野原インターから国道35号線に入り、夜空の透明度が日本一といわれる秋山村に至る。浜沢バス停脇にキャンプ場へ向かう砂利道があり、そこを入りキャンプ管理棟の脇に車を置き、先を南へ進み林道先の山道を登る。

林のなかの尾根上をいきなり一本調子の急登だが、傾斜がゆるむとあずま屋に着く。展望が開け、二十六夜山の山体が谷の向こうに大きく姿を現す。平坦な道もしばらくで、再び胸をつく急登となるが、登りつめると雑木林のなかの明星平に出た。途中、露岩の所からは三ツ峠山から滝子山、奥多摩方面の山々が見える。

んだ山名柱が立っている。山梨県は偉い、一県に百もの名山があるのだ。

この道志山塊の下にはリニアモーターカーの実験線がトンネルを貫いて走っている。将来は新幹線に代わる営業線になるだろう。ここを走る列車は強力な磁力を発生させ、車体を宙に浮かせて走るといだが、この強力な磁力が人体に悪影響を及ぼすことはないだろうか。医療用の電子器具を体内に埋め込んでいる人もいるが、大丈夫なのだろうか。病院や旅客機内では携帯電話の電波が電子機器を狂わせるので使用禁止になっているではないか。

伊那の高遠から国道152号線を南下して分杭峠を越えていく山岳道路があり、この分杭峠一帯には磁場が発生しているという。磁力を身体に受けると、身体の調子が良くなるというので、多くの人が山の斜面に坐り込み、瞑想にふけっている光景は異様だ。

この峠を通りかかった男性は、カーナビが効かなくなったと言っていた。別の男性も同じことを言っていたので事実だろう。この磁力は宇宙から飛んでくる電波をも狂わせてしまっているのだ。

秋山二十六夜山の二十六夜塔



明星平で赤袷ヶ岳方面への道を分け左へ。やせ尾根の急登となり、小さなピークを越えて行くと主稜線に出て、明るい広々とした山稜に登り着く。片隅には二十六夜塔があり、ここからひと登りの山頂をビストンした。

立ち木のなかに3等三角点がひっそりとある静かな山頂で、傍らには「二十六夜山 九七二m 山梨百名山」と彫り込

峰ふもとにある村営宿舎の玄関付近ではコンパスの針が一回転もする場所があり、場所を変えると20度指針が狂う所もある。「この現象はフォッサマグナだ」とムトウ女史に教えられたが、何のことかサッパリわからない。

山頂でこのような心配事をしていたのだが、ハッと気がつくともまだ下山が残っている。山頂分岐までくだり右へ行く。こちらの道は幅広く急な斜面はジグザグになっていてメインのようだ。ここを一気にくだると尾崎集落、ここからキャンプ場まで、陽に照らされたの国道歩きはつらかった。(平成19年10月5日歩く) ▲コースタイム▼

浜沢キャンプ場(1時間50分) 明星平(50分) 秋山二十六夜山(1時間) 尾崎(50分) キャンプ場
△地形図▽2万5千11大室山

道志二十六夜山

山梨県都留市と道志村を結ぶ道坂トンネルの西入口に登山口がある。そこを登ってトンネル上の稜線鞍部に出ると右は御正体山で、二十六夜山へはこの分岐を左へ行く。

読んで、登って、仲間ができる 新ハイキング公式サイト

<http://shinhai.net/>

雑誌「新ハイキング」の良さはそのままに、インターネットの特色を活かしたコンテンツ

- 気軽に情報交換できる「新ハイ掲示板」
- 新ハイキング社からのお知らせ「よもやま情報」
- 会員のホームページやハイキングに役立つサイトをご紹介するリンク集 など

読んで、登って、仲間ができる

新ハイキング

毎月15日発売

<http://shinhai.net>

新ハイキングクラブ

山行に参加するには

支店紹介

お問い合わせ

10月号(11月15日発売) 情報交換は掲示板 最新トピックスはよもやま情報

新ハイキング



新ハイキング 最新号 2007年10月号 624号

【特集】紅葉を鑑みわげ高嶺へ
森山山…山崎 寛
小阿寺沢口から後島峠子系…深生 豊 12か

【雑感】
ヴァリエーションルートこそ山登りの原点…約場 大祐
山の果実酒…栗原 隆 12か

【紀行ほか】
歩き道新へのアドバンス(上)…藤田 英定
白井道新道から両神山…森田 武 12か

【おすすめガイド 9コース】
響岩山…島羽 健次
日光・成沢の道…早崎 敏子 12か

- 出版
- 新ハイキング最新号
 - 大島千佳
 - バックナガバー
 - 新ハイキング社の本
 - 原稿募集 写真募集

- リンク
- 会員・主要広告主
 - 支店・地区・道程・情報
 - 交通情報
 - その他ほか

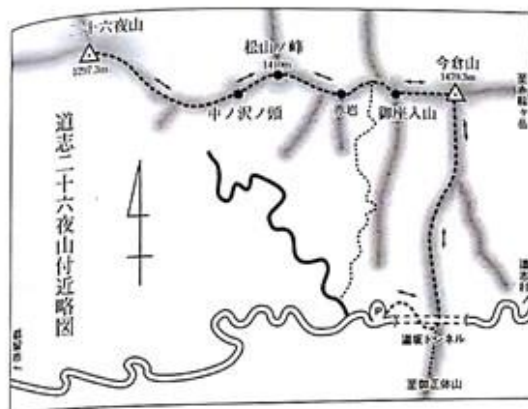
- ハイキングクラブ
- 山行社統一覧
 - 募集 ハイキング1
 - 支店紹介
 - 山行リーダー紹介
 - 新ハイ サービスチェーン
 - 参加新心選

新ハイキング関西

新ハイキング東部

よもやま情報

- ご意見・ご質問・リンクのご要望などは「お問合せ」をご利用ください。
- 携帯サイトにも運動しています。



道志二十六夜山の二十六夜塔



道志二十六夜山山頂から杓子山

樹林のなかを一直線に登ると今倉山山頂。東西にのびる長い山稜の最高峰で「山梨百名山」、標高は1470・3が、三角点は3等。
この主稜線を右へ行くと赤鞍ヶ岳へ繋がるが、左へ行く。御座入山、赤岩、松山ノ峰、中ノ沢ノ頭のピークを越えて行き、赤岩からは展望コースのハイライトだ。正面には御正体山、八ヶ岳から南アルプスまでの広大な眺めで、富士山も時々雲間に顔を出していた。中ノ沢ノ頭から

△地形図V2万5千II都留
AコースタイムV
今倉山登山口(1時間20分)今倉山(2時間)道志二十六夜山(3時間)今倉山登山口

戸沢温泉付近には月にまつわる伝説が多い。松尾芭蕉が立ち寄った際「名月の夜やさぞかしの宝池山」と詠んだと伝えられる、市宮温泉「月待ちの湯」に入った。
露天風呂から二十六夜山を眺めビールを飲む。これが本日の区切りであった。(平成19年10月6日歩く)

ミスナラの巨木のなかを大きくくんだり、鞍部からさらにやせ尾根を登り返して二十六夜山(1297・3が)に着いた。
ここも展望が良く三角点は3等、「山梨百名山」ではないが「花の百名山」になっているとの説明板が立っている。花はエイザンスミレが4月下旬から5月上旬にかけて、この山のいたる所に咲き競うそうだ。
帰路は忠実に来た道を戻り、登山口から都留市側登山口戸沢へ車を走らせた。

残雪期の山行記録

三界山・奥三界岳

東濃

山田 明男

東濃の1等三角点で未踏の三界山へ行って来た。

地図を見たら共に林道歩きが長く、特に「奥三界岳は2時間もの長い歩きでうんざりした」と、行った人から聞いた。「またと行きたくない」とも言われた。

何とか1日で両山を日帰りしたいと考えて見ると、二つの山頂間は意外と近くて直線で1500m程しか離れていない。これなら残雪期に行けば尾根が歩けるかもしれないと思ひ、06年4月1日いつものメンバー5人と歩いた。

朝は最も早目の6時35分にJR中央線勝川駅にて5名を乗せ、中津川インターに向かった。坂下町から北の川上村へ入

り、登山口の夕森公園へ行く。林道歩きは嫌なので行ける所まで車で入るが、2日目の降雪で所どころが圧雪状態でゆっくりと走る。登山口の堰堤前に車を止めると、山頂まで3kmの標識がある。夕森公園から歩けばここまで1時間近くはかかるので、林道が走れてよかった。

8時30分から歩き出す。30分程は割と良い道で、ショウジョウバカマの花やバライカオオレンも見られたが、他の花はまだ咲いていない。木の橋や階段も何ヶ所かあるがよく整備されている。その割に入っている人は少ないと、奥の方で感じた。道が悪くなると踏跡も薄くなる。残雪が薄い踏跡を隠すようになってきたが、

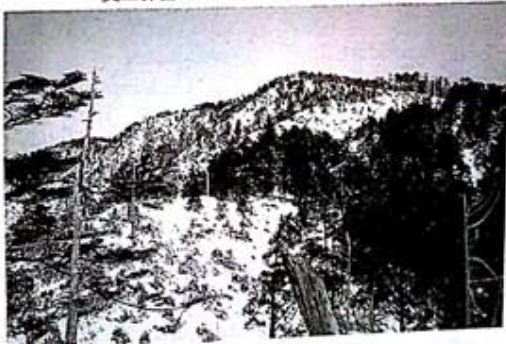
ありそうだが、鞍部が深いと時間がかかるが、思ったよりも下りは少なく先へ進めた。中間部で三界山と奥三界岳の写真を写した。山頂手前の登りはきつくて20分位かかって山頂(1810・5m)に到着。すぐ横に展望台がある。

12時55分、三界山から1時間25分で来れて、展望台で食事にした。快晴なのに遠望はきかない。西は小秀山まで見え、恵那山は見えない。

三界山へ戻る途中に中央アルプスが見えたが、場所は特定できなかった。下りは速くどんどんくだれる。予想した1時間ちょっとで三界山に戻ったが、一つ手前のピークに我々以外の足跡があつて、三界山で待っていた2人が散歩しに来たようである。聞けばその通りだった。

帰路も登ってきた尾根を下りることにして、どんどんくだるが雪の残る所は滑りやすく、かみさんを含めて尻餅をよくついていた。くだるにつれて雪は少なくなり、地道も多く出てきた。尾根のピーク手前の鞍部から谷に下りることにしたが、斜面はきついでゆっくりとくだり、半

奥三界岳 (三界山と奥三界岳の間より)



2日目の雪の下は凍っていてよく滑る。1時間位歩いて3名がアイゼンを着ける。雪は増えさらに歩きづらくなり、テープも少なくなる。特に谷筋は雪が多くて歩きづらい。左岸の斜面を進むが滑るので谷に沿って斜めに登ることにする。木やササをつかんで登るが滑りやすいので、ゆっくりしか歩けない。トラバースして谷に下りようにも斜面がきつくと、尾

分位くだった所からは滑って下りた。谷には朝方の足跡があり、左手の谷へいったん入って引き返した所の少し先に下り着いたようだ。少し休憩してから谷をくだった。

まだまだ雪の残っている場所もあったが、だんだんと少なくなる。早目にアイゼンを外せばよかったと言っていたかみさんが、岩の上を下りる時に足が上からず、体から落ちて右足を打ったようだ。歩きの支障はなくアイゼンを外してくだった。林道へは山頂から2時間後の16時30分に到着した。

もう奥三界岳には行かずに済ませようと思っていたが、家に帰ってから本を見ていたら、奥三界岳には御陵局三角点もあるようだ。雪の無い時にまた行きたくなつた。(平成18年4月1日歩く)

参考タイム

丸根林道岩倉登山口8・30―三界山11・30―奥三界岳12・55(昼食)13・30―三界山14・30―登山口16・30

△地形図▽
2万5千―付知・三留野・奥三界岳



根が近そうなので尾根に上がり込んで休憩した。
尾根はゆるく歩きやすそうだ。テープもあり誰かが歩いている。尾根をつめて20分も行くと三界山(1599・5m)山頂へ着いた。平坦で少し右手、東に歩けば壊れた小屋が見えた。避難小屋ではなくロボット雨量計が置かれている小屋である。持参したガイドブックを再度読むと、三角点は少し西にあるようだ。頂上の表示は無くわからない。
雪質は申しぶんなく足は沈まない。奥三界岳に行くことに決定したが、2人は疲れたので行かないそうで、食事をして待つと言った。
奥三界岳との間には三、四のピークが

連載

韓国登山シリーズ ①

韓流登山ブーム到来か？

韓国

ヨシミスポーツ

吉見英樹

韓国の山

近頃は韓流ドラマが真っ盛り、出張男性の韓国旅行も肩身の狭さを感じなくなってきた。私はソウルオリンピック（1988年）頃より仕事で韓国へ行くことがたびたびあるのだが、必ず空き日を設定し、仕事と称して韓国の山を楽しんでいる。

最近では、日本でも韓国の山へ行く人が増え、店頭で質問されることもけっこう多く、仕事に役立っていて先見の明があったなどと自画自賛をしている。ひょっとして韓流ドラマならぬ、韓流登山の時代が来るのでは、と願っているのである。

今回、韓国登山シリーズを書くことになったので、よろしくお付き合いをお願いします。

いしたい。

今回は具体的な山の紹介ではなく、韓国の登山文化について紹介したいと思う。

韓国の登山人気

ひと言で言ってしまうと、減茶苦茶に凄い。ソウルだけでも登山専門店が何軒あるか全く見当がつかず、有名なトボン山の登山口に軒を連ねる登山専門店ストリートだけでも、数えるのが無理なぐらいにある。そのうえ、登山道や路上の屋台登山店も多く、これらがそれぞれに成り立つ土壌が十分にあり、土・日曜日には、人が山を埋め尽くすほど登山者が多いのである。最盛期の富士登山ぐらいの人が普通に歩

と思うのである。

さて話を本題に戻す。韓国の山はどんな山なのですか？ と聞かれると、一瞬ちよっとがっかりする。実は大半が日帰り登山の山である。標高800〜1500mの山がほとんど、日本人にとって、高さを求める山は無いのである。では何がそんなに良いのかと言うと「簡単にアルピニズムが満喫できる」に尽きる。

山容は？ 簡単に言えば、私の祖父の名前のように岩松。岩と松でできた山である。濟州島の漢羅山を除き、全部岩稜の山である。槍ヶ岳や穂高の頂上付近のおいしい部分だけ切り取って、平地に置いたような山ばかりである。それが大阪の生駒山のように、ごく身近にあるのである。

例を挙げるとソウルにある有名な北漢山だが、街のど真ん中ソウル支庁舎前から1時間で登山口に到着する。コースも多彩で、年輩向きコースから超ハイグレードクライミングコースまで多種多様なコースが選べる。

見た目の迫力は抜群、高度何百メートルの大砲弾丸型で、一枚岩の山がそり立っている。初めて見た日本人はこんな山ど

いるので、高校登山部であると推測されるが、本当に皆、元気がよいのに圧倒された。

我が国では、登山は健康のための中年の運動というイメージがあるが、韓国では登山を純粋なスポーツとして楽しんでいる。国民気質もあるが、日本では日帰り登山クラスでは、服装にあまりこだわらない人が多い。近郊の山などでは、市場で買ったようなシャツとズボン、それにスニーカーのような人も多いが、韓国ではそんな人は100%いない。皆高級品で頭の先から足下までパッチリ決め込んでいる。見た目に大変こる国民性ではあるが、とにかく凄い！ ショップを営んでいる私から見れば、韓国登山市場は宝の山に見えて仕方がないのである。

私も昔、真剣に韓国に出店を考えたほどである。なぜ出店を止めたかという点、韓流ドラマなど無い時代で、あまりにも頻繁に私が韓国出張をするので、家内に「何か悪いことしてるんちゃうか？（ホンマに潔白です）」とかなり疑われたのが理由である。今にして思えば残念だが、私のことだからやっぱり出店を止めたことが、今の家庭円満に貢献している

いていると思っよ。登山者の年齢層は20〜50歳で、これも全く日本と異なっている。したがって減茶苦茶に賑やかなのである。

私が昨年、全羅道・知異山に行った折、高校生の登山グループ（多分100人以上）がドンドン上がってきて、夕方寒いなかで食事をつくっていた。全員揃いのザック（学校名と番号が打ってある）を使って



アタッテ痛い靴の中広げします

（靴底の耐用年数は製造後約4〜5年です）

OUTDOORS SHOP
とスキのヨシミ
YOSHIMI

〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀町4-70
http://www.yoshimisports.co.jp/

TEL. 06-6772-7231 ●営業時間/AM10:50~PM8:00(日曜17:00まで)

毎週木曜日定休

JR天王寺駅 北出口を東へ徒歩約5分
歩道橋を渡ってすぐ

うやって登るのか？と尻込みするほどである。岩肌に取り付けられた階段やワイヤーを頼りに登るのであるが、その高度感はずばらしい。圧倒的な迫力で岩山が迫ってくるのだ。

だが折、帰国してから4日目になるのに、手が震えて文字が書けなかったのだ。理由は岩稜部の数時間を怖くてワイヤーを強く握りしめていたらしいのだ。慣れないとそれほど凄いのである。慣れた韓国人は、45度以上ある岩肌をワイヤーに頼らずフリーでスタスタと登る。我々からするとまさしくサカスカス登山である。

なお、絶対に語っておきたいのが、登山の食文化である。彼らとはかくよく食べる。山中でも大勢が集まり大々的に弁当を広げ、長時間食べまくり、呑みまくるのである。岩だらけの危ない山で飲

酒登山など日本ではとても考えられないが、韓国ではいたって普通なのである。あれやこれやゴチャゴチャ言わないで、とにかく山で楽しむのである。ただし儒教国なので上下の礼はかなり厳しい。これは心得ておかないといけない。そして極めつけは下山後の反省会。登山口には居酒屋(スルチブ)が延々と軒を連ねている。キンパブ屋・ソルロンタン屋・ウナギ屋・



韓国の山と筆者

連載 旗振り通信の新研究 ⑦

九州の旗振山・総索引

柴田昭彦

○九州の旗振り山
○旗振山(福岡県前原市飯原)

HP「大蔵一門原田氏」の「原田氏勢力図」に「旗振嶺山城址」がある。永禄年間(筒城の物見砦として築かれた城で、永禄十年(1567)に落城している。この「旗振山城」については本誌79号で紹介したことがある。雷山(雷神石(七世紀、国史跡)の西、418・5m)ピークの北130mに位置するピークを地元では「旗振山」と呼んでおり、筒城址の横にあるおにぎりのような山であるという。平成18年9月、伊都国歴史博物館に旗振山について問い合わせたところ、由比章祐「怡土志摩郡地理全誌」(東京糸島会、

大正2年)の関連部分の写しが送られてきた(前10頁)。同書の「怡土郡雷山村」の「怡土城址」の項には、次のような記述が見える。
「旗振嶺には兵庫を造りて合図の旗を振り、近郷の兵士を招けり、此故に旗振岳と云とかや。」

同村の「旗振嶺城址」の項には、「旗振嶺の西南にあり、其下に空陸有り」とある。
「怡土郡飯原村」の項には、「筒山城址。雷山の半腹、不動山にあり、筒滝を隔て、東、旗振山にかゝり、石垣残れり」とある。

したがって、前原市の旗振山は中世に

アナゴ屋・生イカ屋など、細かくジャンルに別かれている。日本なら一つの店であれこれ出すはずのものが必ず一つの料理専門なのである。そして、どの店も大変混んでいるのだ。あれだけ山中で食べ、下山後も反省会で大いに盛り上がるのだ。恐ろしい韓国登山食文化である。

かくいう私も、後学のために必ずチャレンジしている。日本人1人で入ると、必ずお店の人や登山仲間が寄ってきて、あれこれ親切にしてくれるのだ。このお

おらかさが一番の魅力である。
日本には山容、高さ、難易度、奥深さ、景観など、はるかにすばらしい山がいっぱいにある。がしかし、韓国でないとこの登山食文化だけは味わえない。ぜひ皆さんも韓流登山にチャレンジしてもらいたい。きっと虜になること請け合いだ。ちなみに私の店には、韓国登山のコース地図・写真などがあるので、ご相談に応じます。
次回から韓国の山を紹介しましょう。

おいて合図の旗を振った所であり、米相場とは無関係なのであった。

○平成18年7月19日、鹿児島県立図書館へメールで鹿児島県における旗振り通信の資料の有無についての調査を依頼してみたところ、同月27日、担当者より電話があり、「今まで調査担当をしてきて、このような依頼内容は初めてです。一週間ぐらい文献を調べてみたが、鹿児島地方では、旗振り通信の裏付け資料はまったく見つかりませんでした」との返事であった。鹿児島ルートの謎については、本誌82号で紹介しておいた。やはり、鹿児島県地方における旗振り通信は根拠がなく、幻に過ぎないものなのであろう。

【筆者のホームページについて】

本誌79号で紹介したように、平成16年4月にホームページ「ものがたり通信」を開設している。テーマは、「円周率」「山」「旗振り通信」「鳥の聞きなし」「メルセッス素数」「超ウラン元素」「プロファイナル」で、平成18年11月3日には、「邪馬台国」を追加した。円周率の記憶詩と鳥の聞きなしは国内最大の収録数である。「山ものがたり」では京都府の山名リス

トの他、近畿の名山、谷文晁の名山(笠置山・笠形山)の考証、旧国名の由来、伊勢山の会の本の一覧も掲載した。

「旗振り通信の新研究」の連載の終わりに際して、本誌79号で掲載したような連載一覧(補遺を含む)と総索引を文末に掲げて、読者の便宜をはかるようにしましたので、79号の総索引と併せて、ご利用ください。

【連載一覧(旗振り山)】

- (本誌82号以降に掲載した旗振り通信の研究(補遺)、旗振り山のコースガイド、旗振り通信の新研究の一覧は次のとおり)
- 82号 研究①(補遺①) 旗振り通信の資料IV
 - 84号 研究②(補遺②) 旗振り通信の資料V
 - 85号 研究③(補遺③) 旗振り通信の資料VI
 - 86号 研究④(補遺④) 旗振り通信の資料VII
 - 87号 研究⑤(補遺⑤) 旗振り通信の資料VIII
 - 88号 研究⑥(補遺⑥) 旗振り通信の資料IX
 - 89号 研究⑦(補遺⑦) 旗振り通信の資料X
 - 90号 金比羅山(のべぶり岩)と小牧山
 - 91号 新研究① 愛知県内ルートI
 - 92号 新研究② 愛知県内ルートII
 - 93号 新研究③ 岐阜県内ルート
 - 95号 新研究④ 岡山ルート

96号 新研究⑤ 生駒山系・萬登・時計・旗振り山

97号 新研究⑥ 腕木通信・旗振り通信の文献

98号 新研究⑦ 九州の旗振り山・総索引

【山名・地名 総索引】

(前掲の連載一覧から選んだもの。数字は本誌の号数を表す。)

- あ 阿武山 82 86 87 赤坂 84
- い 今尾 84 稲谷山 85
- う 伊木山 92 93 石堂ヶ岡 97
- お 雲山峰 89 梅ヶ原山 95
- お 太田城山 85 御茶山 85 小塩山 85 89
- お 大平鉾山 88 大平山 89 95 桶居山 89
- お 落合山(雲山峰) 89 桶狭間 91
- お 大高山 92 尾張本宮山 92
- お 大井 92 緒川(高根山) 92
- か 大尾山(髭山) 97 逢坂山 97
- か 金ヶ崎山 82 神戸城跡(鈴鹿市) 84
- か 神山旗振り山 85 甲山(岡崎市) 92
- か 観音寺山(大府市) 91 92
- か 亀崎高根山 92 髭山(大尾山) 97
- か 金華山 82 84 92 93 狐平山 84
- か 金鳥山 85 岸岡山 91

桶居山



狐平山



天下台山 (のろし岩)



天狗山



- く 北原山(ネムル沢) 92 京見山 95
- く 熊山 88 89 桑谷山 92
- く 黒鉄山 95 暗峠 96
- こ 五里山(千里山) 82 金比羅山 90
- こ 小牧山 90 93 髪切の里 96
- こ 権現山(岐阜市) 93
- さ 三本杉(多度山) 82 84 91 92 93
- さ 皿山(笠岡市城見) 88
- さ サカズキ山 97
- し 正法寺(長田区) 82 85 神明山 84
- し 書写山 88 小豆島 95 十三峠 96
- す 嵩山の山上 91
- せ 千里山三本松 82 84
- そ 千里山 88 千鈴山 89
- そ 相場山(岐阜市) 82 84 93
- そ 相場山(小関山・大津市) 82 89 96
- そ 相場振山(神明山) 84 相場の峰 85
- そ 相場振山(野洲市) 97
- そ 相場振山(姫路市) 97
- そ ソパフリ山(平群町久安寺) 96
- そ ソパフリ山(三郷町南畑) 96
- た 多度山(三本杉) 82 84 91 92 93
- た 大門山と大日山 84 高岡山 84
- た 桶岩城 85 高根山(大府市) 91
- た 高峰山 92 高安山 96
- た 高根山(名古屋市緑区) 92
- ち 大尾山(髭山) 97 高砂峰 97
- ち 高旗山(福高県) 97
- ち 高畑山(山梨県) 97
- ち 高畑山(滋賀・三重県) 97
- ち 長者橋(東大阪市) 82 89
- ち 知立一里山 91 知多本宮山 92
- ち 天下台山 82 天狗山 85 89
- ち 天王山 85 天照山 96
- ち とんび岩 82 殿岡山(阿武山) 86 87
- ち 梅尾山 85 遠望峰山 91 92
- な 鍋山 92 長尾山 92
- な 西大平山 95
- な 二石山(二谷山、西野山) 97
- ね ネムル沢(北原山) 92
- の 野登山 84
- の 旗振り山(金鳥山) 85
- の 旗振り山(阿武山) 86
- の 旗振り山(交野市) 89
- の 旗振り山(前原市) 98 旗立山 96
- の 旗振り台(三宅) 88
- の 旗振り台(操山) 88 半田中継所 92
- の ハナノ木段山 97 旗ガ峯(熊山) 88
- の 美人山(阿武山) 86 87 日差山 88
- の 伏見の米市場 85
- ふ 富士ヶ峰 92 布土 92

ほ 宝台山82 星ヶ城山95
み 明神山85 採山88 三河本宮山92
や ハン面山91 92
よ 遙照山88 横根山(大府市)91
り 竜王山86

【人名 総索引】

あ 青山篤子82 赤松遊86 阿部猛96
有澤隆96 アイネアス88
い 井上正雄87 石橋澄89 池田陸介92
池田末則96 石原聰96
石井威望96 乾幸次97
う 宇津木秀甫86 内田多計男91
お 岡長平82 88 95 落合重信85
岡田敏昭・知子86 岡弘俊己86
岡照夫89 岡秀善・里美89
岡竹二・直治89 面手勝人90
大塚克美93 岡本由美子97
か 川合隆治82 川崎隆章82
桂山孝夫84 川上雄二85
川瀬義一87 神田川英翁88 97
河合卯平88 河合克己92
き 神谷昌志93 亀井市蔵96
片山正彦96 金森敦了97
木村実85 木村俊之86 木谷幸夫89
木下亦作89 清原重93

く キース・ロバートン97
黒田実三郎82 87
黒田三代子82 黒田光次郎82
桑島一男88 楠原佑介95
慶佐次盛一85

こ 小林文吉88 児嶋弘幸89 小塩淳91
小林一恵89 小磯昇翁95
児玉紫乃96 近藤文二97
さ 斎藤富三郎82 93 佐藤善七84
神原邦彦91 沢井浩三96
し 志田順87 下里知足91 柴田芳夫92
鈴木琢也82 杉浦次郎91
す 鈴木重一92 須磨岡頼95
た 田川克生82 田中幸民84
田中才次郎84 田中裕三86 87
高橋秀吉89 竹田博一96
と 竹内康之97
土井好治82 ドゥ・ヴィット将軍88
な 中尾修85 中庄直直86
奈良屋茂左衛門88 中井久史88
中島篤巳89 中島一97 永瀬唯96 97
に 西山秀夫91 92 93
は 服部長昭84 林春樹84 93
浜中家91 橋本登95
ひ 樋口隆康87 樋口清之88 96
ふ 藤井昭三85 藤本好直85

ほ 藤谷瀧95 藤井信幸97
堀尾貞治82 本間信治95
星名定雄97 本渡章97
ポリュビオス88

ま 松本三三男85 松原久子88
宮本文次82 宮本功92
宮本さん96 三浦正悦97
む 向井清隆89
も 森平爽一郎82 97 森本敏弘89
や 森山栄三97
山田さん82 山田光郎82
保田彰84 矢守隆84 安井庄次85 89
山本利一87 安田氏87
安田おじゆん・辰次郎93
や 矢野圭吾95 山本善嗣95
よ 由比章祐98
ゆ 横井時冬82 吉田尚86 横地勲88
吉田節雄88 淀屋辰五郎88
吉岡章89 吉井正彦95
わ 鷲尾治兵衛85 渡辺光男89
和久田薫89 渡辺久雄95

【文献 総索引】

あ 安威郷土史86 朝日新聞89
赤穂の地名95
い 茨木自然歩道86

イラストで歩く関西の山へ行く86
怡土志摩郡地理全誌98
う 腕時計の誕生96 97
え 江吉良郷土史全93 遠鏡図説91
江吉良・舟橋郷土史93
お 「尾張の史跡と遺物」臨時号92
尾張国知多郡誌92 大府町史91
大府市誌91 岡崎地方史話92
岡崎商工会議所五十年史92
おかざき東海風土記97
大津百町物語96

こ 交通(日本史小百科)85
古代の光通信88 こめと日本人88 96
巷説・岡山開化史88 広報あこう95
神戸新聞85 こんなに楽しい岐阜の山旅100コース90
さ 三省堂日本山名事典89 365度96
事典古代の発明88 塩津村誌91
新編鈴鹿市の歴史91
新修大垣市史93 新修関市史93
週刊京都を歩く93
新撰京都名勝誌93 新日本山岳誌97
新・はりまハイキング95
白子郷土史96 遊賢泉の山97
四季のうつろい度根日記97
城州伏見町図97
新・こんなに楽しい愛知の130山

は 図説・美濃の城84 93
図説時計の歴史96 鈴鹿市史91
撰播歴史研究85 先見経済88
競り人伊勢長日誌やっちゃ場伝88
相場師列伝88
高槻史談87 大正の経路89
ち 多度町の民俗91
町人社会の人間群像82
地名伝承学論補訂82
地名伝説の謎95 中日新聞84
地名用語語源辞典95 中国行程記85
中京民俗91 知多半島歴史談本92
通信と地域社会97
つ テクノカレント96 通信協会雑誌93
て 豊明村誌91 豊橋市史91 93
豊橋商工会議所五十年史91
鶴巣村風土記92
な 長田99+1選名物マップ95
日本小商業史・日本商業史82
西尾町史91
は 播磨の街道「中国行程記」を歩く85
旗振り山めぐり85
旗振り速報(岡長平)88 播磨鑑89
旗振り通信(河合卯平)89
羽振り山87 88 89 90 91 92 93 96 97
羽島市史93 浜松市史93

か 神出むかし物語85 交野探訪89
関西小さな町小さな旅85
関西西山・低山歩き86
き 京都の地名検証(1・2)82 85 89 97
京都西山86 歌集相場振山97
京都新聞89 京都市の地名93
「きよのさん」と歩く江戸六百里97
紀のくにふるさと歩道89

す 情報と通信の文化史巻
随想大阪繁昌録82
図説大阪府の歴史89

は 旗振り速報(岡長平)88 播磨鑑89
旗振り通信(河合卯平)89
羽振り山87 88 89 90 91 92 93 96 97
羽島市史93 浜松市史93

はままつ百話93 バヴァーヌ97
 光通信88 日生町誌89
 東大阪市の歴史と文化財89 96
 比叡山1000年の道を歩く97
 兵庫丹波の山97 氷上郡志97
 藤尾の歴史89 ふるさと思考95
 ふるさと岐阜の物語93
 へ 別所町をたずねて89 別所村史89
 み 三ヶ日町史91 緑区の史蹟92
 三重の古文化92
 みちのく縄文地名発掘雄勝96
 南山城の歴史の景観97
 も めディアと文化96
 も ノ語り日本史歴史のかたち89
 本宿小史92
 や 物語で読み解くデリバティブ入門97
 や ちや場伝88 97 八尾の史跡96
 む 邪馬台国は阿波だった88
 む 雷96 夢ふくらむ幻の高安城96
 む 歴史と神戸85
 む 六甲・まや101の大疑問95
 む 和歌山県の山89
 む 忘れられた日本史95

【事項 総索引】
 あ 明石市の旗振りさん82

御手洗相場97
 む 室津での伝承の有無85 89
 む 目鏡(望遠鏡)
 む 武士自然歩道86 師崎遠見番所92
 む 休場(やすんば)82 86 87
 む やましろ里山の会89
 む 八坂の塔(法観寺)93
 む ヨロイ堤87 萬塾96
 む 忘れられた山93

【ホームページ 総索引】
 あ 愛知アルプスの山行記92
 あ あきらちゃん自然散策84
 い 今昔の物語91
 う 浮雲流水の記86 87
 お 大阪府の山紀行82 87
 お 大蔵一門原田氏98
 か 川上雄二のページ85
 か 風の向くまま!85
 き ガルダの日帰りコラム93
 き きまに関西あちこち探訪記86
 こ この神様の低山おろおろ86
 こ 米先物市場を再興しよう!82
 こ 小屋番の山日記91 92 93
 し 情報システム論82
 し 千里山史探検隊82

愛知県の旗振り場91 92
 生駒山系の旗振り場96
 う 腕木通信の文庫97
 え 遠距離通信88
 お 江戸期のインターネット?97
 お 大津の町家を考える会82 96
 お 大津までの通信時間82
 お 黄金伝説84 岡家の望遠鏡89
 お 大高城跡92 岡山県の旗振り場95
 お 大阪一尾道のろしりレー97
 お 鹿兒島ルートの謎82 98 鏡通信97
 お 岐阜県の旗振り場93
 お 京都府の旗振り場93
 お 九州の旗振り山88
 こ 鴻池新田会所89
 こ 正法寺(ながたの旗振り山)82
 こ 静岡県の旗振り場93 慈光寺96
 こ 銭取場97 銭取の由来97
 こ 石碑(石堂ヶ岡)の碑文97
 こ 相場振り跡地82 84
 こ 相場振り師(江吉良)93 双眼鏡96
 こ 松明信号88 太陽通信88
 こ 高見峰96 高安峰96
 こ 中日新聞97
 こ 堤の相場振り93 通信社の役割96
 こ 伝書郵便88

そ すいのさんばみち89
 た 竹田雑学研究所96
 た 探山訪谷97 たぬきホーム97
 て 手旗番号について82
 て 低山歩きとスケッチ89
 と とんび岩通信82
 と ともちゃんのゲストブック86 87
 と とうつんの道くさ89
 な ながたの旗振り山82 85
 な 播州野歩記85
 は 旗振り通信ものがたり88 89 91 96 97
 ひ 姫路市地域歩プラン95
 ひ ペンギン夫婦お山歩日記85
 ほ 放送博物館82
 ま まぐまぐ!88
 み 港町ネットワーク97
 や 山幸彦2004 82
 や 山であそぼ!85 山チャリ89
 ら 養老の三角点84
 ら ラジオフライ82
 ら ランニングがてら85

電話開通以前の高速情報通信網96
 富山公民館88 遠見所95
 東京新聞97 鶴果町の旗振り場97
 の 狼煙台(のろし台・天下台山)82
 の のろし台(千里山三本松)84
 の 烽火台(幕末・知多半島)92
 の のべり岩90 93
 は 旗振り通信員82 旗による通信82
 は 旗振り通信の伝達速度85 87
 は 旗振り通信の再現(旗振り台)88
 は 旗振り台古墳88 95 旗振り山城98
 は 旗振り通信の再現(大津)89
 は 旗振り通信の文庫97
 は 旗振り通信で用いた時計96
 は 『旗振り山』を紹介している文庫96
 は 『旗振り山』の評価96
 ひ 旗ネット95 パケット通信96
 ひ 飛脚85 兵庫県の旗振り場95
 ひ 彦根の旗振り山97
 ひ 光通信96 光ネットワーク96
 ひ ヘリオグラフ(太陽通信)88
 ほ 望遠鏡(岡家)89
 ほ 望遠鏡(浜中家)91
 ま マイクロウエブコース95
 ま 町家・まちなか・萬塾96
 み 三重県の旗振り場91 見張番所92

【まとめ】

平成13年から19年まで7年間、「旗振り通信の研究」の本編23回・補遺7回、「旗振り通信の新研究」の7回、総計37回にわたって研究成果を公表してきたことになる。

旗振り通信は奥が深い。愛知・岐阜における新資料の発掘や、赤穂市の黒鉄山が旗振り山であることの確認により、「旗振り山」の本は改訂が必要になってきている。

将来的には、筆者のHP「旗振り通信ものがたり」をもとにして、『旗振り通信』と題して、Q&A形式でまとめてみたいと考えている。

今後も、旗振り通信ルートの謎の解明を、ライフワークとして継続していきたい。

将来、新しい情報が得られましたら、再び報告することを約束して、新研究の連載の筆をおきたいと思う。

読者の皆様、ご愛読いただきまして、どうもありがとうございました。

(おわり)
 (平成19年5月9日成稿)
 (平成19年5月30日追補)

連載

弁天岳から高野三山

高野

磯部 純

新ハイ西上さんの2月例会は「弁天岳から高野三山」。これまで紀北の山は龍門山しか登ったことがなかったので、紀北の山は5年振りということになる。

私は京都から南の山はあまり馴染みがなく、山へ登る前から四苦八苦して南海の難波駅に着く。まず8時48分の急行に乗らなければと案内板を見るが、どこにも高野山行きの電車が無い。散々見てもわからず、駅員を探して聞いてみると、「橋本行きの急行に乗って、乗り換えてください」との返事。慌ててその電車に飛び乗ったが、電車の中はガラガラで登山姿の人は見当たらない。たしか高槻の彼女も参加すると言っていたのに一体ど

うなっているのだろうか、と例会日を確認するが間違いない。昨晚聞いた天気予報を思いだすが30%以下で、これでは例会中止の可能性がある。時間が経つにしたがい不安が募る。橋本駅に着いて乗り換える時に見知った大阪の彼女に出会い、やっと胸を撫で下ろす。

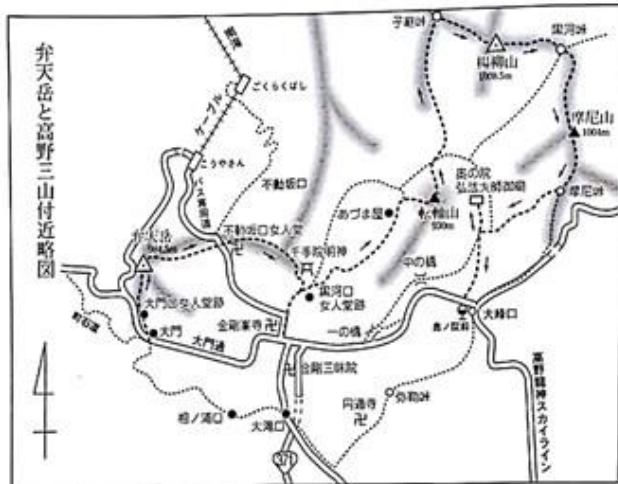
橋本駅で極楽橋行きに乗り換える。紀ノ川を渡り電車が山間に入ると、クネクネと曲がりながらユックリ走って行く。谷を奥に入るにしたがい両岸は狭まり、山斜面も急になってきて、やっと終点の極楽橋駅へ到着。ここからケーブルカーに乗り換えるが、登山姿の人は6人程しかいない。急斜面を登る車窓の右や左に

野山の町の中に入って行く。標高8000mもある山の中にこんな町並が広がっているとは。先程、急峻なケーブル脇の景観を見た後では、信じられない思いがした。高野山の町中を走り、空海が弘仁七

年(816)に、高野山修禅道場を開いた時に名付けられた大日如来を本尊とする、真言密教4000寺院の総本山である金剛峯寺の前を通過して、終点の大門で下車する。

大門とは、九度山に発した高野山町石道である表参道の高野山入口にある大きな門で、平安後期に建てられたが、その後には山火事や落雷で焼失し、現在の大門は、宝永二年(1705)に再建されたものだと言われている。この日の例会参加者は14名。出発までの時間に、リーダーへ「お久しぶりです」とあいさつすると、「岩湧山以来ですね」と言われてしまう。よく覚えていたと思っただが、実際にはその例会の3ヶ月後に「木ノ実ヤ塚」山行に参加しているの、西上さんの例会には三回目、4年半振りの参加である。

10時15分、大門の西から鳥居の道を北へ登る。いくつもの鳥居を潜り、大門口女人堂跡を過ぎ、松に似た細い葉を付けた太い高野槇



不動坂口のお竹地藏



見える滝は、何とも言えず絵になる風景だった。山頂高野山駅に着くとサブリーダーが待っていて、言われるままに大門行きのバスに乗る。高槻の彼女や例会参加者の中に吹田の彼女の顔を見てビックリ。まさか彼女が参加するとは思っていませんでした。

新ハイの参加者で貸し切り状態になったバスは、急カーブを曲がりながら、高

の立ち並ぶ坂道を登って行くと、やがて弁天岳へ着く。山頂には弁財天を祀った社があり、その前には二匹の狛犬が鎮座している。三角点は広場西端に立っている。3等三角点で、点名「弁天岳」。十数年前には三角点標石は消失して無いと聞いていたが、平成16年9月に新たに設置されたようで、標高も地形図にある984.5mではなく、984.2mに変わり、真新しいきれいな三角点標石はシッカリと磁石の南を向いている。ここまで簡単に登ってきたが、大門の標高が848mもあるの、高い所まで登ったとは思えなかった。

ひと息入れて東へくだる。尾根に付けられたよく踏み込まれた道を20分もくぐると、不動坂口女人堂へ下りた。女人堂とは、高野七口と呼ばれていた高野山へ入る七つの道の入口に設けられていた女人のための堂のことである。

高野七口とは、九度山から来る町石道である大門口、京都大阪方面から来る不動坂口、大和から来る黒河口、有田から来る大門南に至る龍神口、相の浦を経由して来る相の浦口、熊野古道小辺路に当たる大滝口、大峰山山上ヶ岳へ至る大



黒河峠の祠

の途中で玉状になったコケを見た。草に詳しい方に、これが吉野のマンネンゴケだと教えてもらった。形状はスキゴケに似ていて、丸くなくかつたらスキゴケと見間違えそう。コケを見て急坂を登り切ると摩尼山。この山頂にも小祠が建っていて、如意輪観音菩薩が祀られている。この山頂から北方を見るとすぐ近くに楊柳山が見えている。摩尼山の標高は1004.4mとなっているが、楊柳山が摩尼山よりわずかに4.5m高いだけだと思えないほどに高くそびえ立って見える。

摩尼山から高野六木(高野榎・杉・モミ・ツガ・松・檜)のうちの幹の太い高野榎やモミの木が立ち並ぶ急坂をくだると摩尼山が見えてくる。転軸山公園の前の池の横から山に取り付き、少し登ったあずま屋で昼食となった。あずま屋は板で塞がれていたが、11人が板の間から潜り込み、中で食べ始めるが、何か息苦しくなり、食べ終わるとすぐに出てしまふ。前回参加した時と同じように、今回もアルコール無しの昼食だった。

この日の山行は終了、すぐ来たバスに乗り高野山駅へ向かう。来た時には比較的乗り換え時間も無くスムーズに來られたが、バスから降りてすぐのケーブルに乗ったのはよしが、極楽橋、橋本駅では時間待ちでイライラ。しかし、そのおかげでおいしい高野山醸造のお酒をゆっくり飲むことができたし、電車は貸し切り状態で、退屈することなく難波駅まで帰れたので、むしろ喜ばなくては……。

(平成18年2月17日歩く)

▲コースタイム▼

- 南海ケーブル高野山駅(バス15分) 大門(25分) 弁天岳(20分) 不動坂口女人堂(45分) 転軸山(40分) 子継峠(25分)
 - 楊柳山(30分) 摩尼山(15分) 摩尼峠(15分) 奥ノ院(10分) 奥ノ院前バス停(バス20分) 高野山駅
- △地形図▼
2万5千Ⅱ高野山

奥ノ院前バス停へは15時30分に到着。

不動坂口女人堂から七口女人道を登って、東へのびている尾根を進む。尾根にはよく手入れされた檜の林が続いている。ゆるく登って道が南へくだるようになる。と、松の落ち葉が目につきだし、くだった所に社があった。社の下は民家で、このあたりが黒河口女人堂跡だそうだが、それを探すことなく先頭は、車道を東へ向かって行く。鶯谷集落に入り右手の道を行くと、遠くに楊柳山が、すぐ近

くに転軸山が見えている。転軸山公園の前の池の横から山に取り付き、少し登ったあずま屋で昼食となった。あずま屋は板で塞がれていたが、11人が板の間から潜り込み、中で食べ始めるが、何か息苦しくなり、食べ終わるとすぐに出てしまふ。前回参加した時と同じように、今回もアルコール無しの昼食だった。

この日の山行は終了、すぐ来たバスに乗り高野山駅へ向かう。来た時には比較的乗り換え時間も無くスムーズに來られたが、バスから降りてすぐのケーブルに乗ったのはよしが、極楽橋、橋本駅では時間待ちでイライラ。しかし、そのおかげでおいしい高野山醸造のお酒をゆっくり飲むことができたし、電車は貸し切り状態で、退屈することなく難波駅まで帰れたので、むしろ喜ばなくては……。

く、転軸山が見えている。転軸山公園の前の池の横から山に取り付き、少し登ったあずま屋で昼食となった。あずま屋は板で塞がれていたが、11人が板の間から潜り込み、中で食べ始めるが、何か息苦しくなり、食べ終わるとすぐに出てしまふ。前回参加した時と同じように、今回もアルコール無しの昼食だった。

12時30分、転軸山への道を登る。この山と楊柳山・摩尼山の三山を高野三山と呼んでいるようで、これから高野三山巡りが始まる。10分も登るとすぐ転軸山に着く。山頂は杉の林に囲まれていて、展望は全く無い。林のなかの広場には弥勒菩薩を祀った社があるだけ。転軸山を表示する標識は古ぼけていて、読むことはできなかった。

三角点は祠の後に、ササに囲まれて立っている。3等三角点で、点名も「楊柳山」標高1000.8・5mの山である。標石は西南向きで、南から30度西へ振っている。楊柳山から急坂をくだって鞍部へ下り、少し登ると黒河峠。ここにも祠がある。この峠道は秀吉が馬で駆け下りたと言われている奈良への近道であったが、今ではその面影を全く留めていない。峠からゆるく登り、尾根を行き、摩尼山の急登

伊勢の神宮を訪ねて

松永恵一

聖地

何事のおはしますかほしむねども

かたじけなさに涙こぼるる

平安時代後期の歌人西行の歌と伝わる。昭和四二年秋、イギリスの文明史家アーノルド・トインビー博士夫妻は神宮に参詣された。五十鈴川の流れて手を清められた夫妻は、正殿前で敬虔に拝礼された。神楽殿の休憩室で乞われるままに記帳簿に毛筆で署名されている。

Here, in this holy place, I feel the underlying unity of all religions.

Arnold Toynbee

29 November, 1967

(この聖地において、私はあらゆる宗教の根底をなす統一感を感じる。)

神宮で「聖地の中の聖地」を感じとられた博士は、「二十一世紀への対話」に「われわれがいま信奉しなければならぬ宗教は、たとえば神道のような汎神教であり」と記した。

ドイツの建築家ブルーノ・タウトは、「伊勢神宮は、独創的な真の日本だ。日本固有の文化の精髓であり、世界的観点からみても、古典的天才的な創造だ」と絶賛し「日本美の再発見」に綴っている。

丹下健三氏は「これほどに、長い歴史に耐えてきた正確なフォームが、またあるだろうか。…日本建築のその後の展開は、すべて伊勢に発しているといってもよいだろう。」と、「伊勢―日本建築の原形」で述べている。

神宮式年遷宮

二十年に一度、正殿を始め御垣内の建物全てを新造し、殿内の御装束や神宝を新調して、神儀(御神体)を新宮へお遷し申し上げるお祭りを神宮式年遷宮という。「皇家第一の重事、神宮無双の大宮」と説かれ、永遠性を実現する大いなる営みである。

制度化されたのは、天武天皇の御代のこと。以来、戦国時代に一時中絶するが、千三百年にわたって続けられている。第六二回神宮式年遷宮は、平成二五年(2013)10月に「遷御」が行われる。

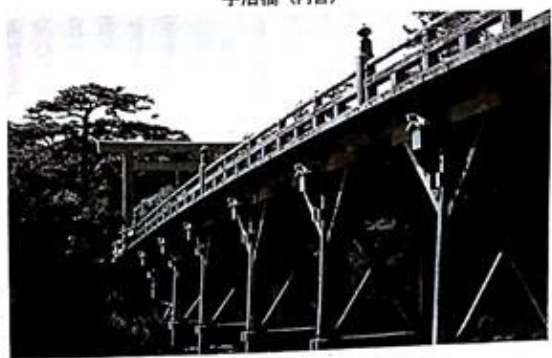
弥生時代の高床式殺倉の姿を今に伝える榎立柱に茅葺屋根。唯一神明造と呼ばれる檜の香も高い建物が完成するまで10年の歳月を要する。御造宮用材を伐採する御桶山の山口に坐す神を祭る山口祭。数々の諸祭儀が続き、地元の旧神領民と全国の一日神領民が参加する「御木曳行事」「お白右持行事」が行われる。御造宮と平行して、御装束神宝も古例に従って調製される。伝統工芸の優れた技術を守り伝えるという重要な意味を持っている。御造宮とともに式年遷宮に欠くことのできない大事業である。

皇大神宮(内宮)

五十鈴川の川上に鎮座。ご祭神は天照坐皇大神。『日本書紀』は伝える。「皇大神は光華明彩しく、六合の内に照り徹らせり」と称えられ、皇孫・天津彦彦火瓊瓊杵尊を高天原からこの国に降される。「豊原の千五百秋の瑞穂國は、是れ吾が子孫の王たるべき地なり。宜しく爾皇孫、就きて治せ。行矣。宝祚のさかえまさんこと、まさに天壤と窮りなかるべし」とのお言葉と「稲の種」を手渡された。

御神体は八咫鏡、八坂瓊勾玉、草薙剣で三種の神器と呼ばれる。代々宮中で天皇ご自身がお祭りされていたが、崇神天皇の御代に大和の笠縫邑で豊原入姫命がお祭りされることになった。垂仁天皇の御代に倭姫命が新たに皇大神をお祭り申し上げるにふさわしい地を求められることになり、大和の国を始め伊賀近江、美濃の諸國を巡られたのち、伊勢の国の度会(のち、宇治)の五十鈴川の川上に到られ、皇大神のお教えのままに「祠」を建ててお祭り申し上げた。神の宮と呼ばれる規模になったのは、天武・持統天皇の御代にかけてのこと。

宇治橋(内宮)



我が国固有の信仰「神道」は他の宗教のようにバイブルとか経典といった、いわゆる教義は無い。生い茂る深い緑、千古の杉の茂る聖なる神の社、時の流れが止まったような静けさの中で呼吸をする、遣伝子の声が聞こえる。拍手を打つ生きとし生けるものが幸せでありますように

豊受大神宮(外宮)

山田の原に鎮座。ご祭神は豊受大神。雄略天皇は皇大神宮のお告げを受けられ、食事をつかさどる御饗都神・豊受大神を丹波の国(天橋立付近)から、内宮にほど近いこの地にお迎えされた。日別朝夕大御饗祭。御饗殿で毎日の朝夕欠かさず続けられている神様にお食事(神饗)をお供えする神事。静岡県の登呂遺跡から発掘されたものと同じ形式の木と木を擦りあわせる御火鑽具を使って清浄な火(竈火)を鑽り、神々にお供えする神饗を調理する。お供えの御水は、毎朝、上御井神社からいただいている。この御井は高天原の天の忍穂井から移されたといわれている。

御飯、饗節、鯛(夏期は干物やスルメ)、海藻、季節の野菜、果物、お塩、お水、清酒。お米は神宮神田、野菜や果物は神宮御園で自然に近い状態で丹精を込めて栽培され、塩は二見の御塩浜で汲み上げた海水を煮詰めてつくられる。鳥羽の国崎から熨斗鮓が奉納される。鮓の身を薄く長くそいでのばして干物にし、それを熨したものを「熨斗鮓」と呼ぶ。これが「熨斗」、「のし紙」の由来。



内宮神楽殿

コース概観

ここは心のふるさとこそぞろ語れば旅ごころうたた童にかへるかな 吉川英治
奈良県の「三輪山」から東に東に進むと伊勢。太陽の神天照大神を祀る神宮が鎮座する。「伊勢に行きたい 伊勢路が見たい せめて一生に一度でも」と伊勢首頭に謳われているように、神宮は昔から人々の変わらぬ憧れの地であった。「お伊勢さん」のお参りに出かけてみた。



内宮の入口・宇治橋は、五十鈴川に架かる檜造りの橋。俗世界と聖界の境の橋は、遷宮の4年前に架け替えられる。橋の中心は「神の通り道」、冬至の日にはこの中心線上に日が昇る。橋の内と外に立つ大鳥居は、旧正殿の棟持柱が用いられる。この地で二十年を経ると、内の鳥居は関の追分の鳥居、外の鳥居は桑名の七里の渡し鳥居となる。

玉砂利を敷きつめた参道が続く。芝生

JR・近鉄の伊勢市駅下車。JR改札口から出る。お伊勢まいりの順序は、「外宮先祭」といって外宮からというものが古米からのならわし。伊勢市駅からまっすぐ南に。正面に緑深い社が見える。おしゃれな店の合間に、老舗の刃物店や木造三階建の堂々とした構えの旅館がある。第一鳥居口から正宮へ向かう。掘川が流れ、火除橋が架かる。左側通行。繁華街と接しているながら一歩神域に入ると森閑とした別世界が広がる。すぐ左側に手水舎。手を清め、口をすすぐ。反対側に楠の大木。樹齢八百年。清盛楠と呼ばれる。第一鳥居をくぐる。第二鳥居の手前の注連縄を張った所が祓所。右側の入母屋造の建物が外宮神楽殿。神札授与所。玉石を敷いた広場が大殿。遷宮祭の時、幣帛点検の儀式が古式のままに行われる。小さな石囲いの中に一本の神が植えられているのが、四至神みやのめぐりのかみ。その向こうに板葺、切妻造の建物がある。奥が五丈殿で手前が九丈殿。まっすぐに進むと正宮。豊受大御神は、来作りをはじめとする諸産業の守護神。幾重もの垣に囲まれている。純白の絹の御幌が垂れている。二拜、二拍手、一拝。

に松の緑が美しい内宮神苑。右手の山々は神路山。「シャリシャリ」と小石の音が響いて気持ち落ち着く。火除橋を渡る。すぐ右に手水舎。一の鳥居をくぐり幅の広い石段を下りると、五十鈴川の御手洗場に出る。鯉が群れをなして泳いでいる。古くからお伊勢参りの人々の祓の場として親しまれてきた。清流に手を差し入れると、お伊勢参りの儼かな気持ちがいっそう高揚してくる。

参道に戻らず、脇道に入りしばらく行くと、風の神さま風日祈宮が鎮まる。7・8月の二ヶ月間、風や雨が順調であるように祈る「風日祈の神事」が行われている。新緑、紅葉の頃、すばらしい自然美を満喫させてくれる。

参道に戻ると正面の大きな建物は内宮神楽殿。お神楽は、神さまに楽しんでいただき、ご加護をいただくこと。お戯い、お供え、祝詞の奏上に続いて、舞女によって優雅な舞など、雅楽の演奏に合わせて舞われる。隣の御饗殿はご祈禱をする御殿。神楽殿のすぐ先には、五丈殿。その後ろに御酒殿、由貴御倉、四至神。注連縄を張った祓所。忌火屋殿。巨大な杉の間を進む。左に御敷地の石

左方から三重の垣の奥にひとときわ高い正殿の屋根が望める。萱葺きの屋根の両端にはV字型に千木がそびえている。先端は垂直（内宮は水垂）に切られている。棟には九本の堅魚木（内宮は十本）を並べる。

正宮の南に別宮が木々に包まれている。亀の形に似た大きな一枚岩の石橋を渡る。この石は天岩戸として参拝されていた。外宮の奥の高倉山山頂の高倉山古墳の入口の石であったと伝わる。三重県下最大、全国九位といわれる横穴式石室を持つ古墳は、山林保護のため入山が禁止されている。右手に土宮、左手に風宮。九八段の急な石段を登りつめると、豊受大御神の荒御魂をお祭りする多賀宮。荒御魂は、正宮の和御魂に対して積極的・活動的な魂をいい、何か事を起こそうという時には元氣をつけてくださる神様。

神楽殿前を左に折れると北御門口に通じる裏参道。正宮を囲む板垣から御饗殿が垣間見える。隣が忌火屋殿。御酒殿。さらに進むと左に御蔵がある。もとの火除橋に戻り勾玉池に向かう。6月には花菖蒲が咲き、中秋の名月には観月会が行われ、冬には野鴨が遊ぶ。内宮は6・離れている。休憩した後、バスで内宮へ。

垣。二十段あまりの石段を上る。杉木立に囲まれた神垣の向こうに、大神を祭る正殿がたたずんでいる。二拜、二拍手、一拝。掃路、右手の脇道にせると、御稲倉、外幣殿の高床式の建物が並ぶ。唯一神明造の特徴を間近にすることができ。荒祭宮は天照大御神の荒御魂をお祭りする。祭典は正宮に続いて勅使も参向して行われる。

参拝を終え神楽殿から右に折れて裏参道を進み、火除橋を渡ると外御蔵があり神馬がいる。参集殿は無料休憩所となっている。湯茶や神宮紹介のビデオなども用意されている。

伊勢はナールで持つ 津は伊勢で持つ (ア ヨイヨイ)

コースタイム

JR・近鉄伊勢市駅(5分) 外宮(バス約15分) 内宮(バス約10分) 近鉄五十鈴川駅
△地形図V2万5千II伊勢

費用

上本町駅→伊勢市駅 1,750円
外宮→内宮 410円
(問い合わせ先)
神宮司庁 ☎0596(24)1111

〈山のレポート〉
山の地名を歩く⑧
オオツクシ
「大尽山」
西尾 寿一

表題の山は、青森県下北半島の宇曽利山湖の南に見事な三角形の影を落とす828呎の山である。峰続きの尾根の一角に「小尽山」もあって、「ツクシ」に強く念を入れている感がある。

むつ市から旧火山のカルデラ湖である宇曽利山湖へ入ると、恐山の地獄の対岸に美しい神奈備の円錐形が目に入る。湖との調和も優れていてすばらしい景観をつくっている。

湖は強い酸性で無機質の淡いブルーの不気味な美しさが漂っている。魚はウグイだけが生息できる。

この山には登山道が峠からと湖へ下ってからと二本あって途中で合流する。車は通行禁止であるが歩くなら湖を一周できる。登山道の入口はその道の途中から小さな標識によって示されている。原生林のなかの湖畔の良い道であるが、

尾根に出たから急登となる。石仏が並んでいて南からの登山道に合するといちだんと急になってくる。最後は狭い突峰に飛び出すが台状の岩上に登ると、宇曽利山湖、恐山、むつ市など遮るものない広い展望が得られる。おそらく台状の岩の上には石仏が安置されていたはずで、かすかに痕跡が見られる。下北では釜臥山・燧岳・大作山・桑畑山が1等三角点の山で一部の篤志家に登られているが大尽山はそれらの山をはるかにしのいで価値の高い山である。

さて、大尽山の名称に付加されている大と小などは体積を示すだけなので、問題は「ツクシ」のほうである。しかしこのツクシが一筋縄ではいかない複雑さを秘めているのである。

「ツクシ」は東北北部一帯に無数に分布している。大尽山の他に異字のツクシは、土筆森山(青森市)土筆森(十和田市)ツクシ森(寛徳町)つくし森(階上町)ツクシ森(鴨子町)筑紫岳(森(富良野市)筑紫山(八郎湯町)筑紫山(上小阿仁村)筑紫山(鹿角市)筑紫森(大館市)筑紫森(河辺町)筑紫森(秋田市)就志森(二戸町)

突柴森(二戸町)など漢字違いながら「ツクシ」でくくれる山の群である。このようなツクシは全く同じ扱いでよいものか、または全く別々のものなのか検討を要する問題だ。

先に挙げた山岳群には若干の特異な特徴がみられる。まず字面では「尽・土筆・筑紫・就志」に区分される。柳田國男はこれを一括して「標」(みをつくし)であるととした。つまりこれらの山は村界などの境界を示す標識として利用したものと理解したのである。実際にも山の形態にもそれらしい姿をしたものが多いのも確かであるが、はたしてそれだけでよいものかももう少し追跡の要を感じている。

地名学者の吉田茂樹氏は東北地方のツクシ群の地名は歴史が浅く柳田説でよいとし、問題なのは、上代の筑紫の発生地である九州のほうにあるとされている(地名の由来)。

なるほど九州の筑紫と東北各地に点在する「ツクシ」系とは異なる時代的背景がありそうだ。

九州の筑紫のほうには地名学では、①境界を示す杭 ②動詞のツクス「尽」 ③

国の西の果てを意味する ④九州の旧国名 ⑤九州の全体の雅称、などとなるが、①は東北のツクシと同義で柳田説だし③は吉田説で共に支持者は少ない。④は結果論であり⑤はその発展形である。最後に残った②が問題で、楠原佑介氏(地名用語語源辞典)および(古代地名語源辞典)などが主張する説である。

九州では筑紫を「チクシ」と発音するが、これは方言とされ、あくまで中央的にはツクシと呼ぶ。そうでないと「尽」の意味が生じなくなるからだ。この説の概要は、筑紫野市にある「尽坂」が元であり、それを中央が取り上げて筑紫と雅称に発展させたとする説である。

鏡味元一・明克(地名の語源)では、他に外敵に備えて築石した所、道の構築、

などが取り上げられている。

日本語の語源的解釈からみれば、やはり②が70%、③が20%、①が10%となる気がするが、九州の筑紫は歴史が古いだけに探究も容易でなく本題からはずれるので、話を東北へ戻す。

小生が不思議とすることは、東北になぜか多く「筑紫」が存在するのだから、これを九州の語源説で理解することとは不可能だから、一応時代差により九州から借用したとする説が有力である。

地名学者の説による東北北部の「ツクシ」地名を全て「標」として扱われることに問題がある。と先に述べたが、その点に言及する。それを分類すると次のようになる。

- ④ 土筆、ツクシ、つくし (植物の種類)
 - ⑤ 尽 (行きつく、行き止まり、突き当たり)
 - ⑥ 筑紫 (土筆と同義ながら、表現を九州から借用とした)
 - ⑦ 就志 (志を成す、凝った名称だが山形は同題)
 - ⑧ 突柴 (土筆の異字か、柴は紫の誤記か)
- などとなるが、⑥は④に入れてもよいが⑦と⑧は意味不明のものが多い。町村の境とする説明では解けないのだ。九州からの借用とするのは漢字化の過程では理解できるが同じ意味は生じないから由に浮いている。町村界以外の境とするのも牽強付会(けんきょうふかい)で現代のランドマークタワー

北アルプス 大日岳の事故と事件

斎藤惇生編 A5判並製 一九九五円

大日岳の雪庇崩落事故がなぜ事件になったのか。有為の少壮弁士が事件の核心にせまり、露氷学の權威が巨大雪庇の構造を世界にさきがけて明らかにした、リーダーの必読書である。(梅棹忠夫氏 推薦)

三訂 奥美濃

高木泰夫著 四六判並製 一八九〇円

樹林の山旅が楽しめる奥美濃七〇山のガイド。写真と地図を多数掲載。春は尾根の残雪を踏んで頂上へ。新緑で萌える頃は花咲く道を、夏は魚影を辿って渓谷をつめ、秋は燃える樹林の中の古い峠道を辿る。

ナカニシヤ出版
http://www.nakanishiya.co.jp/
京都市左京区一乗寺木ノ本町15
☎075-723-0111 〒606-8161

的存在とみるのも悪くないが、全てに適合するわけではない。実物の山を見て登っている小生としては標識で全てを理解せよ、とする方法はきわめて乱暴に思えて仕方がない。

④は土筆(ツクシ)の意味するように山の姿も土地の境界に打ち込まれた棒杭が土筆そのものであるから、この説に反対する人はいない。境界だけでなく、人に知らせる公示の方法にこの手段が普遍的であった。柳田説は「土筆森」を中心に据えた設定がされたものかと思う。

筑紫が昔から九州にあって典雅な地名と知られていたはずで、その九州から開拓者や交易者として東北へ移入した人によって「地名借用」が行われたとする説も、わが国でよく行われてきた「語呂合わせ」の慣習と一致する。たとえ人間の移動が無かった場合でも、文化伝播として土筆などの土着の臭いが強い名称から文化の先進地の名称を頂く場合のあることは多くの実例がある。

「銀座」などは秀吉の城下町であった京都伏見が初見なのに、今では東京が本店の顔をしているのも、全国各地に〇〇銀座があるのも、さらに言うなら〇〇ア

ている。切り捨てられた部分に実は大切な意味が隠されている場合がある。

大尽山は宇曾利山湖(カルテラ湖)の南端にあって青森市からも美しいコニードを見ることができる。その山の北側に湖があり「イタコ」で有名な恐山がある。大尽山の東のむつ市は下北半島唯一の町らしい所で他は満足な耕地すら無い。下北は実に陸の孤島といってよい所である。半島は全て山に占有され農業従事者はほとんどいない。外周に小規模な漁村があるがさびれつつある。半島の先端の中間のみが、NHKの連ドラとマグロでやや活気がある程度である。やはり総合的にみて地の果てのイメージが強い。

そんな土地に大尽山はある。これを単に標識とするか、他に意味があるかの問題となるが、もし土筆的存在なら何故の境界なのか、恐山の宗教・信仰の結果なのか、旧村界なのか意味がはっきりしないし説得力が弱い。

小生は、この山こそ最初に挙げた④の説が最も有力だと考えている。

その昔、中央(京畿)が九州を西の果てと考えたのなら「アツマ」は東の果て

ルプスが全国に散見するのも同一である。また政治的な配慮もうかがえる。土筆森などもおそらく口語で「ツクシ」森を聴いて、後から入った行政が勝手に語呂合わせで筑紫に変えた可能性が高い。アイヌ地名が和人によって変更された例は数知れないのである。

また「ツクシ」に関して、アイヌ語の可能性も検討されねばならない。なぜなら東北北部においてはアイヌ語から和名に置きかえられた例が多いからである。

「アイヌ語地名解」(更科源蔵)では「筑紫恋」が厚岸町の漁村にあって「波間を見て通る道」とする。「日本のアイヌ語地名」(天友幸男)では「チ・クシ」は「われら・越える所」と解釈される。「北海道の地名」(山田秀三)は膨大な資料を駆使する大作であるが、その中でも「尽内」は「津久志内」とされる。ここでも「チ」と「ツ」に置きかえる作業が行なわれている。元は「チクシナイ」であるとし「通路となる沢筋を我々が通る所」とされる。さらに「チクシルウ」は、「チクシ」が往来・「ルウ」が道で往来する道の義となる。

であったのだし、筑波山こそは東の果てであった。

そして北の果てが中央の勢力拡大によってどんどん北上していった。東北に残る境界を示すマーカーが北上して行く傾向は時代を示す地名によって明らかである。筑紫が旧南部地方に多く津軽地方に土筆が圧倒するのが実態である。

筑波山は山の無い北関東で抜き出た高山の扱いを受けているが実際の標高はそれほどでもない。山の高さは相対的なものだから1000mに届かなくても昔は高山だったのだし、ランドマークタワーの役割を演じてきたのだ。

これを標識とみるか、当時の支配地の北限、つまり「尽キタルトコロ」を意味するのか意見の別れるところだが、小生は後者を採りたいのである。

尽はツクシ・ツクスであり、地の果てと理解するならば、他にも同類は存在する。月夜・新なども突き当たった地名に使われている。月夜は月読命の異字に使われる場合もあるが溪谷や峠に使われ、地形は突き当たりの意である。また神戸に衝原があり、今ではダム湖になっているが、地形は袋状の突き当たった感じをも

松浦武四郎は「ル」は路・道で「クシ」は越える義であるとされる。従って「銅路」は、シベツ(現標津)やシャリ(現斜里)などへ越える川筋の通路となっている。

いずれの場合も「ツクシ」ではなく「チクシ」がアイヌ語に多いが意味は共通する。しかし、現代の地名辞典に共通する「標識」として土筆のように打ち立てる棒杭で直立した山形」とは全く異なり、「川筋を辿り目的地へ行くための道」であり、広義の峠・令水界のことだ。

東北の「ツクシ」地名が混在する理由はアイヌ地名を和名に変えた際に十分意味を認識されなかったものがいくつあっても、後になって無理矢理に付近の山に「ツクシ」の名を当ててしまったのではないかと考える。

先に挙げた④が完全にその例に合っており、⑤の多くは問題があると考えている。筑紫峠というのは間違なくアイヌ語の残滓と考えるとよいだろう。

地名学者は現地を全て検証するわけではない。部分をふくらませて全体を論ずる傾向があるので気をつけなくてはならない。地名はそれぞれ個別の意味を持つ

つ土地だった。

大尽山より奥には住民がいけない状態はどうみても「果て」が最も有力である。

標識説は当然「土筆森」だが、これは釜臥山が最も相応しく、だから一等三角点が置かれている。

南部から津軽が分離した時代においてもなお、下北は地の果てであり続けた。その果て「行キツクシ」の義を色濃く残す大尽山をただの標識とする説には、物事を小さく扱う危険が内在しているように感じるのである。

観光バスなら 確実第一の
太陽観光開発(株)へ!!



- ・小型 (20人・24人)
- ・中型 (28人乗り)
- ・中2階 (45人乗り)
- ・大型 (55人・60人)

いずれもサロンカーからデラックスまで

スキーバスもあります

〒578-0971 東大阪市鴻池本町1-20 オカダビル4F
電話 06(6745)3911・FAX 06(6745)3983
夜間・電話 06(6242)2371・FAX 06(6242)2372

〈山のレポート〉 十二支の山 子年の山

生駒 登峰

今年の干支は子(鼠)である。子は十二支の最初で、昔の子の刻とは現在の午前零時を指す。方位としては北である。

十二支の山のレポートは子年から始めたかったが、何しろ十二年に一度しか巡って来ないし、気づいたのは自分の干支の巳(蛇)年であった。一回りになる辰(竜)年まで続けるつもりだが、それでもあと5年が必要になり、それまで山に登っているかわからない。

今錦司博士が十二支の山の登山を提唱され、「十二支会」なるクラブを結成(1960年・昭和35年)し、最初に登られたのが南紀の子ノ泊山と聞いている。以後実に四回48年の歳月が過ぎていて、最初からの会員がおられるのか、当時40歳の人なら88歳、50歳なら98歳になられ、生存も覚束ない。当然会員には高齢の人も多いだろう。

鼠は人間の身近で生活し、クマネズミ・ドブネズミなどがよく見られる。種目としては小形哺乳類の総称で、哺乳類全体の三分の一に達するそうである。ところで子の付く山は羊の山と共に数が少なく、三山を数えるのみである。

名称
標高(約) 20万圓 5万圓
(1)大眼山 (1585) 高山 有峰湖
(2)子ノ泊山 (907) 田辺 新宮
(3)子ノ権現 (650) 東京 秩父
右記以外に

*鼠尾山 (1298) 高山 有峰湖
があるが、地形図や山名辞典にも記されていない。また

*子の原 (1500) 高山 高山
はツツジの名所だが、高原なので山と言えないだろう。

大眼山は、やぶばい山で残雪期に登られている記録があるが、一般的な登山の山ではないようだ。

子ノ泊山は「近畿百名山」にも採り上げられているので、関西の岳人には馴染み深く、登られた人も多いだろう。

子ノ権現は埼玉県にある。関東の人には馴染み深いが、お寺で車道もあるので、お寺参りの感覚での登山。

レはないかと探すが無い。だんだん急を要す事態になってきた。あたふたと外へ走る。

寝静まって真つ暗な砂浜の小屋蔭で、人のいないのを確かめて用を足す。慌てて大よろしく砂をかけて形跡を隠す。と、ホテルマンが血相変えて走ってくる。わめいているところへバトロールのお巡りさんがやって来た。血の氣も引く思いだ。留置場ものだ。そうなつてはかなわないと、必死で状況を説明する。腹を押さえてどうにも我慢ならなくなったこと。トイレが故障で使えないことを精一杯のゼスチャーで説明した。

今思い出しても冷汗が出てくる。ようやくわかってくれた。「仕方ないや」と苦笑いしながら帰してくれた。

アカブルコはパラセーリングの発祥の地です。パラシュートを付けた人間をモーターボートで引く張って、上空500位を鳥になった如く飛ぶのです。上がる前は不安ですが、上がってしまえばまっこと気持ちのいいものです。広がる南国のアカブルコ湾を一望。眼下に紺碧の海。
この体験が忘れられず、後日タイのパチャビーチでもやってきました。これを

私が子ノ泊山に登ったのは、1984年(昭和59年)の晩秋であった。クラブの先輩から「十二支会」の登山の話聞き、ちょうど今年の子年で、十二支登山を始めるに都合がよいとの話であった。当時、紀勢本線には夜行列車が運行されていて、夜行日帰りできた。私が企画してクラブの例会として採り上げたが、同行を約していた岳友は都合が悪くなり、他の人達は自由参加で、集合の天王寺駅から1人で出発した。23時発の列車は魚釣り列車と言われ、釣り人が大勢乗っていた。

タクシィで浅里の西谷林道に入り、ヤケ嵩から蔵光の墓を経て山頂に立った。当時はまだ測量機が残っていて、展望を楽しんだ。パラボランテナの立つ大雲取、とんがりを見せる鳥帽子山、遠く大塔山、法師山など。その年に登られた「十二支会」の立派な登頂板が立っていた。下りは立間戸谷を下和気にくだった。正午には新宮行ききのバスに乗れ、その日のうちに帰宅できた。

子ノ権現は、周辺の伊豆ヶ岳あたりと共に登られているようだ。関東方面に立ち寄った時にも訪れて見よう。

能登の千里浜あたりで車で引く張ってパラセーリングが出来るのではないかと思いうし、流行ると思いますが……。

また、その昔のお話です。福井駅前商店街の歳末大売り出しで、香港広州行きが当たった友達の代わりに行った時の話です。

香港から広州へは飛行機でしたが、広州から香港への帰りは鉄道です。中国本土内では時速80kmで走りますが、国境近くになってからは40kmに落とすとしてトイレの使用は禁止となります。

同行の人と食堂車で飲んだビールが、トイレが閉まった後から効いてきて、下腹がパンパン、お尻モゾモゾ。トイレまで行きましたら案の定鍵が掛かっています。と、洗面所は戸が開いた。

車掌は赤い帽子を被った女の車掌さんです。見つかったら留置場ものです。把手を必死で押さえて小用を足しました。

ゴメンナサイ! 香港のみなさん。身体はスッキリしましたが、気分はスッキリしません。俯いて赤い顔して席へ戻りました。

〈山のレポート〉 国際珍話

高島 伸浩

昔々、その昔のお話です。常夏で情熱の国メキシコの、国際的リゾート地アカブルコにて。

ホテルのトイレの設備が悪く、配管の中に空気が入って、バルブを押した途端に溜まっている汚水がパンパンと大きな衝撃音と共に吹き出てきて顔や体にかかる。大騒ぎで同部屋の人と叫声を上げ、部屋の中や廊下をバタバタと駆け回る。他の部屋から何ごとかと飛び出てくる。マナーにうるさい外人さんからは軽蔑の目で睨まれた。

そのトイレがまたまた大ハブニングを巻き起こす。熱い国だから、昼間ジュースやビールを飲み、辛いメキシコ料理を食べ、夜更けてもホテルの下からはマリアッチの喧嘩な音楽に寝つかれず、そのうち下腹がゴロゴロお尻モゾモゾ、例のトイレは使えず、その階のどこかにトイレ

（重山シリーズ42 亀岡）
南丹の名山を継ぐ
牛松山と三郎ヶ岳

一般コース（★★★）
長宗 清司

昔、牛松山と三郎ヶ岳にはそれぞれのハイキングコースがあり、今でもそれらが利用されているかは別として、今回は、この二つの山を結んで歩くコースを紹介する。

J R山陰本線は嵯峨嵐山駅から保津川を縫うように走る。橋で渡ったりトンネルを抜けたりして亀岡盆地に入ると、すぐに馬堀駅に到着する。（J Rの旧線路は現在観光用のトロッキョ電車が行っている）

次の亀岡駅へ向かう鉄路が右へ大きくカーブするあたりから右手の車窓にお椀を伏せたような形の山がどっかりと座っている。これが牛松山である。山上には金毘羅神社がまつられている。

この山並の延長上北方に、一边が直角の三角定規状の美しい姿のなだらかな山が三郎ヶ岳である。この二つの山は尾根を一つにしている。間に深い七谷川の流れがあり、二つの山へ連続して登るにはどこかでいったん谷へ下り、川を渡ることになる。

亀岡駅で下車。駅前から東の踏切を渡り、保津川下りの乗船場の方へ北上し、エクストラードーズD型の巨大な新保津橋を渡る。

次の十字路を右折して保津の集落に入る。集落内は上り道で学校前を通過して、北保津バス停の先まで北上、行き先標示に従って右折する。

正面の石の鳥居をくぐると山道が竹林のなかに続いている。この登山道は金毘羅神社への参道でもあり、二丁目に御神燈、続いて「二の鳥居」を潜り、七丁目あたりで左に、亀岡盆地の向こうに半国山が見えはじめる。

十一丁目を過ぎるとゆるやかな山道がしばらく続く。十五丁目まで登ると展望が開ける。急坂を登り切った十七丁目に鳥居があり、ゆるい石段を上り切ると、

で登り返して・578坪の鉄塔に着く。木漏れ日の雑木林のゆるい下りで、517坪地点の右手に鉄塔が見える。日本庭園のような岩の多い所を行き、この先・643坪近くに「界」の標識がある。今日のコースは、ここを左（南西）へ切



コース中一番気をつける所

り開かれた台地を越え、しばらくして谷へくだる巡視路に合流。小谷を渡り尾根の鞍部に着く。さらに進んで標高620坪の巡視路の分岐点に着き右折。展望の開けた所からは深い谷が見える。この谷底（七谷川上流）まで一気に下りる。相当急斜面である。一步一步慎重にくだらう。

一の橋を渡り直進し、北からの支流に沿って林道（岩坪線）に入る。三つ目の谷から左に入り、かすかな踏み跡をたどり、尾根の十字路（小峠）に着く。

三郎ヶ岳は通称「千年山」と呼び、この尾根道を北上する。小ピークを越えて疎林の急坂を登りつめ頂上に立つ。展望



J Rの車窓から牛松山を望む（遠方は三郎ヶ岳）



広い境内の奥に、保津川下りの船頭衆の信仰篤い金毘羅神社の社殿が建っている。牛松山の3等三角点は南西方向の一段下にある。元に戻って山中最高点に建つNHKの円形アンテナを右に見て、尾根（巡視路）をくだる。以前は踏み跡程度だったものが、高圧線の鉄塔が建つことで巡視路として整備された。鞍部には寒谷への標識があり、尾根ま

は無いので早々に道を引き返す。

小峠からは、古くから歩かれた道である。千歳町千歳に下山後、南の出雲大神宮や車塚古墳に立ち寄り、保津川に架かる月読橋を渡り千代川駅まで歩く。（平成18年1月15日歩く）

▲コースタイム▼

- J R亀岡駅（10分）保津橋（25分）北保津バス停（10分）一の鳥居（1時間）金毘羅神社（5分）牛松山三角点（10分）NHKアンテナ（25分）界標識（20分）鉄塔（30分）七谷川上流一の橋（15分）三つ目の谷入口（25分）小峠（30分）三郎ヶ岳（20分）峠（40分）千歳（10分）出雲大神宮（10分）車塚古墳（45分）月読橋（10分）J R千代川駅
- △地形図▽2万5千Ⅱ亀岡
- （問い合わせ先）

亀岡市役所商工観光課

☎0771 (25) 5034

京都交通バス

☎0771 (23) 8000

特選コースガイド②

中播磨

置塩城跡から

棚原山

一般コース(★★)

慶佐次 盛一

置塩城跡は雪彦山と明神山と共に夢前三山の一つである。別名置塩城跡、置塩山、小塩城跡、藤丸城跡とも呼ばれ、赤松家を再興した赤松正則が文明元年(1469)頃に築城した。以後五代目城主赤松則房が秀吉に服して開城した天正五年(1577)までの約100年間を、播磨の守護赤松家の本城として君臨していた。

近年、国指定史跡に登録され、城跡への登路も整備されて家族連れでも登れるようになった。城跡往復登山では時間が余るので、置塩城跡から南条山を経て棚原山を越え、塩田へくだるコースを紹介する。

置塩城跡から棚原山までの道標は無く、道も踏跡程度だから読図が必要となる。地形図は2万5千図「前之庄」「姫路北部」としたが、新規格の地形図なら「前之庄」一枚だけでよい。

JR姫路駅前の神姫バスターミナルから雪彦山、前之庄方面行きのバスに乗り、宮置バス停で下車する。所要時間約30分。私達が行ったのは4月初旬とあって途中通過した姫路城は桜が満開だった。

バス停は三叉路になっており夢前川の方へ歩く。左側に早くも置塩城跡が見え、夢前川の宮置橋を渡って左折、正面の春色に萌える置塩城跡を目指す。すぐ右側に江戸時代の飢饉に備えた食料貯蔵庫「国守倉発祥の地」と書かれた柱が建っている。清流の畔には小さな草花が咲き乱れていた。

大きな石に「登山口置塩城跡」と刻まれた登山口に着いたが、すぐ先に見えている櫃藏神社に寄る。五代目城主則房が開城の際置塩城の守護神を、こと糸田の柏森神社、垣屋の櫃倉神社に分祀したと伝えられ、姫路市の史跡文化財である。樹高30m、幹回り6・6mの天然記念物

いしかった。

ここまでは新ハイ関西でお馴染みの須磨岡さんと同行したが、所用で下山されることになり、これから先は私達19名で行動する。まずは東に見上げる南条山を目指す。

本丸から矢竹を分けて本丸周縁の歩道を横断、さらに雑木やぶを分けながら50mほどいっきに高度を落とす。踏み跡も無く残置テープが頼りである。やっと傾斜がゆるんだ先は南条山への急登である。右若い植林、左雑木の間に鉈目が残る急斜面を木の幹や根にすがりながら高度を上げて行く。テープがこまめに残されているが、このコースで一番きつい登り



だろ。壊れたTVアンテナを過ぐすとやっと傾斜はゆるみ、南条山(点名谷山)439・8mの2等三角点に着く。展望は全開とはいかないが、置

赤松家本城だった置塩城跡



大イチョウもそびえ立っている。トイレはここには無いから、登山の無事を祈願して休憩したほうがよい。

登山口へ戻り置塩城跡へと登る。間もなく「一丁」石が現れ、以後ジグザグを刻みながら次々と丁数が増えてゆく。次第に急登となり息が切れ、休みを重ねながら登った。登路脇には炭焼きの窯跡も残っている。

塩城跡が足下に遠ざかり書写山が見えた。さてここから夢前町と香寺町の町界線を歩くことになる。ゆるやかな起伏を連ねる稜線は倒木があるものの踏み跡はあり、豊かな雑木帯で明るいミツバツツジと早くもシロヤシオの花も見られた。386mから約1km先の400mのピークが棚原山だ。

芝生の山頂は注連縄が張り巡らされ、棚原明神旧鎮座跡の碑と小さな祠がある。八徳山八葉寺と林道塩田への道標が建ち、小さな標識には402・5mとあった。「播磨藩」に出てくる神功皇后後の神聖な山で東側の展望が良かった。

展望をゆっくり楽しみ林道塩田線へくだる。ハイキングコースで道標もある。地蔵の祠を過ぐすと林道の登山口で、左の坂道のすぐ上が坂地峠、後は林道を塩田へとくだった。

▲コースタイム▼
宮置バス停(20分) 登山口(1時間) 置塩城本丸跡(50分) 南条山(1時間) 棚原山(20分) 林道登山口(30分) 塩田バス停
△地形図▽2万5千II姫路北側・前之庄

「十八丁」石が現れると一度に傾斜はゆるみ城跡の一角に着いたようで、案内板や道標がある。道標に従い台所跡や二の丸北曲輪群を左に見ながら本丸へと進む。姫路城築城の際にこの城跡の石垣も使われたそうだが、まだ残っている所もある。発掘調査も行われているようで青いシートが各所に見られた。

歩道から数段高くなった所が本丸跡で広々として見晴らしはいい。春霞のなか北に七種山、北西に明神山、南西に書写山が望め、もっと視界が良ければ播磨灘の家島諸島も見えそう。標高は地形図の城山340mよりも高く約370mだろう。満開の山桜の下での食事がお

特選コースガイド③

近江坂とブナ美林

だいにち

三角点大日

一般コース(★★★)

金谷 昭

若狭

滋賀県で唯一日本海に注ぐ県西北部の天増川の奥深い源流部に、かつての木地師の里・能登郷がある。その上部の江若国境稜線に近江坂が通じており、共に歴史を秘めた興味の尽きない山城となっている。また関西地方では屈指のブナのみみ林でもある。

大御影山から近江坂を北上し、三十三間山に向かって西に折れる地点、能登郷の東北上部の天増川源頭に、地形図に山名の無い三角点峰(750・9㍎)がある。点名「大日」から大日山あるいは小御影山・能登郷の頭などと呼ばれている。山頂らしからぬ地味な山容からあまり登られていないが、送電線巡視路と稜線

の近江坂を利用すれば一般登山者でもよぶ漕ぎをしなくても登れ、頂上付近と近江坂のすばらしいブナ林が楽しめる。大日の北側の美浜町の耳川から能登又谷林道をつめ、大日開拓地手前から大日の東北尾根に開かれた送電線巡視路を利用して登る。

さらに時間的余裕のある場合、登頂後は近江坂を南進し、大御影山北面の能登又谷にくだるコースを紹介する。なお公共交通機関は皆無に等しく、タクシーかマイカーに頼らざるをえない。

JR美浜駅から美浜町役場、新庄、松原、そして溪流の里を経て能登又谷林道をつめ、途中で右折して大日開拓地に向かうと、小沢(若谷) 出合の左岸に登山口が出てくる。

地形図にある岩谷沿いに付けられた点線路をたどるのであるが、この岩谷を挟んだ左右の尾根に設けられた送電線の巡視路もある。道路位置が部分的に異なっており、踏み跡やテープに十分気をつけたい。

出合の左岸を少し登ると、沢沿いによく踏まれた歩道が谷奥にのびている。登っ

を離れて右の尾根稜線に向かって深く削られた淵れ沢を登って行く。稜線に飛び出すと、送電柱「若狭幹線甲10」が出てきて展望が得られ、休憩に良い場所である。

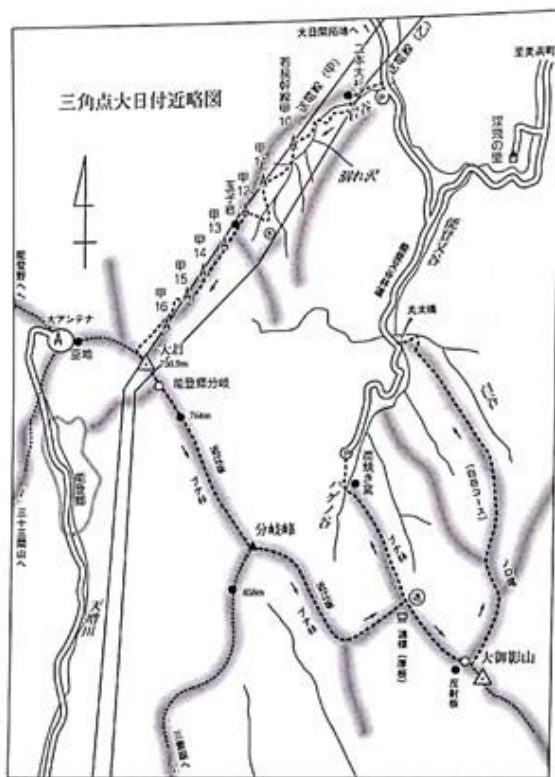
次の送電柱に向かって地形図とは異なっており、尾根通しでなく尾根左の山腹を巻き、

いったん谷に下りて対岸に渡り、山腹に取り付いて再び稜線を目指す。次の送電柱「若狭幹線甲11」に出る。ここではさらに展望がきき、頂上に放射線のある大御影山を見る。

この送電柱からも尾根通しでなく、左の山腹に入り、最後の水場の小沢に下り、

登り返して行くと送電柱「若狭幹線甲12」に出る。

ここからは明るい稜線通しとなるが、急登には変わりない。やがて玉子状の大岩が出てきて二次自然林に入ると傾斜がゆるむ。左の送電線への管理道の分岐を過ぎると、送電柱「若狭幹線甲13」とな



前方に大日頂上(送電柱「若狭幹線甲14」より)



大日頂上広場(3等三角点)



て行くとそれぞれ左右の送電柱への巡視路が分かれているのを二ヶ所見送り、なおも上部の谷に向かって踏み跡をたどって行く。やがて二本の大杉を過ぎると、左岸沿いの道は沢にくだって右岸の水際になり立つ。足を濡らすほどのこともなく沢沿いを行くと、再び左岸に戻り、広い谷間となる。ここで谷が左右に分かれる。右俣に入る。以後は急登となり、谷



近江坂のブナ林

所である。
この左の踏み跡をたどると方位を傷つけた立木が出てくる。その前を少し右寄りに下生えのないブナ原生林の稜線山腹を巻いて行くと、尾根稜線にのるようになって下りて行く。踏み跡が乱れる所があっても最後まで尾根を外さず、尾根末端に近づき左右に谷が望めるようになって、初めて尾根を外れ左に振り、能登又



大日頂上台地の近江坂

り、このあたりから大きな転石のある高原状の自然林となる。送電柱「若狭幹線甲14」が出てくると大きく展望が広がり、ここで初めて前方にこれから登る大日の頂上が望める。
明るい伐採地を歩き、次の送電柱「若狭幹線甲15」からは展望のきかない樹林帯に入り、次の送電柱「若狭幹線甲16」は防雪柵が併設されている。ここから右

杉植林、左雑木林の境界をいったんゆるくくんだり、登り返すとすばらしいブナ林の頂上台地になる。右に三十三間山と近江坂の分岐を見て、間もなく広い平地に3等三角点(点名大目)、が置かれている。周囲は巨木のブナ林で展望はきかず、頂上らしくない頂上である。

頂上から少し先に行くと、今までの送電線とそれに平行する南側の送電線の送電柱二本の周囲は、伐採され明るい眺望が得られる。頂上付近とここから始まる大御影山にかけての稜線の近江坂のすばらしいブナ巨木の原生林がこの山城の見所で、付近をじっくりと散策されることをお勧めする。時間に余裕が無ければ頂上から近江坂を少し南進し、能登郷の分岐まで歩かれるとよい。往復登山の場合は往路を忠実にくだればよい。

△コースタイム▽
岩谷登山口(35分) 最初の送電柱甲10(50分) 高原状の送電柱甲13(1時間) 三十三間山分岐(3分) 大日山頂(1時間50分) 岩谷登山口

○能登又谷(ハゲノ谷)への下山ルート

谷の源頭のハゲノ谷に下り立つ。ここには炭焼き窯の跡があり、対岸(左岸)に渡ると道が出て来て10分もくたると能登又谷林道の終点広場に出る。

△コースタイム▽

大日山頂(15分) 能登郷分岐(45分) 三重嶽分岐(50分) ハゲノ谷分岐(1時間) 能登又谷林道終点

*近江坂は道標・テープ、ハゲノ谷下山コースはテープあり

○大御影山に登り、ノロ尾を経て能登又谷に下る下山ルート(白谷コース)

さらに時間的余裕があれば本コースをとってもよい(詳しくは本誌西93号76ページ参照)

○能登郷周回コース

近江坂の能登郷分岐の支尾根に入り、谷に下りると天増川の源頭の小さな平地が出てくる。かつての木地師の里・能登郷で、集落跡の石垣以外に当時を偲ぶものは無い。

ここへは若狭街道(国道303号線)大杉から天増川沿いに林道が入っているが、

頂上を後にして稜線を南に向かって近江坂に行く。平行する二本の送電線の送電柱のニヶ所の伐採地を過ぎて樹林帯に入ると、下生えのない巨木のブナ林となる。かつて馬も通った道だけに踏みしめられてゆるやかに上下する近江坂は、すばらしいプロムナードである。

すぐ右に送電柱への分岐を過ぎ、10分もすると右に能登郷への分岐が出てくる。次の標高点764m峰へはゆるく登って行くが、落葉期以外は展望がきかず見通しは良くない。主稜線を外さなければ迷うことなく近畿有数のブナ林が楽しめる。次の三重嶽への分岐峰に向かって登りが続き、登り切ると道標が立ち明瞭な尾根道が右に分かれる。

ここで左(東)側に振り、東南方向に向かう国境稜線をおも繞り、ブナ林のなかをゆるやかにくだって行く。標高点780m付近に達するとブナ巨木はやや少なくなると下生えが出てくるが、道は明瞭で迷う所は少ない。

下山ルートのハゲノ谷への分岐は縦走路の右に厚板の大御影山への道標があり、その反対側に踏み跡が入ってきているのみで、案内表示板は無く注意を要する

林道途中にゲートがあり、許可が得られれば車で米られる。この林道は源頭からさらにのび、大日から三十三間山への稜線に出て地形図の726m標高点の野球が出来る大きな駐車場に終わっている。現在大アンテナが設置されている。

現在駐車場は主として送電線の管理用に使用されているが、展望が良く若狭湾が一望できる。ここから大日頂上までは近江坂を歩き、二つのコブを越えればよく、駐車場を出てすぐ右に三十三間山のショートカットの歩道が分岐している。この大日頂上から能登郷、そして大アンテナを経て大日に戻る周回コースは約2時間程で回ることができる。

(平成19年7月18日・8月6日歩く)

△地形図▽2万5千113方・熊川

△交通▽

JR小浜線美浜駅から新庄までコミュニティバス(1日4往復)あり

(問い合わせ先)

美浜町役場(コミュニティバス)

☎0770(32)11111

美浜タクシー ☎0770(32)11133

沿線ハイキングガイド

近鉄 京阪 阪急 南海 神鉄 山陽電車 叡電・京福
公開ハイク 歩け歩け大会 文学散歩 歴史散歩 その他

京阪電車

▽スポニチファミリールイク「豊里大橋・新幹線公園から太閤公園へ」 1月27日(雨)小雨決行・荒天中止(集合)太子橋中公園(守口市駅10分) 9時30分〜10時(コース)守口市駅→太子橋中公園→壺里大橋→鳥飼大橋→新幹線公園→島飼(仁和寺大橋)→淀川河川公園→淀川新橋→太閤公園→香里園駅(約13分) 一般回 参加自由・無料、京阪電車ハイキング担当06(6947) 3702

叡山電車

▽叡電初詣ハイク「鞍馬寺」 1月1日(祝)集合 鞍馬駅6時〜6時30分(コース)鞍馬駅→由岐神社→鞍馬寺(本堂でこ来光) (木の根道) 奥の院→貴船神社 (貴船街道) 貴船口駅(約4分) 一般回 参加自由・無料、叡山電車営業課075(702) 8111

▽叡電新春ハイク「夜泣峠・向山・上賀茂神社」 1月9日(祝)・12日(雨)雨天中止(集合)二ノ瀬駅9時30分〜10時(コース)二ノ瀬駅→夜泣峠→向山→高橋→上賀茂神社→深泥池→(鞍馬街道)→京都精

神戸電鉄

▽木曜ハイク「三木山森林公園・雄岡山コース」 1月17日(雨)雨天中止(集合)三木上の丸駅10時(コース)三木上の丸駅→三木山森林公園→雄岡山→緑が丘駅(約8分) 一般回 参加自由・無料、神戸グループ総合案内所078(592) 4611

神戸電鉄

▽火曜ハイク「紅雲谷・石切道コース」 2月19日(雨)雨天中止(集合)ロブウェイ有馬温泉駅前(有馬温泉駅南約1分) 10時(コース)有馬温泉駅→紅雲谷→石切道→阪急岡本駅(約13分) 健脚回 参加自由・無料、神戸グループ総合案内所078(592) 4611

▽火曜ハイク「鍋蓋山・豊楽谷コース」 2月5日(雨)雨天中止(集合)菊水登山口(鈴蘭台駅南約0.7分) 10時(コース)鈴蘭台駅→菊水山→鍋蓋山→再度公園→徳川道→豊楽谷→炭ヶ谷→谷上駅(約15分) 健脚回 参加自由・無料、神戸グループ総合案内所078(592) 4611

あせからせ

題字・小林琉璃三

新ハイキング関西に入会して15年。お陰で登山の回数も1000回を超えました。

70歳の声を聞いてからはめっきり減り、一般・初級向きとレベルを落とさなくては登れなくなり、小出リーダが辞められた後、足の合った人達と行っています。

通日、故郷(龜山市関町)の明屋ヶ岳から羽黒山を10年振りに登ってきました。10年前は難なく登れた明屋ヶ岳が、今回は悪戦苦闘。若い人達は楽々登頂。羽黒山も、こんなに厳しかったかなあと、10年経ち体力の衰えを痛切に感じました。

羽黒山からの展望、巨岩群の

すばらしさ、厳しい山行になりましたが充実した1日が送れ、私の人生のページを飾る山行になりました。

(宇治市 中村英雄)

水會駒ヶ岳から桂小堀コースに出かけた。千畳敷までロープウェイを使い頂上小屋へ。霧雨が降る寒い日だが、土曜日とあって30人程の宿泊客があった。夕食の時、小屋の主人が挨拶を始めた。

「今夜のお客様の中に新潟から88歳の○○さんがお越しです」「へー! 88歳!?!」
周りから驚きのどよめきと歓声が上がった。主人は話を続け

「あと2年で90歳。お元気で必ずこの小屋を訪ねてください。その時は今夜のお客様にお集まりいただき一緒に祝いをしたく思います」
感激で目は潤み声は少々上ずっている。
誰言うとなく

「必ず来るから!」
「今日のように土曜日にして!」と声が掛かり拍手が鳴り響いた。小屋からパンダのプレゼント。多くを語らず、終始にこやかな○○さん。

同行者は子供、孫連5人。温かさがにじみ出る一行だ。家族関係が希薄になり殺伐とした事件が新聞・テレビを賑わす昨今、このようにお爺ちゃんを囲んでの山歩きの光景に接し一同感動を受け、再会を約束した。

翌朝彼等を残し、爽やかな気分て小屋を後にした。
(大山市 川島勝美)

▽火曜ハイク「鍋蓋山・豊楽谷コース」 2月5日(雨)雨天中止(集合)菊水登山口(鈴蘭台駅南約0.7分) 10時(コース)鈴蘭台駅→菊水山→鍋蓋山→再度公園→徳川道→豊楽谷→炭ヶ谷→谷上駅(約15分) 健脚回 参加自由・無料、神戸グループ総合案内所078(592) 4611

梅ノ木を西に針畑川を走る。荒谷山の南尾根の先端はガケ(岩)が続いているが、最先端だけは金網が切り開かれて、その前に車も置け、そこから取り付く。急登を過ぎれば少しは楽になる。ふと、代車(愛車は修理中)に財布を置いたまま無施錠で歩き出したの思い出したが、急登を戻りたくない。忘れて歩きたを楽しむ。

またきつくなった所から一投足で山頂812・13等点名「細川」。数分だけ頭を出した標石に挨拶する。

北西方・838に進み南西の尾根を探る。乗り換えつつ修正し、尾根を戻り植林伐採の悪場から下山。とにもかくにも針畑川沿いの車道に出た。途端に財布のこを思い出した。

余談ながら小生は元来、気性が軟弱でもとヒッチハイクなどするタイプではなかったのだが、車山行で仕方なしにするようになった。四山行連続でヒッチのユアサ」と崇められるよう

になった(笑)。
本日も一刻も早く車に戻りたい一心からヒッチハイク。親切な運転手さんに感謝!。案の定、車は無事戻ったがおまめけさんの財布は無事だった。

(向日市 湯浅康夫)

9月下旬、深田久弥「日本名山」の大台ヶ原山に行った。一般的な周遊路の標準タイムは4時間だが、老年の私には8時間が必要と考えられたので2日間に分け、1日目は日出ヶ岳登山と首鑑賞路散策、2日目は東大台を周回。

残念ながら1日目は曇りがち、2日目は雨だった。正木嶺の白骨樹林や牛石ヶ原の神武天皇像は眺めたものの、最も期待していた日出ヶ岳山頂や大蛇窟の岩鼻からの展望は果たせなかった。

深田久弥氏は「大台ヶ原に登って雨に遭わなかったら、よほど精進のよい人と言われる。町では一年かかって降る雨を、ここでは一月たらずで降ってしまうのである。」と記している

が、まさにその通りとなった。

しかし深田氏自身は、秀ヶ岳(日出ヶ岳)や大蛇窟のいづれにても晴天下のすばらしい展望を詳述している。NHKの百名山ビデオにも、それらの展望は晴天下のものである。資料を読み返し観賞することによって、精進の悪い人、即ち私は十分に大台ヶ原山の再周遊を果たすことができたのである。

深田氏は、私の郷土石川県の大先輩である。昨年郷里に墓参した際、大聖寺へ寄って「生誕之地」を訪ね、江沼神社の「文学碑」や「山の文学館」へも寄ったのだ。深田百名山の中、現在までに経験したのは33山に過ぎないが、これからも可能な山には登るつもりである。

(枚方市 東谷 宏)

10月中旬、久しぶりに三峰山に登った。近年整備された「ゆりわりコース」は広くて歩きやすい。登山口駐車場から左手には高見山が鋭い。植林帯を過ぎればブナ・ヒメシャラ・ミズナ

ラなどの自然林が山頂まで続く。紅葉は始まったばかりであるが、トリカブト・カワラナデシコ・マモコナの花が見られた。

特記すべきは、登山道右横のゆりわり(ザレ場)に一面に咲くヤマハハコで、最盛期は過ぎてはいたものの見事だった(写真参照)。

その頭上には三峰山から東へのびる稜線が望まれる。三峰山から往復1時間の平倉峰までは気分よい樹林。平倉峰の山頂は草地で北面の展望が広く、鹿の遊び場でもあった。

(名古屋市 酒井勝彦)



山で山に出会った

山ちゃんまた来たよ!
オー山ちゃんよく来たな!
オレは俗界の山ちゃんだ

時々山に文句を言う
こんなひどいヤブを
歩かせやがって!

ここは山あり谷ありヤブありだ
まだまだあるぞ覚悟しろ
と山が言う
オレはいつも覚悟して 山に行く

この前はアケビをたくさん
ありがと
今日はヘビがいたけど
いらねーよ

ふり向けば 夕陽の山が突ってた
(熊谷市 山形 明)

2万5千の地形図Ⅱ四日市西部に、山名が唯一載る垂坂山75・0峰を訪ねるべく、近鉄阿倉川駅で下車。萬古の工場街を足早に通り返し、上り気味のバス道をひたすら歩く。目的は、秋の里山歩きを満喫することにあるのだが……

団地が尽きて「国宝元三大師」と彫る標石の脇を右にとる。上りつめた所に地図読み通り水道局の貯水タンクが二つ、記号の記念碑は傾いて立っていた。が、肝腎の三角点への破線(小径)は草に埋まり、「私有地立入禁止」の看板も。

ここは駄目だと西麓へ。大谷台東にて、山への古い鉄製階段を発見。だが止めてあり登れない。人に尋ねても、そんな所へは行ったことがない。では、大きく廻り込んで、北からなら登れるかも。

しかし、北側にも「立入禁止」の札が。そして周辺は、羽津山緑地と呼ばれる公園が広がっている。やっぱり三角点の探訪はやめにして、緑地ウォークに切り替えようかな。と、そのとき折よく応える人がいて「垂坂山は彼方、遠いですぞ」。念を入れて聞けば、近郷では有名な古刹の観音寺山号が垂坂山だと。おやおや、これも何かの縁、緑地ウォークはそこそこに、そちらの登拝こそ究極かと。結局、

足の向くまま気の向くまま、里歩き専科に終始の一日となった。帰路は、道標が示す「左西阿倉川道」を選び、御厨始良河神社を経由、国指定天然記念物のアイナシ保存地や、イヌなし自生地を巡歴、もとの阿倉川駅に戻った。秋の夕陽はつるべ落としだった。(伊賀市 高田栄久)

山行短歌

8月21日 北摂丸山湿原

花にあこがれて湿原をめぐれば 僕だけのために驚むすめ舞う

8月26日 北摂丸山湿原

風吹けば白い鳥飛び立つことし 君のサギソウいずこへ去りぬ

9月8日 加賀錦城山

深田久弥遊びたる岡の城跡に 蝶の象してコマツナギ咲く

9月9日 加賀高尾山

夢二えがく彦乃のようによげに 小萩の咲いている山路

9月13日 丹波五台山

二度と帰来ぬ青春の谷間に 血の斑点見せ油草鳴くや

9月20日 丹波鬼ヶ城

燃えあがる草原に健気に咲きぬ

河原撫子よ秋はすぐそばに
9月26日 紀東祖石山
上高地にあらねど大河内池から
穂高に似たる山並みを恋う

10月11日 台高山千代ヶ峰
山深き極と短沙羅の尾根を這う
調べかなでる秋風の中で

10月17日 播磨小赤壁
風でなく光りでもなく海沿いの
欄道に寄せる潮のささやき

10月21日 湖東猪子山
亡き母にめぐりあう日はいつか
岩屋観音への坂登りゆく

(吹田市 木村太郎)

兵庫県で二番目に大きな市域をもつ六粟市は1000坪以上の山を一番多く擁する山国である。国産材の低減で山の魅力が低下し、山は荒れるに任せる状態が続いている。緊縮財政で山に多くの資本も投じられない。考え出された名案は、「六粟50名山を選定」することであった。

行政の登山道は立派すぎて悪評なので、今秋から始まった登山経路のあるボランティアの目線で「50名山」とコースの選定

も進み、年明けには決定する運びである。それと併せコースの整備、道標の設置も始まることになっていくことである。行政単独でなく、市民も巻き込んだ観光資源「山」を多方面に発信し、登山者やハイカーが地域で交流を始めてほしいのだ。都市の今を直接肌で感じ地域が元気になるを願っての施策である。

それと併せ、国産材の良さを
見直すため「六粟材」の山林を
歩いてもらい、「材」のプラン
ドとしての確立も狙ってのこと
でもあろう。

これからいろいろな施策が発
表されるのを楽しみに六粟の山
へ足繁く通うのである。
(姫路市 須藤 穠)

8月25・26日、初めて奥穂高
岳に行った。絶好の天候に恵ま
れ微風、ジャングルを越えて
西穂まで縦走できた。

サービステーション



新ハイキングクラブ

ここには、東京本社「新ハイキング」(月刊誌)に掲載のサービステーションを一括して本誌「関西の山」にも掲載しております。

最近、登山する人が増え、遠方の山にもマイカーなどで手軽に行かれる方が多くなりました。一番困るのは、安心して利用できる登山基地の宿情報が少ないことです。サービステーションは「新ハイキングクラブ」グループの特約の宿です。新ハイ関西の会員証を提示いただければ、宿によって異なりますが、「宿泊料金の割引」「登山地までの送迎」「飲み物のサービス」など、何らかの特典が受けられます。どうぞご利用ください。

9月30日、雨で鷲ヶ岳へは行けず、飛騨古川の町と宇津江四十八滝の散策となった。

(海津市 山田明男)

最近津田山・嶺山・鏡山・三上山など、里山をおもに歩いている。

津田山にはウラシマソウ・キンラン・サユリ・ショウジョウバカマ、そしてサワオグルマの大群落等が楽しめる。

嶺山にはヒメハギ・ツルリンドウ・ナルコユリ・ヤブミョウ

ガ・ワラビ・シバグリ等。鏡山・希望ヶ丘・三上山山系にはハル lindou・トキノソウ・サギソウ・キノコウ・オミナエシ・ミミカキグサ・コバナギボウシ等が群生。そしてイワナシ・チタゲサシ・ミヤマウズラ・サルマメ・ヘビノボラス等が見られる。サギソウが咲く高原にハッチョウトンボが飛び廻っている所もある。

その他刈り取られた篠原の田圃には、オモダカの白い花が一面に咲き乱れている。特に気に

新ハイ・サービステーションご利用について

新発見か?

(近江八幡市 岩野 明)

以前からぜひ行きたいと思っていた甲斐駒ヶ岳の馬尾根コースを、友人と歩いた。降水確率の低い日を選んだため、当初の計画よりも2週間遅れの出発になったが、日程の3日間は申し分のない秋晴れであった。雪に備えて軽アイゼンを持って行ったが使用せずに歩けた。

長坂から竹宇駒ヶ岳神社を出発し、七丈小屋に泊まり、翌日山頂を経て北沢峠に下山した。神社から笹ノ平までは急登が絶

5時過ぎの御来光に今日の安全を祈った。ジャンダルムは怖い場所との話が多く、どのような場所か「びくびく」で行ってみたいが怖くはなかった。危険な場所が多いが、ゆっくり歩けば大丈夫。6時間かけて奥穂から西穂へ歩いた。

実際に歩いてみた感想は、奥穂から歩いて良かった。逆からだとなりがずいぶん怖そうな場所が多かったからで、今年一番の思い出ができた。

(海津市 山田妙子)

10月28日、吉野慶一氏リーダーのもとで初めて水ノ山に登った。かねてより一度登りたいと願っていたので、時節柄もよく絶好の機会を得ることになった。帰宅後、山行詩情を七言絶句に託して思いを詠んだ。

リーダーに謝意を表す。

俱門初踏水山
偶獨争研錦繡間

(神戸市 福本愛子)

き、鎖や梯子のつけられた岩場を歩いた。緊張の連続であったがササが茂り苦しむ静寂な空間は、大峰山系を歩いているようだった。信仰の山なので、登山道の所どころに石仏や石碑が置かれ、謙虚な気持ちで歩くことができた。

入山してまもなく、山梨の県獣であるカモシカに遭遇えられ、そして見送ってもらった。胡桃を拾い、周辺の山並に癒され、穏やかな気持ちで歩けた。

いつまでも余韻が残るこの山旅は、忘れられない思い出のひとつになった。

(京都市 小山誠次)

8月5日、白山駅遊歩に行くも5時間ほどかかった。日帰り組は4時間かけずに行けた人もいた。花は実も入れて120余り、思ったより少なかった。

8月12日、白山の平瀬道から中宮道へ歩く。26・9・10、実際は27・4・歩いた。14日、ブナオ山に行くも暑さと疲れでダウンする。3日とも暑かった。花は3日合計で150種も確認し、過去最高となる。実も入れれば170種か。

8月19日、舟伏山へ行った。夏から秋の花が咲き始めていて、実も入れて80種。

8月25日、湖沢岳、奥穂高岳、ジャンダルム、西穂高岳

一片詩情秋可画
晴窓窓不惟還
(意) 門と俱に初めて踏む、編つ水ノ山。楓、湖は妍しさを争う。錦繡(錦と刺繍を施した織物)の間。一片の詩情。秋、画くべし。晴れた空は悠かに碧い。還るを惟わず。

(京都市 小山誠次)

なる野草は外来種だ。春になると、マツバウラン・ブクナ・オオキンケイギク・コバンソウ・ヤナギハナガサ。秋にはアレチヌスビトハギ・セイタカアワダチソウ等が道端や公園、各集落の廻りで急速に増えて咲き乱れている。

何と云っても今年最大の発見は、鮎河の近くにカリガネソウの大群落を発見したこと。青紫色のといっしょにピンクの花が咲き乱れていた。ピンクのカリガネソウは聞いたことがない。

へと縦走した。ジャンダルムは数年来の目標で、怖くはないが危険な場所だった。一度行けばよいだろう。

9月1日、例会で瀬谷山(Sei)へ向かうも土砂崩れのため登山口で撤退した。2日、毛勝山は3グループと単独2人で32人が入り30人が山頂まで行った。

9月8日、甲斐駒・仙丈は台風で入れず、木曾駒から空木岳に縦走したが、空木岳は三度目の正直で行けた。ロープウェイ駅から6時間半、木曾駒小屋から下まで8時間半かかった。

9月16日、新穂高温泉から穂高岳山荘に上がり、北穂高岳に縦走。天候悪化で往復にしたが、天気が良ければ大キレットへ行きたかったがまたしよ。湖沢岳の三角点を探して登ってきたが、たぶん日本で六番目に高い三角点だろう。

9月23日、尾瀬ヶ原に初めて行った。至仏山へは時間の関係で行けず。平滑ノ滝は見に行った。鷲ヶ岳に登って、尾瀬沼から大清水へくだった。

SHCサービスチェーン

<p>「山梨県山 銀ヶ岳」登山口 富士山麓の山梨県山梨市山梨 三ツ分山一精進湖のほとり山梨市 四尾尾湖 水 明 荘 〒400-1366 山梨県山梨市山梨町山梨3-3-8 TEL:055-261-1000 FAX:055-261-1000 http://www17.pob.or.jp/sunoseishu/</p>	<p>自然環境に配慮した山荘 山梨県山梨市山梨町山梨3-3-8 TEL:055-261-1000 FAX:055-261-1000 http://www17.pob.or.jp/sunoseishu/</p>	<p>林間食入浴も歓迎 10名以上マイクロバスで送迎 箱根仙石原温泉 福 島 館 〒250-0106 31 神奈川県足 柄下箱根町仙石原1-39 TEL:0460-84-1904 FAX:0460-84-1904</p>	<p>趣味の名石風呂 富士急須留市駅からバス 道志温泉 日野 出 産 旅 館 〒402-0209 山梨県南都留郡道志町7-176 TEL:0554-152-2641 FAX:0554-152-2641</p>
<p>八ヶ岳から阿爾プスへ渡る風の 道り路 登山ハイキング 散策路 ハケ岳南麓・小沢沢原 ペンション 風 路 〒408-0004 山梨県北都留郡小沢町10122 TEL:0551-361382 FAX:0551-361382</p>	<p>富士山の見える伊豆の雪 天鼓山・羽 渡アルプスの雄姿を望めます 登山者からバス15分 中伊豆温泉旅館 下草 すぐ上1号 貸付7500円 温泉民宿 さわらび荘 〒410-1250 静岡県伊豆市上白岩1043 TEL:05558-18314512 FAX:05558-18314512</p>	<p>日光市石原町422番地 足尾営業所 0288-154-1130 0288-193-3263</p>	<p>360度の展望台 塔ノ岳山頂にある 丹沢湖古の山小屋 尊 仙 山 荘 尊 仙 小 屋 電話:090-12569-6013 〒259-1316 神奈川県厚木市沼代新町1-140 TEL:0463-181-1140</p>
<p>日光市石原町422番地 足尾営業所 0288-154-1130 0288-193-3263</p>	<p>日光市石原町422番地 足尾営業所 0288-154-1130 0288-193-3263</p>	<p>日光市石原町422番地 足尾営業所 0288-154-1130 0288-193-3263</p>	<p>日光市石原町422番地 足尾営業所 0288-154-1130 0288-193-3263</p>
<p>山梨県内、富士五湖周辺など 団体でのハイキングや観光に ぜひ当社バスをご利用ください 富士中央交通株式会社 山梨県南都留郡富士河口湖町船場 272-1 電話:0555-172-2077 FAX:0555-172-2079</p>	<p>山梨県内、富士五湖周辺など 団体でのハイキングや観光に ぜひ当社バスをご利用ください 富士中央交通株式会社 山梨県南都留郡富士河口湖町船場 272-1 電話:0555-172-2077 FAX:0555-172-2079</p>	<p>山梨県内、富士五湖周辺など 団体でのハイキングや観光に ぜひ当社バスをご利用ください 富士中央交通株式会社 山梨県南都留郡富士河口湖町船場 272-1 電話:0555-172-2077 FAX:0555-172-2079</p>	<p>山梨県内、富士五湖周辺など 団体でのハイキングや観光に ぜひ当社バスをご利用ください 富士中央交通株式会社 山梨県南都留郡富士河口湖町船場 272-1 電話:0555-172-2077 FAX:0555-172-2079</p>



どこへ行こうか
SHCサービス
チェーン

お知らせとお願い

平成20年(2008)1月度
例会より、当「新ハイキングク
ラブ関西」の山行運営につきま
して、次のとおりいたします。

- ①山行にご参加いただく場合は、
一例会につきクラブの山行運営
費としてお一人につき4000円
(会員外も同額)を徴収する
(宿泊外も同額)を徴収する
(宿泊代等)一例会。保険代・
救援対策費は日数分。
よって集合受付時に、交通費・
宿泊代等の実費のほかに、保険
代・救援費・山行運営費合計5
000円を徴収係にお支払いくだ
さい。
- ②山行申し込み欄(往復はがき)
にご自身の血液型を必ず明記す
る。
- ③係が下見調査、頒布資料等に
要した費用は、資料代として1
人当たり3000円以内の額で徴
収することがある。
- ④新ハイキングの折には、今年度
より配布の「ハイキング手帳」
を必ず携行する。

上記①につきましては、従来
から年間定期購読料30000円
で、編集・印刷等の本作り、お
よび山行運営まで全て賅ってま
いりましたが、昨今の厳しい状
況の中で、現在クラブの運営も
窮地に立たされております。
ここ数年間、かなりな赤字を
抱えながら運営してきましたが、
これ以上の赤字増は許されなく
この際思い切って決断させてい
ただきました。平素から当クラ
ブの山行にご参加しておられる
会員の皆様には、大変に心苦し
いのですが、よろしくご賢察の
うえ、ご了解ください。

なお、皆様のご協力で、「新
ハイキング関西の山」が山の雑
誌としてより魅力ある内容と読
みやすい紙面作りができ、また
山行例会もバラエティーに富む
活動が可能となります。
「新ハイキングクラブ関西」
が持続・発展できますようお願
い申し上げます。
新ハイキングクラブ関西
(代表) 村田智俊

新ハイキング関西 山行係(リダー)紹介(平成19年1月現・五十音順)

氏名	例会名	住所	電話 (FAX共)
稲垣逸夫(三重の山)		鈴鹿市	0593(71)0246
岩野 明(鈴鹿を歩く)		近江八幡市	0748(33)7215
金谷 昭(北山ちよと歩き)		京都市	075(581)7947
狩野東彦(週末ハイク)		向日市	075(933)1458
木村太郎(ファミリーハイク)		吹田市	06(6834)5488
古賀慶二(兵庫・中国周辺の山)		加古川市	0794(26)1890
須藤岡(兵庫周辺の山)		姫路市	079(273)3037
鷺見守康(自然観察山行)		各務原市	0583(83)3978
高島伸浩(若狭・湖北の山)		敦賀市	0770(23)2443
田中 明(花道り山行)		長岡京市	075(954)5758
田中賢治(奈良・三重の山)		名張市	0595(65)3749
塚元一彦(他国読み山行)		大阪市	06(6933)4125
岡井克治(鈴鹿連山)		鈴鹿市	0593(83)4058
寺井恒夫(平日ふれあいハイク)		京都市	075(811)5231
仲谷礼司(火曜ハイク)		長岡京市	075(952)1577
西上利和(奈良周辺の山)		河内長野市	0721(63)7196
秦 康夫(比良を歩く)		京都市	FAX0721(63)5988
村田智俊(念願山ハイク・北山歩き)		城陽市	075(491)2373
森脇貞義(近江の山シリーズ他)		高島市	0774(53)2754
山口敏明(サイクリングと登山)		名張市	0595(64)5088
山田明男(岐阜百山・展望の山)		海津市	0584(56)1466

山行計画
(1・2月)

新ハイキングクラブ

山行計画には、「会員に限る」と特記してある場合は会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず山行日の7日前までに到着するよう、申込み先を随時確認のうえ申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。

「実費費用」のほかに、本部の「山行運営費」として400円を支払ってください。申し込み後、参加できなくなった場合はすぐ申込み先に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。なお、例金の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発直前の際、係に保険料日額50円と救護対策費日額50円合計100円(夜行日帰りの場合は2日になり200円)を支出していただきます。

傷害保険特約内容は次の通りです。(損害保険ジャパンと契約)

・死亡・後遺障害保険 金額 1000万円

・入院保険金 金額 5000円

・通院保険金 金額 3000円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピンケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷雪登山を目的とした山行 ④宿泊場所内の事故 ⑤病死の場合(詳細は本部まで)

(記入例)

(往復ハガキを使用)

例会申込み書

山行名 (正確に記入すること)

期日

住所 〒

氏名

会員番号
(会員でない方は会員外と記入)

血液型

電話番号・FAX番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL
(山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄には、ご自分の住所・氏名に「様」を必ず記入しておいてください。

山行計画の実施と申し込みについて

- ① 山行例会は、前もって保険を掛け、登山届を提出しますので、必ず実施日の7日前までに、「往復はがき」で申し込んでください。人数によっては事前にバスやタクシーをチャーターする必要がある場合があります。また、山ではいかなる事態が発生するかわかりません。緊急時の連絡先、および生年月日も必ずご記入ください。
- ② 返信の山行案内は、実施日の10日前頃にいたします。直前にならないと参加人数がはっきりせず、交通機関への手配等、費用もはっきりしないためです。また、早くから返信すると、コースの状況等、何か変更になった場合に再連絡するのが大変だからです。早くから申し込まれた方はそれまでお待ちください。
- ③ 定員割の計画は先着順に受け付けます。すでに定員に達し、キャンセル待ちの場合はその旨をすぐに返信をいたします。お断りが無い場合は、定員枠に入っていると判断してください。
- ④ 山行のグレードは、次の5ランクに決めています。
 - (初級向き) 初心者でも安全に歩けるコース(3〜4時間コース)
 - (一般向き) 日頃山歩きしておられる方なら誰でも歩ける標準コース。あまり危険のない山(5時間コース)
 - (中級向き) かなり経験を要するコース。危険な所はないが距離が長いコース(6〜7時間コース)
 - (やや健脚向き) 距離は中級だが危険な所があり、登り・下りが長く続くコース(6〜7時間コース)
 - (健脚向き) 距離が長く、つらい急な登り、危険な岩場、谷の渡渉やが溜まりの連続など、ハードなコース(7時間以上)
- ⑤ 雨天中止・決行の判断は、前夜(17時発表)の当地の気象情報を確認し、返信案内の判断基準により各自で判断してください(係から連絡はしません)。雨降り山行の嫌いな方は、雨天・小雨決行の計画には申し込まないようにお願いします。

1月	行先	定員	リーダー	サブ
25(金)〜26(土)	鈴鹿・松山尾根と鎌ヶ岳	*10	田中賢	
24(木)	大峰・大樽山と三本梅	26	西上	
22(火)	京都北山・三頭山と地蔵山と愛宕山		仲谷	
20(日)	三河・富葉山	10	山田	
19(土)	鈴鹿・總向山	*	岩野	
14(祝)	湖西比叡・大比叡		高島	
13(日)	京都北山・雲取山と芦生		村田	
13(日)	播磨・播磨アルプス縦走		古賀	
12(土)	湖西・湖北武奈ヶ嶽	35	森脇	
12(土)	奈良・サイクリングと大和三山		山口	
10(木)	美濃・権現山	20	鷺見	
9(水)	近江・比叡山		木村	
8(火)	京都東山・稲荷山と粟田口		金谷	
7(月)〜9(水)	台高・馬鞍ヶ場北尾根と赤ゾレ山	*10	田中賢	
6(日)	静岡・遠藤山と越前岳	22	田中明	
5(土)	鈴鹿・押立山(三汗峠)	*	岩野	
4(金)	伊勢・伊勢神宮と鼓ヶ岳		村田	
	西播・御旅山		須磨岡	

*マイカー山行

2月	行先	定員	リーダー	サブ
2(出)	美濃・鍋倉山	20	鷺見	
2(出)	宇陀・伊那佐山と井足谷		村田	
3(日)	六甲・ロックガーデン		古賀	
3(日)	鈴鹿・青電山と本堂山と松尾寺山		岩野	
5(火)	東山・諸羽山と大文字山と若王子山		仲谷	
9(土)	美濃・高沢山と大仏山	20	鷺見	
9(土)	伊賀・サイクリングと尼ヶ岳		山口	
9(土)〜10(日)	南紀・竜神山と三星山と子ノ泊山	22	村田	
10(日)	湖西・赤坂山	23	森脇	
13(水)	京都北山・竜ヶ岳と愛宕山		田中明	
15(金)	南山城・鷲峰山		村田	
16(土)	湖西比叡・渡山		高島	
16(土)〜17(日)	江越国境・上谷山	*8	田中賢	
17(日)	紀泉・三国山と桂塚山	40	村田	
17(日)	比良・蛇谷ヶ峰と富坂尾根		秦	
17(日)	台高・三峰山	10	山田	
17(日)	鈴鹿・雲仙山西南尾根	*	岩野	
21(木)	紀泉・岩屋山と和泉葛城山	26	西上	
24(日)	紀泉・畑石山		木村	
27(水)	京滋・津坂山と長寿山と千石岩		金谷	
29(金)	北河内・ほした園地とくろんど園地		村田	

冬期(1・2月)の登山道は積雪があり、凍結しています。各山行計画欄に特記してなくとも、ロングスバツ・整アイゼン・ストックかビンケル・サングラスなどの雪山を歩く装備で、また手袋・下着・靴下は防寒・防湿用のものを、登山靴は防水してからお出かけください。
 *降水確率が高くて、雪の予報の場合は実施することがあります。(計画欄参照)

恒例のいも煮会
 西播・御旅山(一般向き)
 期日 1月4日(日) 日帰り
 集合 J R姫路駅南出口9時20分
 コース 姫路駅→阿保橋→北原→御旅山→御旅所(解散)
 持物 食器・箸・コップ・飲物・軍手
 費用 500円(いも煮会費)
 地図 2万5千=姫路南部
 係 ◎須磨岡 組
 申込み 〒671-1262
 姫路市余部区上余部50の

2の11 須磨岡 組まで
 瀧のけんか祭り(山で、新しい年の夢を語って正月の食べ過ぎと運動不足を解消しませんか。雨天決行)

伊勢神宮初詣と鼓ヶ岳 (一般向き)
 期日 1月5日(日) 日帰り
 集合 近鉄伊勢市駅9時40分
 コース 伊勢市駅→外宮→蓮台寺→ひもろぎの里→鼓ヶ岳→五本松神社→内宮→おかげ横丁→散策→宇治山田駅(解散15時30分頃)
 費用 交通費各自(上本町駅から約3500円)
 地図 2万5千=伊勢
 係 ◎村田智俊
 申込み 〒610-1012
 城陽市寺田大群10の10
 村田智俊まで
 伊勢神宮への初詣をかけて里山の鼓ヶ岳へ登る。おかげ横丁をぶらつき、正月気分を味わう。
 小雨決行
 鈴鹿を歩く277
 押立山(三軒峠)(一般向き)
 期日 1月6日(日) 日帰り

集合 国道307号線道の駅「マーガレットステーション」8時30分
 コース 道の駅(重)北古屋(置車)→山比古湧水→三叉→押立山南尾根→押立山→中谷葛頭鞍部→中谷林道→北古屋(解散)
 費用 交通費各自
 地図 明文社「御在所・霊仙・伊吹」
 係 ◎岩野 明 ○山田基三
 申込み 〒610-1012
 城陽市寺田大群10の10
 新ハイキング関西まで
 *マイカー山行
 押立山西の三叉から林道が押立山の南の肩までのびている。この林道を登り、北古屋の中谷林道をくだります。押立山登山の新しいトを楽しく歩く。雨天中止
 富士見山行⑤
 静岡・遠藤山と越前岳 (一般向き)
 期日 1月7日(月)~9日(水)
 集合 (7日) J R京都駅八条
 2泊3日
 口団体バスのりば9時00

コース (7日) 京都駅(バス)修善寺温泉ホテル滝亭(泊)
 (8日) 宿(バス)戸田峠→金冠山→遠藤山→土肥駐車場(バス)西伊豆恋人岬(バス)土肥ふじやホテル(入浴・バス)旅館十里木館(泊)
 (9日) 宿(バス)十里木高原バス停→越前岳→富士見峠→愚岳→山神社→愛鷹登山口バス停(バス)すその美人の湯(浴食・バス)京都駅(解散21時30分頃)
 費用 約37000円(バス・宿泊代等)
 地図 2万5千=遠藤山・愛鷹山
 係 ◎田中 明
 申込み 〒617-10838
 長岡京市緑が丘16の9
 田中 明まで
 (HPからメールでも可) <http://hana.04.jp.infoseek.co.jp>
 *定員22名(12月25日まで、少人数はJ Rで)

三回目は、富士の南側から47°および15°、シリーズ中の最遠と最短距離から、山腹に噴火の激しさであんぐりと口を開けている宝水山が見どころです。雨天決行

台高
 馬駐ヶ場北尾根から赤ソレ山 (中級向き)
 期日 1月8日(火) 日帰り
 集合 近鉄榛原駅8時10分/高見トンネル東口広場8時50分
 コース 集合広場(車)木原滝駐車地→馬駐ヶ場北尾根→赤ソレ山→北東尾根→またたきヶ淵山→高見林道駐車地(解散)
 費用 交通費各自
 地図 2万5千=大豆生
 係 ◎田中賢治
 申込み 〒518-0626
 名張市桔梗が丘6の2の18 田中賢治まで
 *定員10名
 *マイカー山行(4名まで乗合可能。希望者はその旨明記ください)
 木尻川上流から霧水の赤ソレ山へ。時間があれば暖かい豚汁でも

フファミリーハイイク115
 近江・比叡山(一般向き)
 期日 1月10日(木) 日帰り
 集合 J R比叡山坂本駅10時10分
 コース 比叡山坂本駅→本坂登山口→花桶堂跡→亀塔→大

つくりましょう。小雨決行
 北山ちよつと歩き5
 京都東山・福富山から粟田口 (初級向き)
 期日 1月9日(金) 日帰り
 集合 J R福富駅(0時)分
 コース 福富駅→伏見福富大社→福富山三角点→清水寺→清水山三角点→持車塚→粟田神社(解散15時頃)
 費用 交通費各自
 地図 2万5千=京都東北部・京都東北部
 係 ◎金谷 昭
 申込み 〒610-1012
 城陽市寺田大群10の10
 新ハイキング関西まで
 京都一周トレイル東山コースを利用する東山の社寺を初詣。小雨決行

比較→延暦寺駅→袋立山→蟻ヶ滝→日吉東照宮→比叡山坂本駅(解散)
 費用 約1900円(J R大阪駅から交通費)
 地図 2万5千=京都東北部
 係 ◎木村太郎
 申込み 〒565-0854
 吹田市桃山台1の2のB12の209 木村太郎まで
 日本仏教母山の比叡山の表参道をたどり、雪を頂く大比叡の1等三角点に登る。袋立山の紀貫之墓に立ち寄り、雨天中止
 自然観察山行242
 美濃・権現山(一般向き)
 期日 1月12日(日) 日帰り
 集合 J R岐阜駅9時15分
 コース 岐阜駅(バス)千本桜公園駐車場→権現山→小知野(バス)岐阜駅(解散)
 費用 約4000円(岐阜駅からバス代等)
 地図 2万5千=岩佐
 係 ◎鷺見守康
 申込み 〒504-10828
 各務原市藤原村雨町1の19の5 鷺見守康まで
 *定員20名(申込み状況

により減員あり)
 目立たないが、面白味のある里山です。小雨・雪決行
 サイクリング&登山⑤
 レンタサイクルで大和三山 (一般向き)
 期日 1月12日(日) 日帰り
 集合 近鉄桜井駅北出口9時30分
 コース 近鉄桜井駅→サイクリング・耳成山公園→登山口(鞋輪)→耳成山→登山口(サイクリング)→藤原宮跡→登山口(鞋輪)→香久山→登山口(サイクリング)→岐傍御陵前駅→登山口(鞋輪)→岐傍山→登山口(サイクリング)→権原神宮→近鉄権原神宮前駅(解散)

交通費各自(自転車レンタル料1200円*自転車は保険対象外)
 地図 2万5千=桜井・岐傍山
 係 ◎山口敬明
 申込み 〒518-0755
 名張市緑が丘中144
 山口敬明まで

レンタサイクルを利用して大和
三山(耳成山・香久山・欽傍山)
に登ります。自分の自転車で参加
の方はその旨記入ください。
雨天中止

近江の山シリーズ⑦ 湖西・湖北武奈ヶ嶽

(健脚向き)

期日 1月13日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バ
スのりば7時20分
コース 京都駅(バス)角川登山
口―赤岩岳―湖北武奈ヶ
嶽―杉山登山口(バス)

京都駅(解放17時頃)
費用 約3000円(バス代)
地図 2万5千ニ熊川

係 ◎森脇貞義 ○磯野重治
申込み 〒6100121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員35名

冬の湖北武奈ヶ嶽に登ります。
ワカンかスノーシューを持参くだ
さい。雨天中止(雪決行)

播磨アルプス縦走(中級向き)
期日 1月13日(日) 日帰り
集合 JR宝殿駅8時45分

コース 宝殿駅(バス)西牧―高
御山―桶屋山―JR御
着駅(解放16時頃)
費用 約500円(バス代)
地図 2万5千ニ加古川
係 ◎古賀慶一 ○岡田 昇
申込み 〒67510112
加古川市平岡町山之下684
の33・17A403
古賀慶一まで

展望が良く、日だまりハイキン
グに最適ですが、距離はそこそこ
あります(コース変更あり)。
雨天中止

京都北山歩き127
雲取山から芦生へ(一般向き)

期日 1月14日(日) 日帰り
集合 京都出町柳駅7時50分発
広河原行きバスに乗り
出町柳駅(バス)花背高
原―寺山峠―ノ谷分
岐―雲取山―雲取山―
ノ谷―芦生―京見坂―旧
花背峠―天狗杉―花背峠
(バス) 出町柳駅(解放
18時頃)

費用 交通費各自
地図 昭文社『京都北山』
係 ◎村田智俊 ○安倉止勝

○呉比裕美

申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで

雲取山から芦生、花背峠への雪
山ハイキング。小雨・雪決行

湖西の山
比較・大比叡(一般向き)
期日 1月19日(日) 日帰り
集合 大津市観光駐車場(日吉
大社から北へ約500m)
9時00分

コース 駐車場―飯室不動堂―元
三大師堂―横川中堂―玉
体杉―浄土院―大比叡―
根本中堂―本坂コース―
日吉大社―駐車場(解
散)

費用 交通費各自
地図 2万5千ニ京都東北部・
大原

係 ◎高島伸浩
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
雪を踏み、神聖な気持ちで聖域
を歩きましょう。*マイカーでの
参加可能。雨天決行

鈴鹿を歩く278 樹水の綿向山(中級向き)

期日 1月20日(日) 日帰り
集合 熊野登り口藤王ダム広場
8時30分

コース 広場(車)熊野バス停―
林道―文三ハゲ―綿向山
―北峰―ブナの木平―塩
の道峠―流山谷―熊野
(解散)

費用 交通費各自
地図 昭文社『御在所・雲仙・
伊吹』
係 ◎岩野 明 ○山田景三
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

毎年恒例の真冬の綿向山です。
小雨・雪決行

展望の山40
三河・富葬山(一般向き)
期日 1月20日(日) 日帰り
集合 名古屋地下鉄上狂駅6
時45分

コース 上狂駅(車)風越峠―富
葬山(往路)―風越峠
費用 約2000円(車代等)

地図 2万5千ニ三ヶ日・三河
高岡

係 ◎山田明男
申込み 〒50310535

海津市南濃町松山624の19
山田明男まで
*定員10名程度

1・2月は白山を離れ、1等三
角点の山を歩きます。この山に登
れば愛知県内の1等点は完全にな
ります(10)。雨天中止

火曜ハイイク39
愛宕山シリーズ16
三頭山・地蔵山から愛宕山
(中級向き)

期日 1月22日(日) 日帰り
集合 JR八木駅8時31分(8
時36分発原行きに乗り)

コース 八木駅(バス)どんどん
橋―屋峰―三頭山―芦見
峠―地蔵山―地蔵の辻―
月輪寺―梨の木林道―清
高バス停(解放16時30分
頃)

費用 交通費各自
地図 昭文社『京都北山』
係 ◎仲谷和司 ○沖 伸
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで
愛宕山の表側の雪は少ないが、
地蔵山を中心に奥の方はけいこ
雪深い所。少しコースを長くしま
したが、しっかりと服装を整えて
雪山を歩いてみませんか。
雨天中止

大峰・大梅山から三本梅
(一般向き)
期日 1月24日(日) 日帰り
集合 近鉄橿原神宮前駅中央口
8時05分

コース 橿原神宮前駅(バス)小
谷林道ゲート前―登山口
―尾根―大梅山―三本梅
―分岐―小谷林道ゲート
前(バス) 橿原神宮前駅
(解放17時頃)

費用 約2900円(バス代)
地図 昭文社『大峰山脈』
係 ◎西上利和 ○前川和佳子
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員26名(会員に限る)

小雨決行
鈴鹿・松山尾根から鎌ヶ岳
(健脚向き)

期日 1月25日(日) 夜26日出
前後発日帰り
集合 (25日)近鉄桔梗が丘駅
19時30分/JR伊賀上野
駅20時10分/JR貴生川
駅20時55分/野洲川ダム
サイト22時00分頃

コース (26日)元越峠付近―稲
ヶ谷出合―松山尾根―鎌
ヶ岳―岳峰―ニゴリ谷―
稲ヶ谷出合―元越峠(解
散)

期日 1月25日(日) 夜26日出
前後発日帰り
集合 (25日)近鉄桔梗が丘駅
19時30分/JR伊賀上野
駅20時10分/JR貴生川
駅20時55分/野洲川ダム
サイト22時00分頃

コース (26日)元越峠付近―稲
ヶ谷出合―松山尾根―鎌
ヶ岳―岳峰―ニゴリ谷―
稲ヶ谷出合―元越峠(解
散)

費用 交通費各自(保険料別途)
地図 2万5千ニ御在所山
係 ◎田中賢治
申込み 〒51810626
名張市桔梗が丘6の2の
18 田中賢治まで
*定員10名

*マイカー山行(4名ま
で集合可能。希望者は
その旨、および希望集合
場所を明記ください)

滋賀県側のやせ尾根から鎌へ。
登頂の可否は積雪量に左右されま
す。役員・ビッケル・アイゼン
(軽アイゼン不可)必要。
小雨決行

自然観察山行243

スノーハイキング
美濃・鍋倉山(一般向き)

期日 2月2日(日) 日帰り
集合 JR大垣駅9時00分

コース 大垣駅(バス)長者平ス
キ―場―登山口―鍋倉山
―長者平スキー場(バス)

費用 約4000円(大垣駅か
らバス代等)

地図 2万5千ニ美濃・横山・
谷汲・池野
係 ◎鷺見守康
申込み 〒50410828
各務原市蘇原村雨町1の
19の5 鷺見守康まで
*定員20名(申込み状況
により減員あり)

スノーシューまたはカンジキ必
携です。小雨・雪決行

宇陀・伊那佐山から井定岳
(初級向き)

期日 2月2日(日) 日帰り
集合 近鉄榛原駅9時50分
コース 榛原駅(バス)比布―高
山石近陣―沢城峠―伊那
佐山―林道の峠―井定岳
―船尾―榛原駅(解放14
時30分頃)

費用 交通費各自
地図 2万5千「初瀬・古市場」
 ◎村田智俊 ○安倉正勝
 ◎奥比呂美
申込み 〒61010121
 城陽市寺田大群10の10
 村田智俊まで

沢城跡から都賀那岐神社の伊那佐山に登り、里山が徳島の井足岳を越える。小雨・雪決行

六甲・ロックガーデン
 (中級向き)
期日 2月3日(日) 日帰り
集合 阪急豊原川駅8時40分
コース 豊原川駅→ロックガーデン・地獄谷→雨ヶ峠→軒茶屋→有馬駅(解散15時頃)
費用 交通費各自
地図 2万5千「有馬・宝塚・西宮」
 ◎古賀慶二 ○岡田昇
申込み 〒67510112
 加古川市平岡町山之上684の33・17A03
 古賀慶二まで

やっぱり楽しいロックガーデン。後はのんびりと山を歩きます(コース変更あり)。雨天中止

鈴鹿を歩く279
 香蓮山・本堂山(正業寺山)・松尾寺山
期日 2月3日(日) 日帰り
集合 国道307号線道の駅「まいがレットステーション」8時30分
コース 道の駅(車)正業寺→正義寺城跡→上ろうおとし→本堂山(往路)→正義寺(車)胡弓神社→青蓮山(往路)→胡弓神社(車)宇曾川ダム→松尾寺山(往路)→宇曾川ダム(解散)
費用 交通費各自
地図 昭文社「御在所・雲仙・伊吹」
 ◎岩野明 ○山田景三
申込み 〒61010121
 城陽市寺田大群10の10
 新ハイキング関西まで
 *マイカー山行

湖東草野の里山歩き。展望台の青草山と本堂山、松尾寺山をのんびり歩きます。小雨・雪決行
火曜ハイク40
京都東山

諸羽山から大文字山・若王子山
 (初級向き)
期日 2月5日(日) 日帰り
集合 JR山科駅9時30分
コース 山科駅→諸羽神社→諸羽山→小金峰手前分岐→雨社→大文字山(二所島峰)→東山トレイル→若王子山→雨澤寺(解散15時20分頃)
費用 交通費各自
地図 2万5千「京都東北部・京都東南部」
 ◎仲谷弘司 ○沖伸
申込み 〒61010121
 城陽市寺田大群10の10
 新ハイキング関西まで

山科駅裏にある諸羽神社の東側の尾根に登ります。展望には恵まれません。歩きやすい尾根道をたどって大文字山へ。少し戻って若王子山に寄ってから雨澤寺へくだります。雨天中止
自然観察山行2444
美濃・高沢山から大仏山
 (一般向き)
期日 2月9日(日) 日帰り
集合 JR岐阜駅9時15分
コース 岐阜駅(バス)高沢観音

駐車場・高沢山・大仏山
 高沢山・高沢観音駐車場(バス)岐阜駅(観音寺)からバス代等
費用 約4000円(岐阜駅からバス代等)
地図 2万5千「美濃」
 ◎菅見守康
申込み 〒50410828
 各務原市蘇原村雨町1の19の5 菅見守康まで
 *定員20名(申込み状況により減員あり)
 美濃の清水寺で知られる山です。小雨・雪決行

サイクリング&登山⑥
 伊賀・尼ヶ岳(一般向き)
期日 2月9日(日) 日帰り
集合 近鉄青山町駅9時30分
コース 青山町駅(サイクリング)→阿保(上高尾)→甲田→尼ヶ岳登山口(駐輪)→尼ヶ岳→富士見峠→尼ヶ岳登山口(サイクリング)→上田(上高尾)→阿保(上高尾)→青山町駅(解散)
費用 交通費各自(自転車は保険対象外)自転車レンタル料3000円(レンタル者のみ)

地図 昭文社「赤目・俱利伽羅高原」(旧版)
 2万5千「俱利伽羅山」
申込み 〒51810755
 名張市緑が丘中144
 山口敏明まで

登山口までサイクリングを楽しむ。天空へのびる階段をたどって伊賀の最高峰、尼ヶ岳(別名・伊賀窟)に登ります。*自転車の貸し出しは申し込み順に3名まで。雨天中止

南紀
 竜神山・三星山・子ノ泊山
 (一般向き)
期日 2月9日(日) 10日(月) 1泊2日
集合 (9日)近鉄上本町駅8時00分
コース (9日)上本町駅(バス)平岩登山口→竜神山→竜星のコーレ三星山→西園のコーレ→佐向谷参拝道(バス)熊野川温泉「まつき」(泊)
 (10日)宿(バス)蔵光登山口→子ノ泊山→ヤケ岩ノ頭→浅里登山口(バス)

さわたる甘泉(入浴・バス)大阪駅西口(解散19時頃)
費用 約20000円(バス・宿泊代等)
地図 2万5千「秋津川・紀伊田辺・大里」
 ◎村田智俊 ○安倉正勝
 ◎奥比呂美
申込み 〒61010121
 城陽市寺田大群10の10
 村田智俊まで
 *定員22名

低山ながら岩壁からは田辺湾、紀伊水道が望める絶景の「山」2日目は十二支の山に登り、今年の山行の無事を祈る。雨天決行

近江の山シリーズ⑥
 湖西・赤坂山(一般向き)
期日 2月10日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バスのりば7時20分
コース 京都駅(バス)マキノ高原→フナの本平→赤坂山(往路)→マキノ高原(バス)京都駅(解散18時頃)
費用 約3000円(バス代)
地図 2万5千「海津・駄口

◎森崎直哉 ○磯野重治
申込み 〒61010121
 城陽市寺田大群10の10
 新ハイキング関西まで
 *定員23名

赤坂山のスノーハイキング。ワカンカスノーシューを必ず持参ください。帰路に入浴します。雨天中止(雪決行)

京都北山・電ヶ岳から愛宕山
 (中級向き)
期日 2月13日(日) 日帰り
集合 JR東山駅8時30分
コース 東山駅→愛宕林道→神明峠→スキー場開拓台陸路→滝谷→電ヶ岳→西見谷→愛宕社務所→水尾峠→西尾根→保津峠(解散17時頃)
費用 交通費各自
地図 昭文社「京都北山」
 ◎田中明
申込み HPからメール受付
 http://hana04.jp.
 info@hane.co.jp
 雪の多い愛宕の滝谷で雪の急登を楽しみましょう。雨天中止(雪決行)

金剛里山ハイキング①
 南山城・鷲峰山(一般向き)
期日 2月15日(日) 日帰り
集合 京都宇治駅8時40分・JR宇治駅8時55分(難中前行き)バスに乗り各駅(バス)難中前行き呼)一信西入道塚(休憩)小屋一金胎寺→鷲峰山空鉢の峰→等三角点→茶室明神社→湯原谷→難中前行(バス)JR宇治駅(解散16時頃)
費用 約8000円(宇治駅よりバス代等)
地図 2万5千「宇治・朝宮・笠置山」
 ◎村田智俊
申込み 〒61010121
 城陽市寺田大群10の10
 村田智俊まで

鷲峰山は、修験者が修行した山で行儀巡りが有名。ただしハイキング気分では危険なので通りません。雨天中止
湖西の山
 比良・滝山(健脚向き)
期日 2月16日(日) 日帰り
集合 JR北小松駅9時00分

コース 北小松駅—鶴川コース—
滝山—滝山登山道—北小
松駅(解散)
費用 交通費各自
地図 2万5千—北小松
昭文社「比良山系」
係 ◎高島伸浩
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
雪山山行。*マイカーでの参加
可能。雨天決行

江越国境・上谷山(健脚向き)
期日 2月16日(中)~17日(日)
1泊2日
集合 (16日) JR米原駅13・
30/大門越前そば道場前
14時50分
コース 広野—手倉山尾根コース、
または上尾尾—中俣谷—
スト谷山(いづれも往
復)
費用 交通費各自(保険対象外)
地図 2万5千—板取・広野
係 ◎田中政治
申込み 〒51810626
名張市桔梗が丘6の2の
18 田中政治まで
*定員8名(全費員に限る)

集合 河内橋頭倉入口広場8
時30分
コース 広場(車)今畑—落合—
汗ふき峠—雲仙山—西南
尾根—笹峠—今畑(解散)
費用 交通費各自
地図 昭文社「御在所・雲仙・
伊吹」
係 ◎岩野 明 ○山田景三
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
毎年恒例の真冬の雲仙山西南尾
根の山行。セツンソウ・フクジュ
ソウは咲いているでしょうか?
楽しみです。小雨・雪決行

*マイカー山行(4名ま
で乗合可能。希望者は
その旨明記ください)
越前側から江越国境の盟主上谷
山へ。積雪を自分でどろどろかのコー
スを選択します。厳しいラッセル
はもちろんのこと。登頂の可否は
積雪状況次第です。寝具・ワカン
必携。小雨決行
紀泉・三国山から経塚山
(一般向き)
期日 2月17日(日) 日帰り
集合 JR新大阪駅正面口1階
団体待合所8時30分
コース 新大阪駅(バス)父鬼—
大岩谷—牛坂—セト—三
国山—宿山—七越峠—経
塚山—鶴谷峠—白川口
(バス)牛滝温泉(入浴・
バス)大阪駅西口(解散
18時)
費用 約3500円(新大阪駅
からバス・入浴代等)
地図 昭文社「金剛・葛城・
紀泉高原」
係 ◎村田智俊 ○安倉正勝
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10

村田智俊まで
*定員40名
三国山東端からの大展望を楽し
み、七越峠、鶴谷峠へと近畿自然
歩道をたどる。雨天中止
比良を歩く63
蛇谷ヶ峰から富坂尾根
(やや健脚向き)
期日 2月17日(日) 日帰り
集合 JR近江高島駅8時55分
(江若バス9時03分発畑
行きに乗車)
コース 近江高島駅(バス)畑—
林道登山口—ボボワ峠
(須川峠)—滝谷の頭—
蛇谷ヶ峰—817分岐
—遊林公社菅林地立着板
—(富坂尾根)—玉津島
神社—高坂口バス停(バ
ス)近江高島駅(富坂口
バス停解散16時20分頃)
*歩行6時間
装備 輪カン・軽アイゼン・ス
トック必携
費用 約2600円(京都から)
地図 2万5千—北小松
昭文社「比良山系」
係 ◎秦 康夫
申込み 〒61010121

約2800円(バス代)
昭文社「金剛・葛城・
紀泉高原」
◎西上利和 ○前川和佳子
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
以前は植林に覆われた岩屋山は
展望も無かつたらしい。今は伐採
され、紀泉の山々を望むことがで
きる。小雨決行
ファミリーハイキング116
紀泉・旭石山(初級向き)
期日 2月24日(日) 日帰り
集合 南海稲佐駅10時10分
コース 稲佐駅—大河内池—田山
川滝—北峰展望台—旭
石山—鳥取池分岐—桃の
木台四丁目(バス)稲作
駅(解散)
費用 約1700円(南海難波
駅から交通費)
地図 2万5千—尾崎・淡輪
係 ◎木村太郎
申込み 〒56510854
吹田市桃山台1の2のB
12の209 木村太郎まで

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
交代でラッセルが必要な場合も
あります。積雪状況により、一部
ルート変更することもあります。
雨天中止

展望の山41
台高・三峰山(一般向き)
期日 2月17日(日) 日帰り
集合 JR桑名駅西口6時30分
コース 桑名駅(車)飯高北奥林
道—ゆりわりコース—三
峰山—(往路)—林道
(車)集合地
費用 約3000円(車代等)
地図 2万5千—菅野
係 ◎山田明男
申込み 〒50310535
海津市南邊町松山62の19
山田明男まで
*定員10名程度
飯高町側から一等三角点を目指
します。霧水が見れたら良いです
ね。雨天中止(雪決行)

穂高岳を眺める上高地の風景に
似た大河内池。奥入瀬渓谷の愛称
で呼ぶ谷をたどり、紀淡海峡を望
む一等三角点に登る。雨天中止
北山ちよっと歩き96
京滋
逢坂山から長等山・千石岩
(一般向き)
期日 2月27日(日) 日帰り
集合 京阪京津線追分駅9時00
分
コース 追分駅—京都形基標測
点—逢坂山—小関越—坊
越—児ヶ峰—長等山—千
石岩—早尾神社—皇子山
公園(解散15時00分頃)
費用 約600円(京都駅から)
地図 2万5千—京都東北部
係 ◎桑谷 昭
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
比較的雪の少ない低山の日だま
りハイイク。千石岩から琵琶湖の展
望を楽しみます。雨天中止

鈴鹿を歩く280
樹水の雲仙山西南尾根
期日 2月17日(日) 日帰り
(中級向き)

(初級向き)
期日 2月29日(日) 日帰り
集合 京阪私市駅9時00分
コース 橋本駅—森林鉄道風歩道
橋—ヒトンの小屋—星の
プランコ—やまびこ広場
—磐船神社—すいれん池
—くろんど池—展望台—
さわたりの路—ハッ橋—
こだちの路—みはらしの
路—すいれん池—私市駅
(解散16時頃)
費用 交通費各自
地図 当日配布(案内パンフ)
係 ◎村田智俊
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで
大阪府民の森の二つの園地を結
び、自然歩道をゆっくりと楽しむ。
雨天中止

金曜聖山ハイキング2
北河内
ほした園地からくろんど園地

期日 2月21日(日) 日帰り
集合 近鉄富田林駅北出口9時
30分
コース 富田林駅(バス)明神谷
登山口—岩屋山—大石ノ
峰—和泉葛城山1等三角
点—お地蔵さん登山道—
溪谷—牛滝山バス停(バ
ス)富田林駅(解散16時

期日 2月21日(日) 日帰り
集合 近鉄富田林駅北出口9時
30分
コース 富田林駅(バス)明神谷
登山口—岩屋山—大石ノ
峰—和泉葛城山1等三角
点—お地蔵さん登山道—
溪谷—牛滝山バス停(バ
ス)富田林駅(解散16時

期日 2月21日(日) 日帰り
集合 近鉄富田林駅北出口9時
30分
コース 富田林駅(バス)明神谷
登山口—岩屋山—大石ノ
峰—和泉葛城山1等三角
点—お地蔵さん登山道—
溪谷—牛滝山バス停(バ
ス)富田林駅(解散16時

期日 2月21日(日) 日帰り
集合 近鉄富田林駅北出口9時
30分
コース 富田林駅(バス)明神谷
登山口—岩屋山—大石ノ
峰—和泉葛城山1等三角
点—お地蔵さん登山道—
溪谷—牛滝山バス停(バ
ス)富田林駅(解散16時

新ハイキング選書

第28巻 バリエーションルートを楽しむ 松浦隆康 著

A 5判288頁/定価1680円 花・巨樹・滝・眺望など魅力の100コース
好評の『静かなる尾根歩き』著者による第2弾。奥多摩・奥武蔵/高尾山・扇山付近/
丹沢・箱根/道志・御坂/大菩薩付近など全100コースに略図付き。

第27巻 房総のやまあるき 内田栄一 著

A 5判261頁/定価1838円 あなたの知らない千葉県南部の58コース
「えっ！千葉県に山があるんですか？」そんなあなたに、とっておきの房総のやまあるき
をご紹介します。標高ではうかがい知れない奥深い房総の山へのガイド。

第26巻 静かなる尾根歩き 松浦隆康 著

A 5判288頁/定価1680円 奥多摩から八ヶ岳まで日帰り100コース
今までむずかしいと思っていたコースへの道を聞くガイド書。コースにグレード区分
をつけ、最新の踏査にもとづき全て分かりやすい略図入りガイド。

第25巻 東京近郊里山ハイキング 新ハイキング・ペンクラブ 著

A 5判232頁/定価1680円 身近な自然を楽しむ東京近郊67コース
意外なほど豊かな自然が残っている東京近郊。北総・房総・武蔵野・多摩・湘南・
三浦半島の里山紀行に加え、初詣と七福神めぐりを網羅した一冊。

第24巻 山岳巡礼 佐藤光雄 著

B 6判362頁/定価1680円 山に魅せられた一登山家の珠玉の紀行集
春の徳高、夏の大雪山、秋の越後北方稜線、冬の御嶽、ひとり拓く山の世界。
本格的に山に取り組む人への食き案内書。

第23巻 多摩100山 守屋龍男 著

B 6判244頁/定価1575円 多摩の山100山を選び組みあげた50コース
多摩丘陵の低山から東京都の最高峰雪取山までを50コースにまとめて紹介。
略図や写真も豊富に入ってわかりやすいガイド書。多摩246山の資料付き。

第4巻 一等三角点のすべて 多摩雪雄 編

上製本/B 6判352頁/定価1890円 一等三角点研究の決定版
都道府県別に一等三角点を地図上に明示。一等三角点についての詳細な解説、
高度順100座一覧表など、この1冊で、一等三角点のすべてがわかる。

●本誌添付の振込用紙で
ご注文されると、送料当社負担

新ハイキング社

〒114-0023 東京都北区滝野川7-5-5 Tel/Fax 03-3915-8110

山行報告

(9・10月号)
新ハイキングクラブ関西

越中・濁谷山と毛勝山

(展望の山36)

9月1日(日)〜2日(月) 1泊2日
〈1日 くもり〉(集合) JR西
岐阜駅6・50/岐阜羽島駅7・10
(車)登山口手前11・10(昼食)
12・05―登山口にて撤退13・05―
登山口手前14・30(車)みのわ温
泉15・30(入浴)16・15(車)北
陸道有磯海SA(夕食・車)片貝
山荘18・00(泊)
〈2日 くもり〉片貝山荘4・50
―1480三角点?・07―モモ
アセ山9・00―毛勝山10・30(昼
食)11・10―登山口15・35(車)
西岐阜駅20・00(解散)
濁谷山付近は大雨があったらし
く、2日前に土砂崩れあり。上へ
入れず登山口まで行って引き上げ
た。毛勝山へは3グループと単独
2人で計32人が入り、30人が山頂
へ行った。昨年よりも道ははつき
りしていて、ツアーも来るように

大峰

下多古川上流部から大所山尾根
9月3日(明)夜〜4日(祝)
前夜発日帰り
〈3日(集合) 近鉄榛原駅21・
15/下多古川道広場22・20(テ
ン
ト泊)
〈4日(晴れ) 下多古川道広場
(大所山登山口)7・15―琵琶滝
落口7・40―中の滝下8・30―後
線(P1314、1401)12・
35―大所山15・00―登山口16・17
(マイカー解散・車) 榛原駅17・
30(解散)

琵琶滝は展望台横から右岸の明
瞭な山道道を伝い落口へ。中の滝
も右岸を捲くが、途中の崩壊部分
がいくぶん不明瞭。上流部にかっ
てあった今留への古道はほとんど
消失していて、最後の流場はルー
ト探しをやっかいだった。おだや
かな詰めから大所への尾根に急登

なった。
(参加者) 吉田峰子 北村つねみ
佐藤文枝 萩野暢子 長坂佐知子
鳥居信吾 高原芳彦 植田とも子
沖 伸 小谷孝子 生越恵美子
伊東弘隆 山田妙子 ◎山田明男
(計14名)

ここから大所山への尾根もやぶと
露岩部があり注意を要した。夏の
終わりの谷とやぶ尾根を自いっば
い楽しんだ。
(参加者) 大村優子 岡平くみ子
井沢重正 西尾辰夫 湯浅みや子
大石吉彦 山口敏明 吉田峰子
山西 治 岸本卓三
◎伊藤喜久男 ◎田中賢治
(計12名)

湖北・余呉湖周回尾根歩道
9月8日(出) 晴れ
(集合) JR余呉駅9・30/40―
江干登山口9・45―大岩山10・20
/30―鉄ヶ岳11・20(昼食)12・
20―飯浦分岐切通し12・35―塩津
分岐13・00―△458・1分(大
平良山)13・30/40―旧櫻坂峠
14・00―権現坂地蔵前14・05―茂
山登降14・20/30―明神山登降15・
00/10―鉄塔15・25―磐梯登山口
15・30―余呉駅15・55(解散) *
16・14発乗車

残雪の厳しいもと、余呉湖を一
周する尾根歩きに挑戦。東尾根
(南行)は遊歩道並みだが、西尾
根(北行)は塩津分岐を過ぎると
自然林に踏み跡が残る程度。権現
坂の峠を越え、なおも二つの磐梯

を見て堂木山野跡の手前まで北上
した。扇路の稲田道から周回した
山並を眺めながら満足して余呉湖
に着いた。

(参加者) 長尾節子 松上英代子
中川光郎 繁田広美 都築由美子
傍田治美 傍田昌子 野々山明美
大林 進 堀江房雄 伊東ナナ子
金森節子 杉木実一 河本美子
岡崎知子 瀧藤 率 中上紀代子
志水明美 松尾陽子 井林寿奈子
芳沢俊夫 田中禮子 村田はる江
稲本芳雄 後藤純子 村田はる江
藤井洋子 榎 聖司 榎 美奈子
岩城豊子 夏山春子 安田文美江
加納由紀子 野末あや子
波多野恵子 ◎呉比呂美
◎村田智俊 (計37名)

ザラノ・スリバチ池

9月9日(明) 晴れ

(集合) 栗橋神社前広場8・05
(車) アサハギ谷合出8・45―尾
根9・50―ザラノ10・30―スリバ
チ池セラビの森11・45(昼食)
12・30―鉄塔13・00―スリバチ池
13・45―アサハギ谷合出14・30
(解散)
アサハギ谷から急斜面を直登し、

尾根からはやぶのなかをザラノに
登る。引き返して秘境の樹林スリ
バチ池周辺を散策。二重線の鞍
部はオニグルミの大木が茂り、鉄
塔はトリカブトの花崗。山全体は
ケヤキを主に大木が茂る深い樹林
でどこでも歩ける。新緑と紅葉の
時期にゆっくり歩いてみたいと思っ
た。

(参加者) 服部 亮 南 智恵子
磯部 純 水戸鉄治 稲垣勝義
多田 徳 岩本彩子 奥野太一郎
大西裕郎 栗本敏夫 村田紀生
西村文男 一芝義雄 一芝美知子
樫田勝利 谷 守 石田真由美
加藤園計 ○後藤康幸
○山田慧二 ○若野 明 (計17名)

紀泉・お菊山
(地図読み山行82)

9月9日(日) 晴れ
(集合) JR長滝駅9:16~35
一 登喜野神社10:05~10:10 新滝ノ池
10:25 登山口10:50 馬の背11:
20 送電線塔11:45 50 1 お菊
山12:50 (昼食) 13:50 小分岐13:
55 林道出合14:30 35 車道出
合15:00 JR新駅15:33 (解
散)

3000以上の低山ながら急登とロ

ングトレイルとにせピークに悩ま
された。初参加が2人だったため
地図読みのレッスンはマンツーマ
ンで懇切にできた。
(参加者) 前田栄三 川戸せつ
橋原良彦 君塚郁子 岩本いすゞ
三木京子 ○中村 登 (計8名)
◎塚元一彦

朽木・地蔵谷峰
(近江の山シリーズ③)

9月9日(日) くもり
(集合) JR京都駅7:20~25
(バス) 能登登山口9:22~38
P738 11:00 地蔵谷峰11:
31 (昼食) 12:40 P738 13:
15 能登登山口14:30 45 (バス
京都駅17:30 (解散)
登山口からの尾根は以前やぶだっ
たが、植林の手入れがされてやぶ
は無かった。地蔵谷峰山頂は全く
展望無いが、途中植林の間から百
里ヶ岳や駒ヶ岳が見えた。
(参加者) 村井芳和 中川節子
多賀久子 沖 伸 和田暢子
青木一雄 飯田二郎 小川富士雄
若林文夫 仲谷礼司 野末あや子
小栗大直 三井純一 石倉貞彦子
西田俊治 風原泰彦 岩鶴健司
小池一郎 川上久登 渡部和美

川田洋子 北村 正 栗柄崇吉
○磯野重治 ◎森脇貞義 (計10名)

台高・伯母ヶ峰
(集合) 近鉄橿原神宮前駅8:05
10 (バス) 展望休憩所9:30
45 登山口9:55 伯母ヶ峰中継
所11:00 伯母ヶ峰11:15 P1
262 11分岐11:50 展望休憩所
12:30 (昼食) 13:00 (バス) 入
之渡温泉13:20 (五倍湯入浴) 14:
35 (バス) 橿原神宮前駅17:00
(解散)

9月13日(日) 晴れ
秋意はまだ厳しいが空は青く澄
み切り、四季の移ろいを感じなが
ら、自然豊かな山頂に続く尾根歩
きを満喫した。帰りは入之渡温泉
で疲れを癒した。
(参加者) 平田輝美 山西 治
上田 伸 宮西和子 岩原辰夫
上田裕子 堀江房盛 若城豊子
大林 進 小栗大直 野末あや子
加藤浩二 松田和恵 川上久登
志水明美 田島輝昭 竹田慶英
辻 陽子 栗柄崇吉 栗柄君子
小林 桂 杉本英一 今泉 勲
馬鹿忠男 ○木村 豊
○前川和佳子 ◎西上和和 (計27名)

前後発日帰りの
(18日) (集合) 近鉄橿原駅21:
15 / カラスキ谷公園23:00 (テッ
ト泊)
(19日) 雨のちくもり カラスキ
谷公園10:10 8:05 1 1 8:
45 古ヶ丸山10:25 (昼食) 11:
05 1 カラスキ林道終点13:55 1 カ
ラスキ谷公園14:40 (車) 橿原駅
17:00 (解散)
夜半からの雨で、大熊三山コー
スを断念、古ヶ丸山を目指す。ガ
スで全く視界は無いが、8:05
1 1 三角点付近からは気持ちのよ
い自然林の快適な尾根。山頂で昼
食の後、通行止めとなっている林
道コースをくぐる。通行止めは、
P1056 北尾根の標高750
付近の伐採地の崩壊によるもの
で、道が不明瞭になっていた。カ
ラスキ谷林道はほぼ修復が終わっ
ているが、車の通行は不可
(参加者) 大村俊子 佐古田文字
緒方由子 飯田二郎 湯浅みや子
吉田峰子 山西 治 南 智恵子
○岡平くみ子 ◎田中賢治 (計10名)

越美・夜叉ヶ池
(自然観察山行236)

9月15日(日) くもり
(集合) JR大垣駅9:00 (バス)
池ノ又林道終点登山口10:50 55
1 池ノ又林道終点登山口15:05
15 (バス) いび川温泉16:10 (入
浴) 16:50 (バス) 大垣駅17:50
(解散)
雨を心配したが、何とか免れ、
夜叉壁の景観を眺めることもでき
た。夜叉ヶ池に生息するヤシヤゲ
ンゴロウ保護のため、一帯は水生
昆虫生息地保護林に指定され、こ
の日もボランティアによる監視が
行われていた。池の周囲は木道が
敷設、ロープも張られて水辺には
近づけなくなっている。台風の影響
で、池は強風が吹き荒れていた。
(参加者) 稲津謙治 岩鶴健司
上田裕子 小田妙子 加納由紀子
栗柄崇吉 栗柄君子 小林 世
杉本 高 堀田輝子 森 美香子
牧 和夫 和田暢子
○中澤賢司博 ◎鷺見守康 (計15名)

富生・青蓮寺湖畔と布生山
(サイクリング&登山①)
9月20日(日) 晴れ
(集合) JR新大塚駅8:00 (バ
ス) 観音寺山10:30 登山口10:
40 50 峠分岐11:20 30 1 鬼ヶ
城11:50 (昼食) 12:45 峠分岐
13:00 1 鳥ヶ岳13:20 30 峠分
岐13:45 1 観音寺山門14:20 30
(バス) 福山温泉温泉老の湯15:
05 (入浴) 16:20 (バス) 新大塚
駅18:40 (解散)
沢筋と樹林帯の道をたどり、暑
さを苦にせず、展望抜群の鬼ヶ城
へ登る。病氣入院中の西條良彦さ
んを励ますため、参加者で寄せ書
きの色紙を回した。
(参加者) 中川光郎 大園加代子
平田輝美 夏山登子 伊東ナナ子
村上陽子 兼田幸子 金藤千恵子
本家洗子 大和 純 道平きわみ
巻田 晃 大和 純 道平きわみ
加藤浩二 塚本中次 小栗大直
岩鶴健子 宮西和子 菅 キヤウ
岡崎知子 川上久登 須藤浩子
志水明美 渡部和美 橋本敏子
中谷幸子 岩井登子 木内福文
大谷登子 栗柄君子 長沢佑美
小林 桂 小林暢子 田中 茂
○妹尾正一 ○松井明忠 (計38名)
◎木村太郎

9月16日(日) くもり

(集合) 近鉄名張駅11:00 (車)
中央公園11:30 50 (サイクリン
グ) 青蓮寺ダム12:10 古々12:
50 1 林道・深溝13:00 食袋 14:
00 1 林道終点14:40 登山口15:
10 (鞍馬) 布生山15:30 登山
口15:40 (サイクリング) 登山口
1 布生16:05 1 峠分岐16:15 比
奈知ダム17:00 中央公園17:30
(車) 結構が丘駅18:00 (解散)
二つのダム湖畔と舗装された静
かな林道に沿った溪流を眺めなが
らのサイクリングを楽しみ、布生
山に登った。残り少ない夏の溪流
で流しソートンをして自然を味わっ
た。

(参加者) 池田 茂 南 智恵子
吉田峰子 ◎山口敏明 (計4名)

京都北山・江文峠から観音山

(京都北山歩き124)
9月17日(日) 晴れ時々くもり
(集合) JR京都駅8:30 35
(バス) 戸寺9:31 50 1 江文峠
10:20 1 金剛山を鹿守する所10:
50 11:00 1 真長ヶ岳分岐11:10
1 美谷峠11:45 50 1 観音山12:
05 (昼食) 13:00 1 岩倉分岐13:
15 1 岩倉を原野する所14:00 (コ

ヒートタイム) 14:20 1 崇道神社下
山口14:50 1 崇道神社15:00 20
(解散) 観音三宅八幡駅15:37 45
(電車) 出町柳駅15:55

山中心地のさすくもり、風も
あって心地よい登山ができた。江
文峠から山頂に登って岩倉分岐ま
では昔ながらの歩きやすいハイキ
ングコース。八瀬の西尾根コース
も道がはっきりしてきてきた。途中、
岩倉から京都市街を展望する風の
あるピークで長い休憩をとってゆっ
くりした。

(参加者) 岩佐 修 金森節子
須藤浩子 橋原良彦 伊東ナナ子
君塚郁子 岡崎知子 藤原由美子
岩田育士 中島 隆 小坂さゆり
向井克己 小池 隆 武部美奈子
内田昭彦 武井洋子 今村あやの
中岡寛子 蓮井洋子 野里マン代
井上恭子 本間 隆 松上美代子
永島律子 林 信男 竹内喜久子
水谷和子 若林文夫 市岡晴美
川上久登 宮野哲郎 宮野敏子
渡部和美 湯浅康夫 和田直樹
余谷 昭 小谷和子 ○長比裕美
○安倉正勝 ◎村田智俊 (計10名)

台高・古ヶ丸山

9月18日(日) 夜 19日(日)

京都丹波・鬼ヶ城
(ファミリーハイキング109)

9月20日(日) 晴れ

9月20日(日) 晴れ
(集合) JR新大塚駅8:00 (バ
ス) 観音寺山10:30 登山口10:
40 50 峠分岐11:20 30 1 鬼ヶ
城11:50 (昼食) 12:45 峠分岐
13:00 1 鳥ヶ岳13:20 30 峠分
岐13:45 1 観音寺山門14:20 30
(バス) 福山温泉温泉老の湯15:
05 (入浴) 16:20 (バス) 新大塚
駅18:40 (解散)
沢筋と樹林帯の道をたどり、暑
さを苦にせず、展望抜群の鬼ヶ城
へ登る。病氣入院中の西條良彦さ
んを励ますため、参加者で寄せ書
きの色紙を回した。
(参加者) 中川光郎 大園加代子
平田輝美 夏山登子 伊東ナナ子
村上陽子 兼田幸子 金藤千恵子
本家洗子 大和 純 道平きわみ
巻田 晃 大和 純 道平きわみ
加藤浩二 塚本中次 小栗大直
岩鶴健子 宮西和子 菅 キヤウ
岡崎知子 川上久登 須藤浩子
志水明美 渡部和美 橋本敏子
中谷幸子 岩井登子 木内福文
大谷登子 栗柄君子 長沢佑美
小林 桂 小林暢子 田中 茂
○妹尾正一 ○松井明忠 (計38名)
◎木村太郎

滝谷山・サンヤリ・天狗堂

(鈴鹿を歩く277)

9月23日(日) くもりのち雨

(集合) 君ヶ畑広場8・20(車)

ミノガ峠奥林道広場9・20(滝谷山9・30)サンヤリ12・00(昼食)12・50(天狗堂)14・00(君ヶ畑広場)15・40(解散)

ミノガ峠奥の林道広場から尾根を滝谷山へ、その先はアップダウンの多い尾根が天狗堂まで続き、ヘトヘト。午後から雨になったが、ママコナの咲く尾根から天狗堂への登りは幻想的なブナの深い樹林で最高。宮坂峠はカットして下山した。久しぶりの長大な尾根縦走に満足した。

- (参加者) 服部 堯 多田 徳 沖 伸 金谷 昭 中井昭二 磯部 純 武村千鶴 岩瀬井 豊 仲谷和司 三上伸夫 福嶋 章 栗本敏夫 村田紀生 稲津謙治 西村文男 吉岡 仁 石田真由美 櫻田勝利 青岡 仁 一芝美知子 伊東弘隆 大西啓郎 小松志信

大比叡から瓜生山 (火曜ハイク35)

9月25日(火) くもり時々小雨

(集合) 飯田八瀬比叡山口9・00

10・05(西山峠)10・10(西山塔)11・00(阿弥陀堂)11・15(大比叡)11・45(昼食)12・35(水飲)13・30(大鳥居)13・55(瓜生山)14・45(15・00(大山根神社)15・20(北白川仕伏)15・40(解散)

前例のない残雪の続くなかでの山行。コースはゆるやかだが少しロング。歩き馴れた道だが、コースを要すると新しい発見もある。大鳥居の周辺は治水工事が終わりを整備されている。根本中堂の無料休憩所内の食事は注意されるかも……気をつけてください。

- (参加者) 大林 進 堀内信智 上山正二 中村英雄 巻田 晃 大和 紘 村井寿和 加納由紀子 青木一雄 中川節子 今村あやの 妹尾正二 石原君子 船本裕巳子

伊賀谷山から八丁平 (北山ちよっと歩き91)

20〜28(一次)の鞍部11・40(昼食)

12・30(二)の谷林道13・10(八丁平)13・25(八丁平)14・00(中村乗越)

14・18(伊賀谷林道)15・10(葛川)15・45(16・05(バス)京高駅)17・15(解散)

今年4月雨で中止した山行のりベンジ。快晴無風のすばらしい空のもと、山行を楽しんだ。快調な足並みで、急登の伊賀谷山を1時間半で登り、時間に余裕ができて高層展望・八丁車道コースもゆっくりと楽しんだ。残雪が長かった影響か、トリカブト・オタカラコウなどは見られなかった。秋の山野草の開花は少なかった。

- (参加者) 平田輝美 濱本美和恵 竹田善英 森本幹雄 加藤浩一 若林文夫 岩本彰子 野末あや子 木村 豊 松田和恵 後藤鶴子 大和 紘 塚本忠次 松上美代子 栗岡亨子 平田和子 栗橋君子 河内正治 林 正義 魚 渡部和志 林 正義 多田 徳 小林 桂 和泉元二 原 みとえ 大東 哲 志水明美 佐々木幸子 本間 隆 松本忠雄 鍛田トシエ 湯浅康夫 武村千鶴 湯浅次男 安良順子 石原君子 岩野 明

○沖 伸 ○谷 守 (計17名)

○金谷 昭

京都北山・杖数ヶ岳 (平日ふれあいハイク64)

9月27日(木) くもり (集合) J R京都駅7・30(バス)六ノ谷登壇路下8・40(大谷峠)9・20(高尾線)10・45(杖数ヶ岳)11・20(昼食)12・30(栗原峠)13・50(岩屋山)14・15(緑坂峠)15・00(大森西町)15・30(バス)京都駅17・00(解散)

杖数ヶ岳上あたりにササが見当たらない。いったいどうなったのだろうか。きのこがたくさんあり名前を覚えてもらったが、御草・紫茸に何とか見覚え、もはや名前を忘れていた。

- (参加者) 村井寿和 中川節子 岩本彰子 神 昭司 神 美栄子 妹尾正二 上田裕子 野末あや子 須藤孝子 藍田善博 水貫真砂子 岩村春子 木内範文 船本裕巳子 栗橋君子 栗岡亨子 前田初雄 林 弘毅 夏山春子 ○川上久堅 ○岩井恒夫 (計21名)

若狭の山・千石山 (9月29日(土) くもり)

(集合) 若狭町上中支所9・00

(車) 瓜割の滝9・20(林道終点)10・10(15・42)10・50(千石山)11・30(昼食)12・40(15・42)13・10(林道終点)13・45(瓜割の滝)14・40(15・00(解散))

ちょうどこの日より秋の気候に入っただよ、涼しい登山日和。林道歩き、イバラのやぶ過ぎ、明るい樹間とバラエティな山行。広い鞍部で楽しい昼食。「千の風になつて」と「口ぶえふいて」の大合唱で盛り上がった。

- (参加者) 堀江房樹 友田美保子 磯部 純 鈴木昭一 船本裕巳子 山形 明 村井寿和 南 智恵子 中川節子 緒方明子 光川二美子 岩本彰子 谷 守 石原君子 須藤孝子 松村雅子 北村つねみ 川島陽美 加藤剛計 野末あや子 萩野野子 関近正男 (計23名)

白山・御前峰から別山と赤鬼山 (10月6日(土) 8日(日) 2泊3日) (集合) J R京都駅7・20(バス) 白湖水大取7・30(昼食) 白湖水大取7・30(バス) 12・15(30)大倉山遊覧小径14・55(遊覧センター)16・40(日)

9月26日(水) 室堂センター15・00

10(御前峰)5・40(6・00(室堂)センター)6・30(朝食)7・20(トビ岩)コース(南電ヶ岳)8・30(別山)11・30(40(別山)12・10(昼食)12・50(三ノ峰)13・40(六本峠)15・30(40(水尾)16・50(17・00(バス)鳩ヶ湯温泉)17・20(泊)

6日、東海北陸道が渋滞で登山口への到着が遅延した。焦りと日暮れの寒さでリーダーが体調を崩して、迷惑をかけた。皆は予想以上に頑調で17時に室堂センターに着いた。7日、御前峰でこま先を見て、雄大な別山を越え、三ノ峰から鳩ヶ湯新道をくぐった。8日、朝から本格的な雨。赤鬼山登山は中止して帰った。

- (参加者) 多賀久子 村井寿和 中川節子 小谷和子 堀内信智 田尾 肇 川田洋子 仲谷和司 林 一夫 金森節子 野末あや子 武村千鶴 宮野野郎 小川富士雄 森 理代 渡藤 肇 村田はる江 長沢佑美 和田祥子 櫻樹穂一郎

小松志信 松村雅子 船本裕巳子

北村正和 北村 梢 加納由紀子 鈴木吉和 内海 緑 松上美代子 金本美子 井上葛子 宮崎由美子 堀越武敏 ○栗比裕美 ○安倉止勝 ○村田智俊 (計20名)

湖北・呉松の峰 (地図読み山行83) 10月7日(日) 晴れ (集合) J R木ノ本駅9・35(登山口)9・55(10・05(伐採跡)10・30(40(呉松の峰)11・35(昼食)12・45(普山寺)13・15(25(普山寺)13・25(14・10(分岐)14・25(坂口)15・15(15(木ノ本)15・45(16・18(車中解散))

10月に入ったというのにまだ残暑が続いている。ジグザグの山道を登り切ると気持ちのいい尾根道に変わる。コウヤボウキ・ホツツジの花が迎えてくれるな歩いて一等三角点の頂上へ。コンパスの使い方と地形図の読み方を勉強した秋の里山ハイキングだった。

- (参加者) 堀田輝子 堀内信智 木内範文 川上久堅 横川ゆり子 渡部和英 向井克巳 岩本いずみ 中谷幸子 ○豊元一彦 (計10名)

10月7日(日) 晴れ

(集合) 向倉入口手前広場8・00 (車) 向倉8・20(向山)10・00(杉峠)10・10(15・57)池10・55(道跡)11・30(昼食)12・30(広場)14・30(解散)

向倉はキンモクセイの香りがいっぱい。ノボリオと南尾根にはミカエリソウ・カシワバハグマ・アケボノソウ等の秋の花を愛した。尾根の並木道をおわじたカレンデュラの深い樹林は天下一品だ。遺跡の森で昼食後、下りは向倉へ引き返す組と中村へ直下りする組に分かれ、一気に下りた。セラピーの尾根を楽しく歩いた。

- (参加者) 服部 堯 岩本彰子 谷 守 大西啓郎 堀野太一郎 北村正美 加藤剛計 石田真由美 栗本敏夫 櫻田勝利 ○後藤康幸 ○山田景二 ○岩野 明 (計17名)

雄松山荘道からシャカ岳 (10月7日(日) 晴れ) (集合) J R近江舞子駅9・05(雄松山荘道)登山口9・35(45)大津ワケル道)10・53(岩屋山)36(旧ワケル道)12・00(1シャ

カ街12・10(朝食)12・55ヤケ
オ山13・25(朝食)横谷分岐14・02
オ養植園15・05鹿ヶ瀬バス停15・
25(朝食)近江高野駅15・59
(解散)

雄松山荘道は駅から取付点まで
のルートがややわかり難いが、途
中に二ヶ所、道標が来ている。
登山リフトが無くなってからは登
る人が少なくなった北比良だが、
シヤカ岳周辺では外人のグループ
にも出会い、その他天崩連れ、単
独行など、連休とあってけっこう
登山者が多い。横谷は比良では珍
しく穏やかで静かな谷だ。みんな
でルートを採しながらの谷くぐり
は楽しかった。

(参加者) 上田裕子 小栗大直
馬籠忠男 岩田育士 水見真砂子
中島隆 有兼 野里マツ代
蓮井洋子 福嗣 章 竹内以久子
沖 伸 和田純子 大園加代子
森 健治 妹尾公代 大園加代子
安藤正雄 牧 和夫 山野志保江
小山明美 三野 旭 ○木間 隆
◎秦 康夫 (計24名)

台高・仙千代ヶ峰
(ファミリーハイキング)
10月11日(木) くもりのち晴れ

かけての植林帯がポイントになる。
特にP1082付近の植林モノレール
からP902への下降時は踏み
跡がほとんど無く、要注意。GPS
を利用しないときは、コンパス
による確認とマークをしっかり付
けるべきだろう。我々も(予想通り
り)下降で迷ったが、メンバー
が力を合わせて乗り切る。充実し
たよい山行ができた。

(参加者) 大村優子 佐古田文字
岐田二郎 上西信子 湯浅みや子
井沢重正 西原辰夫 南 智恵子
大石吉彦 林 一夫 祝 真樹子
吉田峰子 山西 治 岸本卓三
岡平くみ子 ◎田中賢治
(計16名)

上醍醐・修験行者道探勝
(火曜ハイク36)

10月16日(祝) 晴れ
(集合) 日野養生院9・15(30)
地蔵広場10・10(15)日野岳10・
25(ユウレイ峠)10・45(50)醍醐
山回廊道取付11・15(本宮)峰子
前12・00(朝食)12・45(東の岨
き)12・50(13)00(開山堂)13・30
(40)高塚山14・30(40)長尾天
満宮15・35(45)醍醐寺15・50
(解散)

(集合) JR新大阪駅7・00(バス)
元橋登山口11・45(50)倉元左
岸尾根頭13・40(朝食)14・10(1
仙千代ヶ峰)14・50(15)00(倉元
谷左岸尾根頭)15・40(45)倉元橋
登山口16・50(17)00(新大杉橋
奥駐車地)17・20(バス)近鉄橿原
神宮前駅20・30(バス)大蔵駅21・
20(解散)

雨上りの植林を登りつめた後線
では、雲が切れ青空が覗きだした。
自然林の尾根道では太陽が差し始
め、仙千代ヶ峰からは古ヶ丸山等
の山並が浮かび上がった。

(参加者) 堅田 弘 伊東ナナ子
木村 豊 岐田二郎 成川みさお
本間昭恵 村上嘉子 金藤千恵子
繁田広美 岩城豊子 中澤ちず子
岡崎知子 堀内預智 道平さわか
栗橋崇吉 栗橋裕子 菅 キヤウ
辻 陽子 渡部和美 野末あや子
中谷孝子 山根弘美 村末あや江
志水明美 富田満子 大谷景子
竹田勲英 三輪直文 加藤浩一
下野正年 下藤利恵 林 久美子
須藤啓子 岩村登子 大園加代子
田島輝昭 ○川上久堅
◎妹尾正一 ○松井明忠
◎木村太郎 (計40名)

飛騨・船山
(自然観察山行237)
10月13日(出) ◎鷺見寺庫
*都合で中止しました。

白山北方・妙法山と三方嶺山
(展望の山37)
10月13日(出) 1泊2日
(13日)晴れ(集合) JR西岐
早駅6・50(岐阜羽島駅)7・10
(重) 三方岩駐車場9・30(三方
岩)10・10(野谷社)11・20(1
もうせん平)11・50(妙法山)12・45
(朝食)13・10(もうせん平)14・
00(野谷社)14・40(三法岩)15・
45(駐車場)16・10(30(重)
平瀬温泉)17・10(入浴)18・00
(重) 温泉)18・15(泊)
(14日)晴れ(前)6・30(重)三
方嶺山への林道)6・45(登山口)7・
15(16)00(尾根)9・15(三方
嶺山)10・10(朝食)11・30(16
00(尾根)12・40(登山口)14・00
林道)14・20(重)平瀬温泉
14・40(入浴)15・30(重)西岐
早駅17・30(解散)

紅葉も見頃で良かったが、妙法
山へは我々16人だけだった。三方
嶺山の登山道はずいぶん崩れてい
て先回よりも崩壊が目立ち、途中

の三角点も一瞥見当たらず、入山
したのは7人グループと我々の総
計17名だった。

(参加者) 鳥居信吾 北村つねみ
沖 伸 萩野暢子 光川一美子
佐藤文枝 三井絃一 湯浅次男
朝倉繁雄 ◎山田明男
(13日)の山田妙子 高野秀彦
小林一世 緒方由子 生越恵美子
伊藤恵美子 (計16名)

朽木・駒ヶ岳から池原山
(近江の山シリーズ④)
10月14日(日) ◎森脇貞義
*雨天のため中止しました。

日野からの道は里山の雰囲気
残っている。ユウレイ峠に水晶谷
何かいれがあるようだ。回峰道
は、階段、醍醐寺の通拝所、絶壁
状の東の岨と、自然石の奥の院な
ど、修行的場としての面影が残っ
ている。天気にも恵まれて最高の山
日和だった。

(参加者) 大林 進 松上美代子
野間起夫 杉本英一 小川富士雄
金谷 昭 荒木邦彦 荒木悠美子
山根弘美 夏山春子 楳田トシエ
本間登子 塚本忠次 久馬麻登詞
巻田 晃 若林文夫 光川一美子
清 紀嘉 川上久堅 友田美保子
小松志信 井上登美 井上由紀晴
渡部和美 中川節子 加納由紀子
松本忠雄 後藤純子 今村あやの
村井寿和 加藤蘭計 船木裕子
関口恵子 竹田善英 ○青木一雄
○沖 伸 ◎仲谷礼司(計27名)

朽木 百里ヶ岳
(平日ふれあいハイク65)

10月18日(日) 晴れ
(集合) JR京都駅7・30(バス)
小入谷駐9・40(805)10・
50(百里ヶ岳)11・50(朝食)12・
50(木地山)13・40(木地山)バス
停15・40(バス)京都駅18・00

◎稲垣逸夫 (計9名)

湖北の山・安蔵山
10月20日(出) 晴れ時々曇り
(集合) 中河内中央広場9・00
(車) 尾羽梨登山口9・25(安蔵山11・25(昼食)12・30)尾羽梨登山口13・50(14・00(解散))
新しく開かれた安蔵山西尾根を往復。奥深い湖北の山もこれからは静かでさわやかな登山日和だった。(参加者)堀江房彦 磯部 純 要岡孝子 松村雅子 光川二美子 岩本彩子 加藤隆計 南 智恵子 神野孝允 中川節子 谷 守 横井 徹 横井恭子 村井寿和 杉本英一 関近正男 武藤由美子 ◎高島伸浩 (計18名)

美濃・魚金山

(自然観察山行238)
10月20日(出) 晴れ

(集合) J R大垣駅9・00(レンタカー)のりこし峠10・05(高尾山10・55)魚金山12・30(昼食)13・10(高尾山14・25)のりこし峠15・00(15(車)池田温泉16・10(入浴)16・50(車)大垣市岡崎美 岩田育士 都築由美子 小池一郎 下郡正年 船本裕子 前田初雄 福岡 章 夏山春子 ◎奥比裕美 ○安倉正勝 ◎村田智俊 (計40名)

旧花葺峠から天狗杉・鞍馬山北尾根(北山ちよと歩き92)
10月24日(出) 晴れ
(集合) 出町柳駅7・50(バス)北大路駅8・02(バス)花葺峠9・13(20)天狗杉9・40(55)旧花葺峠10・00(07)大伐開地10・45(55)鞍馬山(経塚)11・56(鞍馬寺大杉樹現12・18(昼食)13・20)般若貴船口駅14・12(解散)
参加者の要望により旧峠道経由を止め、花葺新峠より天狗杉に直登。山頂付近のササやぶはすっかり枯れ歩きやすくなっている。旧花葺峠は往年の面影はそのまま。尾根中間の大伐開地では北山の大自然を楽しんだが、尾根道の自然林の紅葉は始まったばかりで今年は遅くなりそうである。大杉樹現にて昼食後、鞍馬寺参拝希望者のため一応解散としたが、ほとんどの人は、鞍馬尾根を末端まで歩き通し、貴船口駅に無事下り立った。(参加者)野間超夫 森田久子

10月21日(出) 晴れ

高取山・猿ヶ山・高畑
(集合) 河内線寺院前広場8・30(入浴)9・00(1カワタニ峠9・35)高取山11・00(猿ヶ山11・35(昼食)12・30)高畑12・55(中村14・30)広畑15・00(解散)
爽やかな秋晴れ、登山道にはツリフネソウ・サラシナショウマ・シユウメイギク・アケボノソウの花々。稜線はセラフエリの深い樹林が続き、カレンフェルトの大バノラマ。ヤブサンザシの赤い実やカラタチの実を楽しむことができ、楽しく歩いた。(参加者)有兼 登 小林 修 岩本彩子 稲津謙治 栗本敏夫

10月21日(出) 晴れ

高取山・猿ヶ山・高畑
(集合) 河内線寺院前広場8・30(入浴)9・00(1カワタニ峠9・35)高取山11・00(猿ヶ山11・35(昼食)12・30)高畑12・55(中村14・30)広畑15・00(解散)
爽やかな秋晴れ、登山道にはツリフネソウ・サラシナショウマ・シユウメイギク・アケボノソウの花々。稜線はセラフエリの深い樹林が続き、カレンフェルトの大バノラマ。ヤブサンザシの赤い実やカラタチの実を楽しむことができ、楽しく歩いた。(参加者)有兼 登 小林 修 岩本彩子 稲津謙治 栗本敏夫

10月21日(出) 晴れ

安澤正雄 森 健治 佐古田文字 宮野哲郎 樺田勝利 奥野太一郎 大河節郎 一芝義雄 一芝美知子 谷 守 市田政子 炭田明美 ◎後藤康幸 ○山田景三 ◎若野 明 (計20名)

10月21日(出) 晴れ

湖東・猪子山から織山
(ファミリーハイキング)
(集合) J R能登川駅9・40(50)上山天神社10・10(15)北向岩屋観音10・30(猪子山10・35(40)雨宮龍神社11・25(昼食)12・10)地獄越12・20(織山13・10)20(観音越13・40)45(観音止寺13・50)14・05(織山14・35)14(鉄塔下15・00)05(北麓越15・20)J R安土駅16・00(解散)

10月21日(出) 晴れ

岩屋観音の猪子山から琵琶湖
比良山・湖東の山々、雲仙山を眺めながら尾根道をたどる。ススキが揺れる秋の風情に触れて、地獄越の急坂を織山へ登った。(参加者)若松 寛 若松朝子 本間昭重 村上嘉子 中澤ちず子 矢野 稔 稲本芳雄 森 美香子 飯田正勝 金森節子 伊東ナナ子 青木一雄 塚本忠次 田中三恵子 長沢佑美 柳川常雄 大槻一夫

10月21日(出) 晴れ

中村英雄 岩城豊子 宮路ちへ子 林 信男 川上久堅 ○妹尾一正 ◎木村太郎 (計24名)
八原から八ヶ峰
(京都北山歩き125)
10月21日(出) 晴れ
(集合) J R京都駅7・40(バス)八原登山口9・50(10・00)知井坂峠11・10(八ヶ峰11・25(昼食)12・20)旅行村分岐12・50(五波峠13・40)50(バス)美山自然文化村「河鹿荘」14・10(入浴)15・30(バス)京都駅17・40(解散)
遊歩道並みの登山道を登りつめれば、大展望の八ヶ峰だった。北方は日本海、青葉山、頭巾山など南方には北山が波打っている。ブナ林の尾根を五波峠へくだり、入浴して帰った。(参加者)和田博子 濱本美和恵 岡崎知子 繁田広美 池田美恵子 堀内賢智 渡辺民子 野末あや子 萩野暢子 小栗大直 後藤裕子 岩村孝子 佐々木トシ子 森田久子 須藤淳子 野間超夫 志木明美 岩崎健司 平田和子 栗橋崇吉 栗橋君子 大岡加代子 首藤君子 山口敬明 楠原良彦 渡部和美 君塚徳子 渡部百合江

10月21日(出) 晴れ

湖東・猪子山から織山
(ファミリーハイキング)
(集合) J R能登川駅9・40(50)上山天神社10・10(15)北向岩屋観音10・30(猪子山10・35(40)雨宮龍神社11・25(昼食)12・10)地獄越12・20(織山13・10)20(観音越13・40)45(観音止寺13・50)14・05(織山14・35)14(鉄塔下15・00)05(北麓越15・20)J R安土駅16・00(解散)

10月21日(出) 晴れ

岩屋観音の猪子山から琵琶湖
比良山・湖東の山々、雲仙山を眺めながら尾根道をたどる。ススキが揺れる秋の風情に触れて、地獄越の急坂を織山へ登った。(参加者)若松 寛 若松朝子 本間昭重 村上嘉子 中澤ちず子 矢野 稔 稲本芳雄 森 美香子 飯田正勝 金森節子 伊東ナナ子 青木一雄 塚本忠次 田中三恵子 長沢佑美 柳川常雄 大槻一夫

28日(出) 晴れ

さきりの里8・50(9・05(バス)風伝峠登り口9・10(20)風伝峠登り口10・00(県道)通り峠登り口10・20(30)通り峠11・00(千枚田展望所11・25)40(通り峠11・50)丸山橋12・00(バス)丸山千枚田休憩所12・10(昼食)12・45(バス)湖ノ口温泉13・15(入浴)14・10(バス)難波駅19・20(解散)

27日(出) 朝から雨

27日、朝から雨だったが、大吹峠登り口に暮く頃にはちょうどやんだ。大吹峠は石畳と竹林が美しい。松本峠から古道を離れ、鬼ヶ城へくだったが、台風の影響で波が高く遊歩道は通行止。バスで獅子岩へ行き見物後、花の宿神社まで千里浜を歩いた。28日、構理峠越えが土砂崩れで通行止。風伝峠越えから歩き始め、通り峠を越えて丸山千枚田にくだった。通り峠から百七十五段の階段を上った展望所から千枚田の美しい欄干を眼下に見た。帰路は湯宿場で名高い湯ノ口温泉で入浴。名物のトロッコは工事で10月末まで運休だった。(参加者)白田忠子 武部美美子 岡崎知子 高橋裕治 河原美代子

27日(集合)

近鉄榛原駅21・15(黒滝道の駅22・30(テント泊)28日)晴れ 黒滝(車) 岩本谷 出谷7・30(1クモジ尾分岐9・35)稲村ヶ岳9・45(10・00)パブリコノ頭12・05(昼食)13・00(1)稲村ヶ岳15・00(岩本谷出谷)25(車)下市口駅18・25(解散)
当初予定のパブリコノ頭尾根ルートは、時間的に厳しかったためロモジ尾から稲村ヶ岳経由の往復コースに変更した。稲村ヶ岳からは静かな尾根になるが、踏み跡は細々と続いていて、樹林も明るく見通しがきいて歩きやすい。ルートファインディングの練習にと、パーティのリードは全員が交替して行ったが、安全確実なルート選定ができた。(参加者)大村俊子 岡平くみ子

27日(集合)

近鉄榛原駅21・15(黒滝道の駅22・30(テント泊)28日)晴れ 黒滝(車) 岩本谷 出谷7・30(1クモジ尾分岐9・35)稲村ヶ岳9・45(10・00)パブリコノ頭12・05(昼食)13・00(1)稲村ヶ岳15・00(岩本谷出谷)25(車)下市口駅18・25(解散)
当初予定のパブリコノ頭尾根ルートは、時間的に厳しかったためロモジ尾から稲村ヶ岳経由の往復コースに変更した。稲村ヶ岳からは静かな尾根になるが、踏み跡は細々と続いていて、樹林も明るく見通しがきいて歩きやすい。ルートファインディングの練習にと、パーティのリードは全員が交替して行ったが、安全確実なルート選定ができた。(参加者)大村俊子 岡平くみ子

中井昭一 伊藤喜久男
◎田中賢治 (計8名)

但馬・水ノ山
10月28日(日) 晴れ

(集合) JRR加古川駅8・40 (バ)
① 仙谷登山口11・00(谷入口)11・
17(綾線)12・30(水ノ山)12・50
(昼食)13・45(三の丸)14・25(ス
スキー場)15・15(観察路)入口
15・30(登山口)16・10(ハス
加古川駅)19・10(解散)

晴天に恵まれて、錦秋の水ノ山
を満喫、紅葉が一番美しいときだ
たが、時間がなくてゆっくり歩け
なかったことが悔やまれた。

(参加者) 八木四郎 前田喜久子
村井寿和 稲津謙治 山口充代
大林 進 小山誠次 堀尻香織
栗栖崇吉 森 瑞代 池田美恵子
岩田育士 小松友信 西 茂子
岩崎健司 中川節子 竹内正子
福岡 章 小池一郎 首藤育子
◎岡田 昇 ◎古賀慶一(計22名)

三重・錫杖岳と錫杖湖畔
(サイクリング&登山②)

10月28日(日) 晴れ
(集合) JRR加太駅8・55 (車)

新ハイキングクラブ関西入会案内

当会は雑誌「新ハイキング関西
の山」(隔月刊・年6号発行)の
定期購読者を中心にしたハイキン
グの集いです。山の知識を深め、
健康な身体をつくり、自然のな
を歩く喜びとともに広めましょう。
「新ハイキングクラブ」は昭和
25年発足以来、東京を中心に57年
間余、好評のうちに活動していま
す。関西は平成3年秋発足で17年
目に入りますが、すでに数十名の
会員が活動しています。

会員は当会の山行例会に優先し
て参加できます。多くの仲間たち
とハイキングを楽しみませんか。
会員には「新ハイキング関西の
山」を毎月お届けします。

係(リーダー)はすべて無償の
奉仕で、各自で切符を買い茶代を
払い、宿泊料もすべてワリカンで
す。会員が例会に参加されるとき
は、山行運営費として400円を支
出していただきます。

から始めてみたい人、すでにベテ
ランの人みなさんご入会いただ
けます。
入会金 5000円(ワッペン共
年会費 3300円(送料共
入会の申し込み(随時)はこの
雑誌に挿入の振替用紙をご利用
ください。第何号からの送本かを忘
れずにご記入ください。
なお、定期購読をご希望される
方も会員になっていただきます。
お友達にお手元が届けます。
紹介くだされば、「新ハイキング
関西の山」最新号を見本誌として
無料で送ります。

○山行係(リーダー)募集
係は2ヶ月に1回程度の山
行例会を計画・実施していただき
ます。

無償の奉仕ですが、やりがいも
あり、楽しいものです。経験のある
方、やってみたいと思われる方
は、新ハイキング関西までご連絡
ください。「リーダー必携」をご
参考にお送りします。

30日 シンガポール空港9・10
カトマンズ空港11・50(ガドガディ
小学校の校長先生等に学用品・図
書資金のプレゼンと交流会)14・
00(市内観光)15・00(ホテル泊
③1日)カトマンズ空港11・00
ポカラ空港11・30(バス)カール
13・40(タンパス)17・00(ロッジ
泊)

①日) ダンプス8・15(ポタナ
10・00)30(タンチ)12・20
マジガウン13・00(14・00)シャ
ウリバザール16・15(ロッジ泊)
②日) シャウリバザール7・15
(バス) ナヤアル9・00(ポカラ
市内観光)ポカラ空港14・50(カ
トマンズ空港)15・30(ホテル泊)
③日) (午前中ヒマラヤ遊覧飛
行・チャングナラヤン観光)カト
マンズ空港13・15(シンガポール
空港)20・30(乗り継ぎ待ち)
④日) シンガポール空港1・10
関西空港8・15(解散)

時間は現地時間
*時間 空気が町もきれいなシンガポー
ルから、空気が町も汚いカトマン
ズへ降り立ち、国力の違いをま
感じた。しかし飛行機の中から見
えるエベレストを初めとするヒマ

ラヤ山脈の延々たる連なりは、そ
れだけでネパールを訪れた価値が
あるという。3日間のトレッ
キングは一時ヒルに取りつかれた
騒動であったが、ロッジの目の前
に広がるマチャプチャレ・アナン
プルナサウス・ヒウンチュリリの威
容さには圧倒された。子供たちの
くたくない笑顔、米や粟の刈取
りや牛を使った農耕、東部では菜
の花や蕎麦の花が満開など、ネパ
ールの風景や大自然を満喫した。
(参加者) 高島伸浩 高島洋子
園近正男 澤井俊子 杉野茂樹
福岡紀子 狩野東彦 竹越富美江
須藤優子 船木裕巳子(計10名)
(9・10月の参加 延845名)

○新入会員(定期購読者)紹介
新しいお仲間みなさんです。
会員番号5321番から5329
番まで(敬称略)。
(三重) 乙部耕治
湯口靖孝 橋地澄子
小寺三木夫
(京都) 鳥田 廣
(大阪) 武田建治 小池博司
(奈良) 竹村英樹 藤原良子 (9名)

訂正とお詫び
左記の通り訂正しま
す。

○97号(晩秋)
* (口絵3ページ) 2行目「誓多
淋」→「誓多林」
* 12ページ上段本文2・3行目
「常であるが」→「常であった
が」
* 15ページ中段7行目「ホノキ」
→「ホノキ」 同下段16行目
「悲観」→「悲嘆」 同下段20行目
「移つせば」→「移せば」
* 27ページ付近路図中「小幡神社」
→「八幡神社」
* 29ページ下段1行目「往復分岐」
→「往路分岐」
* 34ページ中段5行目「シジュカ
ラ」→「シジュウカラ」
* 50ページ下段5行「シンジソウ

↓「タイモンジソウ」
* 51ページ中段最終行「マチガ平
谷」→「マキガ平谷」
* 55ページ上段本文3行目「麗杉
荘のルビ(れいざんそう)」→
「れいざんそう」
* 56ページ本文3・4行目「めず
らし山頂」→「めずらしい山頂」
* 63ページ上段付近路図中「御池
川林道」→「御池林道」 同「ミ
ニガ峠」→「ミノガ峠」
* 78ページ中段15行目「左の」
→「右の」
* 79ページ付近路図中「大宮谷林
道」→「大宮林道」 同下段20行
目「三石岳(657・7)」→
「三石岳(675・7)」
* 86ページ下段19行目「青風のル
ビ」おあらし」→「おあらし
し」
* 101ページ二段目・三段目の「田
尾城址」→「田原城址」 (編集室)

告知
2008年1・2月号新巻号より
本誌の定価を500円(税別)に改
定しました。年間購読料(定価)に改
は3300円になります。
*本巻より巻頭の手紙料金(本巻
M利用80円・窓口120円)はみな
さまのご負担となります。